

升田部落をたゞの三年間に見違えるほど立派な部落にした。二宮尊徳翁も野州櫻町を、七年間に豊かな部落に立て直した。世界一番の貧乏な丁抹農村も、共働渦巻形の原則を實行して、二十五年の間に世界第一の豊かな農村に改まつたのである。

丁抹の農村が立派に立ち直るに二十五年間わ長過ぎる。しかし其長いのは、丁抹の全農村を豊にするに要した年數であり、一の部落を立て直すにわ、丁抹でも二年か三年の辛棒しんぼうでよかつた。丁抹のユトランジャ州ヘッヂンゴ部落が、二年か三年辛棒して、共働渦巻形の原則により完全に立ち直つたとき、それを見た隣の部落が次ぎえ次ぎえと立ち直り、丁抹全體の疲弊した農村が、其善い實例を見習つて、全部が全部、悉く立ち直るのに、二十五年を要したのである。我國農村も、一部落を立ち直らすにわ、二年か三年も渦巻の原則を確實に實行しさえすれば十分である。しかし其實例に従つて隣りから隣りへと、日本全體の農村が立ち直るにわ、國が廣いだけ三十年も四十年もかかるであらう。

共働渦巻の原則を最初に實行したものは、英吉利ロチデル市の先驅者二十八名であつた。彼等わ都會労働者である爲に、農民の如く自分で生産することが出來ず、消費組合から始め、日用品の販賣利益を積立て、渦巻形に年々と資本を積んで、事業を擴張して行き、今から八十數年前の千八百四十四年に二十八名が資本金二百八十圓で始めた共働消費組合が、今日でわ五百萬家族の労働者を渦巻形

に巻き込み、資本金も數億萬圓となり、一年の販賣高が二十億萬圓を超えている。彼等が開業した最初數年の資本金と剩餘利益を掲げるならば左の通りである。

年次	年頭の資本金(磅)	一年の純剩餘(磅)
一八四五年	二八	二二
一八四六年	一八一	八〇
一八四七年	二五二	七二
一八四八年	二八六	一一七
一八四九年	三九七	五六一
一八五〇年	一、一九三	八八〇

ロチデルの共働消費組合でわ、小賣商人の取つていた利益を、共力一致の共働組合の方法によつて、日用品を消費する労働者の手に取り戻すことにしたわけであるが、それでも資本金に對し、毎年十割近い純剩餘があつたのである。農民わ生産するのであるから、共力一致して取り返えした資本金を、農事改良や、牧畜や、養鶏や、加工の製造工業を循環して最も有効に利用して行けば、共働耕作等により節約された剩餘勞力で賃銀いらすにやるのであるから、注ぎ込んだ資金額に當る位の新しい生産物が得られない筈わない。フォードなどわ労働者に高い賃銀を支拂つても、なを一代に四十億萬圓も積み上げたのである。

世界中でも資本が豊かで、生産条件のよい英米獨佛の各國で、年々と國の富が渦卷形に増加している。ジイドと云う經濟學者の報告によると、佛蘭西の國民所得の年額わ三百億法であるのに、年々其中の四五十億法が増加資本に積上げられ、英國でも獨逸でも國民所得わ年額五六百億法であるが、其中の八九十億法が、また年々資本の増加に積上げられてゐることである。だから金が節約によつて積み上ると思つて、氣の小さい東洋流の古い考え方であり、生産剩餘を食い潰さず、確實に之を資本化して、最有効に利用する時のみ、渦卷形に年々と増加して積み上るのである。人口わ年々激増するに拘わらず資本わ少しも増加せず、逆に五十億萬圓以上の借金を背負わされている我國農民わ大に反省しなければならぬ。人口が増加すれば、少なくともそれに應じ、増加する人々の頭割位わ、部落でも村でも國でも、生産資本を増加さないと、人ばかり殖え、道具も機械も家も家畜も、一こを殖えず、頭割りにした生産資本が減じたことになり、能率わ劣り、収入わ減じ、それで農村わ疲弊し、日本全體の行詰りになつたのである。共働渦卷形の原則わ、不思議でも奇妙でもなく、斯した經濟學の原理原則を少しも知らず、賢い都會の商工業者や金融資本家に搾られていた農民が、餘りにも愚に無自覺であつたのである。

學者や評論家や都會の者等わ、農民を馬鹿にして置かぬと、全人口の六割の都會人が贅澤に食えぬから、農民から自覺を奪い、農民を都會の學者や資本家や労働者の指導原理に引き廻すために私の述べることにケチを付けて、間違つた國粹主義を説いたり、とんでもない反動主義を鼓吹したり、またわマルクスの誤謬理論を押し付けたりするのであるをけれども、農民わ決して正しい唯一の理論を疑わず、農民自身の行くべき大道を判然と見詰めて、飽く迄も共力一致し、コツコツと倦まず、撓まず共働規範の渦卷形原則を實行せねばならぬ。

二三 生活幸福の原理

剰餘がなければ幸福はない。今迄の學問の間違ひをた價額や相場の方考をした爲に、生産に剰餘があることを知らず、稼ぐに追付く貧乏なしと云いながらも、稼いだけでわ貧乏にならぬ程度で、決して樂になれなかつたのである。だから昔の人わ、一に儉約、二にも儉約と教え、百姓にわ絹の着物を着せず、洗足で歩かして草鞋も履かさず、徳川時代にわ丁髷を元結で括るを禁じて、藁で括らし百姓と云ふものわ、稼いでも儲からぬものだとして決めてあつた。

木曾山中大桑村の青年團へ行つたことがある。中堅青年小垣武夫氏の述懐に、西筑摩郡第一の裕な村と云われる大桑村の生活わ、行き詰つた貧弱なものであるが、それでも祖父の若い時代に較べるとまだよい。祖父の若い時代にわ、空辨當を腰にして、よく出掛けたと云うことを、幼い頃の寝物語に聞かされた。中仙道の宿場に當る大桑村の野尻わ、江戸上りの諸大名の宿を仰せ付かり、村中の屈強な者わ、月に幾回となく人夫に出る割付を當てられ、心付けに下されたものわ、庄屋が途中で失敬し、月に幾回も働き手を取り上げられて、一文の報酬にもならず、疲弊し切つた昔の大桑村の青年達

わ、諸大名の人夫に出るとき、辨當箱を入れる米の飯がなく、しかし辨當を持たずに出ると御不審を受けるので、空の辨當箱の風呂敷包を腰に巻き付け、中食時にわ物影にかくれて、辨當を濟した顔付をしたとのことである。稼いでも稼いでも貧乏が先廻りして呉れるのが、生産剰餘の全部を利巧な庄屋のよをな、見えない都會萬能商工金融資本主義の機巧で、都會の者共に取り上げられている、今日と昔の農村並に農民である。けれども正しい經濟理論から調べ直すと、農民と農村にわ必ず生産剰餘があるので、都會から搾取されることさえ防げば、必ず十分に餘裕ある文明の生活が出来ねばならぬ者わ、農村と農民である。

共働渦卷形の原則を、私から聞いて感心した秋田縣小坂町の豆腐屋さん共が同業者の組合を作り、毎月幾圓かづつ積金をして、幾軒かの豆腐屋さんが共力一致し、渦卷形に繁榮しよをと計畫したことがある。彼等わ毎月一回會合し、秋田縣の共働運動の先覺者中村次郎氏に出て貰い、或わ原料の大豆を一所に購入したり、資本金も高利貸や銀行から借りぬよをにしたりして、共働渦卷形の原則で、どこまでも伸び上るをと計畫したことがある。しかし其計畫わ、共働の渦が一卷位すると頓座した。都會の小賣商人共が、貴い共働渦卷の原則を眞似してみても、益々資本を積み上げて、益々利益を多く取り、都會と商業を繁榮さして行くことわ不可能である。都會を繁榮さすものわ、農村の搾取であり、

共働渦巻の原則でわれない。しかし農村を繁榮さすものわ、只だ稼ぐことでも、多收穫や多角形農業を戸別に勉強することでもなく、生活團體の共働組合と其聯合を何處までも發展さして、都會商工金融業者からの搾取を防戦し、其防戦によつて取り戻した農産物の最高生産費による正當な價額を持ち寄つて、之を共働渦巻形に擴けることである。共働渦巻の原理わ、農村と農民を幸福にするが、都會の小賣商人等が眞似をしても、決して彼等を繁榮せしめるものでわないのである。

秋田縣小坂町の豆腐屋わ、多くて五六軒であるを。彼等の全部が百圓づつ積立て、四五百圓の資金を共力一致して持寄り、原料の大豆や燃料を一所に安く購入した處で、利益わただ原料を安く買入れたと云うだけである。その利益をも胃袋え入れず、悉く積立てて共力一致の資金が千圓になつたとしてよを。さて其千圓で養鶏をし、乳牛を飼ひ、植林して炭竈を作り、そんなことは豆腐屋にできない。でわ豆腐製造の工場でも作るか。しかし豆腐を買う者が殖える譯でないから、豆腐屋の共力一致に共働渦巻わ、直ぐ行き詰るのである。農村と農民のみわ、自然の氣候や風土や地形からの生産剩餘があり、それさえ都會から搾り取られることを防げば、貧乏な自分等の懐から無理に資金を出さずとも、新しく正當に取り返したもののの中から、自分の生産剩餘に當る分を一軒百圓づつ持寄ると、四十軒の部落で四千圓となり、農村のことであるから、共力一致して部落で經營すれば、大きな鶏舎や乳牛の牧

場を設けたり、植林したり炭焼したりするのわ譯のないことである。

共働渦巻の原理わ資金だけでなく、勞働力の持ち寄りがなければ、實行されない。幸にも農村にわ共働して田植えでも除草でも耕作でもすると、仕事の能率が上り、戸別でする場合と共働でする場合でわ、二倍位の勞働能率が違つるので、共働經營によつて一軒一町平均の田畑なら、四十軒の部落に百人位の人手があるとして、現在の部落の農業わ、五十人位で切り上げることができ、遊んでいてよい五十人役を部落の新しい養鶏場や牧場や山林や炭焼場や開墾地や農産物の加工場で、最有效に働かすことが出来る。その新しい仕事から出る新しい産物わ、今迄にない餘分なものであるので、二年や三年わ其全部を生活團體と共働組合の渦巻形資金に積立て、五十人も餘つてゐる部落の人手で、十分に之を利用することが出来る。だから農村のみが、確實に共働渦巻形の原理によつて、生活團體から共働組合え、共働組合から其聯合え、其聯合わ村え擴がり、郡え擴がり、縣え擴がり、全民族え擴がり、全世界え擴がり、全民族と全人類とを温く手を握らして、都會をも遂に農村の中心え巻き込んでしまふであろを。

都會でも大資本家わ、共働渦巻形の原理にも似た方法で、フォードやロックフェラーの如く、一代か二代で、とても大きく渦巻形に巻き揚つたのである。彼等わ株式會社の方法で資本金を集め、幾千

人幾萬人の労働者を雇い、その労働者に十分な賃金を拂わず、安い賃金でこき使い、儲けた金で工場を擴張し、或わ新しく別の仕事をする工場を建て、鑛山も掘り石炭も掘り、汽船會社も興し、電車や電燈や瓦斯や水力電氣の事業も始め、とても大きな渦巻形の原則に似た方法で、日清戦争以來の三十年間に、日本の驚くべき都會商工金融資本の大財閥を幾つとなく出現せしめた。農村と農民が共力一致して、これから彼等と競争を開始するのである。奮え。疑うな。農村振興の新しい興國運動の爲に、全日本の農村青年男女が鎌や鋤を持つて奮い立ち、中年者を激勵し、老人の尻押しをし、この目醒しい農村振興の興國運動に、農村青年男女が雄々しく若い血を燃すならば、大義名分を背負ふ農村と農民が必ず勝つに決つてゐる。天照太神も、高天原の神々も、歴代の御製も御歌も、天祖以來の我國粹が、農民の背後に守つてゐる。都會財閥の二つや三つ恐るゝに足らない。

農村と農民の自覺によつて、共働渦巻の原則が四五年も擴がつたときわ、農村と農民の生活を、文化の幸福に向けてよい。渦巻形に何處までも、資本を積み上げてはも部落の労働能力にわ限りがあるから、また共働組合の聯合が進行して、大小の工場を設けても、其工場が自分等の原料を加工して、自分等の必要なもの、並に世界の需要に應ずる程度でよいのであるから、無制限に擴がり擴がる共働經濟の二重渦巻わ、三四年で打ち切つて、四五年目からわ、新しい部落の生産物の半額位わ、新しい資

金に積上げ、他の半額位わ部落の農村生活を幸福にする方え、賢く使かうが當然である。そのした賑かな相談が三四年すると部落の農民の間に起りだす。其相談が大體二つの方法で實行されることに決議されるであろを。

生活幸福の第一議案わ、労働日數の短縮である。稼げ稼げ、稼ぐに追付く貧乏なしと、昔の庄屋が教えた。けれども暗いから暗いまで稼ぐが人生でわない。人生の幸福な生活をしたい爲に稼ぐのである。稼がずに、都會の奴等わ、商店に座つたり、會社の簿記臺で居睡りしたり、役所のストロブの前でヨタを飛ばしたり、それでいて贅澤したり、こちら向いてわ稼げ稼げと云う。自分は碁打をしていて時々こちらを向いて、稼げ稼げ、稼ぐに追付く貧乏なしと、よくも昔の庄屋が云ふたものである。農民が完全に目醒めた。うんと稼ぐ。けれども浪費せず、浪費したがる中年者や老人を監視し、農村青年男女が共力一致して、新しい意義ある奮闘努力の三四年が経過した。部落の収入が渦巻形に増加し、大きな養鶏場、大きな牧場、部落有の大森林、炭焼場、味噌醬油の醸造場、養豚場、開墾された廣い畑、種々な農産加工場、これだけ出來揃をたから、本年の新しい積立資金わ、部落の作場道を改良してトラックを通わし、労働力を節約しよをでわないか。そのした労働力の節約によつて、一ヶ月に五日位、また冬の農閑期に、一ヶ月間位の休暇を、一同が交代で取ることにしよをでわないか。共力一

致で能率が揚がることであるから、それ位にしても差支がない。生活幸福の第一議案わ、満場一致で可決された。

生活幸福の第二議案、本年度積立金の半額で立派な部落の炊事場や、ホテルまがいの大食堂や、圖書館や、托兒所等を作り、農村を文化生活にしよをでわなにか。この議案に對し、老人連中にわ、青年が都會の眞似をしだして贅澤なことを云うと、不平らしい氣持を洩らし、それよりも剩餘で酒飲みの宴會でも開きたい顔をする者もあつたが、兎に角數年間の青年の努力により、部落が完全に立ち直つたことであるから、仕方なしに一同が賛成する。但し老婆心で附帶條件を老人連が持ち出した。種々な文化設備をしても、あまり夜更しをして、朝寝をせぬこと、書物ばかり読んで仕事を怠けぬ事。青年男女わもちろん其氣なので、老人連中を安心さす爲め、この附帶條件を決議にして満場一致で可決し、なを休日わ代り番で取り、少しも部落の仕事に差支のないよをにすること、また仕事の都合で休日を犠牲にもすること、働く日わ暗いから暗いまで、うんと努力することを誓約し、老人も安心して、満場一致で第二議案も可決された。

此等の議案わ誠實に實行され、翌年の集會でも農民の休暇を多くし、益々文化設備を整えることを決議した。しかし此上休暇を多くするにわ、次三男を都會え出さず、また都會え出ている者にも歸えつて貰わねばならぬことが發見された。次三男を都會え出さぬことわ、大した問題でないが、都會え出ている者を歸つて貰うにわ、農村の生活を都會に負けず立派なものにせねばならぬ。年々と其方針で生産剩餘の一部で、部落の生活を都會に負けないものに改良する。それにつれ都會え出ている者が部落え歸り、部落わ人手が多くなつて、仕事の負擔わ軽く、労働日數と時間わ短縮され、藝術や精神生活を楽しむ時間が殖えて、十年後の日本農村わ全く見違えるほど幸福となる。

共働渦卷形の原則により、農村生産剩餘を確實に資本化することから、部落の耕地わ附近の山岳原野を開墾して擴がり、森林も青く繁り、鶏が數千羽、乳牛が數十頭、豚も數百頭、味噌も醬油も豆腐も茸蕨も麩も部落で製造し、部落生活團體が結合して出來た共働組合わ、農産物の販賣や、日用品の仕入を大量に取り扱い、共働組合の聯合わ、大小各種の工場を經營し、日本並に世界の都會え直接の販賣所を設け、また都會えわ聯合して無料のホテルを建て、温泉場えわ聯合の温泉プールを作り、海岸えも聯合の海水浴場を作り、病院でも學校でも藝術館でも、何から何まで、共働組合と聯合で完成し、益々仕事が殖えて、人手が不足しだすので、都會え出ている者を悉く歸つて貰らい、全人口の八割わ農民となつて、生活文化と幸福が、農村部落を基礎にして、其上に共働組合と聯合が、渦形卷に資本を積立て、産業を擴張さし、新しい生産物と其加工によつて、農村の疲弊わ昔の夢となつた。十年足

らずの努力が、完全に新日本と新世界を、天祖の遺訓いんくんに基いて、全人類の前に確實に展開さす。之を共働渦巻形の人類生活幸福の大原理とする。

無理なことわできない。我等わ大言壯語しても、決して無理なことわ出来ない。無理する徒勞で我等わ自己を見詰め、自己と全人類を完成し、生活を幸福にせねばならぬ。共働渦巻の原則わ無理のない自然の發展である。

決して無理わできない。無理すれば必ず神經衰弱にかかり、徒勞と骨折損くたびれもをの草臥儲けくたびれもをにしかならぬ。貴い人生を最有效に役立てよをでわないか。山の小さな谷川の水を桶に汲んで海岸に運び、海え流しに通うわ勇敢でも愚である。岩間に悶ふさえて流れを防ぐ埃芥ごみくたをさらえ、山の小さな谷川の水を、下え下えと流してやるわ賢い。そをさえすれば水わ自然に下に流れて、獨りで悉く海え注ぐ。人間萬事此調子で、當然のことを當然にして、自然の眞理を我等と全人類の永久に實現せねばならぬ。農を本としての共働規範の生活わ、正しい自然の經濟と生活唯一の眞理である。水の流れの始まりを塞ふさぐ最初の障碍物しょうぶつさえ除けば、桶に汲んで海まで無理に運ばずとも、獨りで何處までも渦巻形に發展するのが部落生活團體の共働組合と其聯合である。我等わ學問の眞理により、人類幸福の大義名分を背負をて、自然の流れに従い、根氣よく努力し進むであろを。

二四 明るい規範の共働農村

多收穫をせねばならぬ。副業も盛にし、家畜を飼ひ飼料と肥料を自給し、大小各種の工場を建て、自給自足して餘る農産物わ、賣り出す前に完全な工業品として加工せねばならぬ。こをした多角形農業によつて、水田も作り、裏作も麥や菜種の作れる全面積を二毛作とし、鶏でも乳牛でも豚でも兎でも鷺あひひでも澤山に飼をて、卵も取り乳も搾り肉も毛皮も、多角形の收約農業と牧畜で、良い質のものを多量に産出しなければならぬ。また十分に桑を作つて、一反から七八十貫も繭を取り、促成栽培もすれば、温室農業もやり、果樹わ密柑、柿、栗、梨、葡萄、桃、寒地ならば林檎や櫻桃えんとうや、ある限りのものを、多角形に多收穫に、賣れるものわ草花でも植木でも、傾斜けいしゃの急な山えわ植林し、炭を焼いたり製材したり、かくするとき部落わ完全に復興し、明るい文化の農村となる。そのとき我國の農村わ必ず二億萬人を幸福に生活せしめ得るが、それでもなを増加する人口わ、團體共働農業の先驅者となつて海外の到る處え發展する。

光陰わ矢の如く早い。數十年が經過すれば、我國内地の人口わ一億萬人となり、また數十年が經過

すれば、一億五千萬人から、二億萬人となり、今日のまゝで進んだのでわ、資本家と労働者の関係をどんなに合理的に解決しても、地主と小作人の関係を、地主の思う通りに、またわ小作人の思う通りに解決しても、足りないものわ矢はり足らず、結局そのときわ暗い日本となつて、全國の山々え親殺しの人穴を掘るか、またわ産婆に頼んで生れ兒の鼻孔に紙を貼るか、即ち親殺しか、子殺しか二つに一つの方法しかないことになる。

明るい日本が百年も二百年も、また千年も二千年も皇統連綿と永久に繼續するを望むならば、再び日本を豐葦原の瑞穂の國として、農を國の本に多角形農業の多收穫え副業を加味して、土を愛し田畑を改良する自作農に進み、世界農民の模範となる、平和で勤勉で熟練で氣持ちよい農民とならねばならぬ。それをなれば世界の各地から指導者として日本農民わ歡迎され、是非團體共働農業の移民が來て欲しいと、斷り切れない移民の歡迎申込を受けるであろを。それほどまでに立派な模範の農民として、我等わ自己を鍛練せねばならぬ。もを個人主義の優越感農業でわ駄目である。五反百姓本位の個別農業でも駄目である。多角形と多收穫と有畜農業と肥料の自給と有利な副業と自作農創定と、山岳原野の開拓と内地移住と海外移民と、よいことの凡てを悉く同時に實行さすものわ、生活團體の共働組合と其聯合による、農村生活の規範化でしかなく、其外にわ斷じて農村の疲弊を救い、我國の存在を永久

に連續せしめ、また世界全人類の幸福に寄與し、同じ米作本位の支那や印度や暹羅安南等々を指導する方法わ、他に絶對に何ものもないのである。

要件が多い。要件が多ければ多くなるほど、その多い凡ての要件を満足する方法わ少なくなる。美人で健康で利巧で優しくて正直で怠けず稼ぐ花嫁を探ををと思うと、そんな理想の人が見付かるものでわない。恐らく理想の人わ、男に取つても女に取つても、ただ一人であろを。要件が多いほど、その多い凡ての要件を満足する方法わ、非常に少なくなるのである。多角形の多收穫の有畜農業の肥料自給の副業の自作農創定の開墾の移民のと、要件が多くなると、生活團體の共働組合と其聯合以外に、斷じて我國と全世界の農業と農村を振興する方法がなくなるのである。

經濟學の理論からも種々な要件が注文される。總ての農産物の價額わ、最高生産費に依つて決定され、決して需要供給に依る、賣手の駆引や、買手の横暴に依つて、上つたり下つたりさしてわならぬ。しかも最高生産費より安く生産し得る所の生産剩餘わ、誰も秘に胃袋に入れず其全額を必らず完全に資本化して、次の時代の生産資本に固定せしめ、人口が増加しても、全人口一人當りの資本わ決して減少せず、逆に人口よりも速に部落と村と國と世界の生産資本が増加し充實して、全世界の全人類が年々と文化生活の幸福に向えるよう、生産剩餘の全部を最有效に資本化せねばならぬ。猫に鯉節を與

えて置いて、胃袋の生理學に相談して過食すると云う類が、資本家に向い、地主に向い、政府の役人えも、全労働者と全農民えも、規範經濟學が要求する理論である。

理性のない猫に鯉節を與えて、生理の必要だけを食えと云うても無理である。しかし人類を理性を持つから、生活安定の文化生活が、全人類の前に展開しだすとき、生産剰餘の資本化わ、必ず可能でなければならぬ。けれども、個人個人を別々に生活さして置いて、そんな道徳を説いても、地主資本家わもちろん、農民でも労働者でも、之を守つて實行することわ不可能である。個人主義の自由平等觀念の下で、地代や利子や利潤や配當や賞與や高い月給や恩給や、種々な名義で都會の者等が生産剰餘を分割して思い思いに濫費して來たのも無理わない。だから世の中が今日の如く行き詰つたのである。生活團體の共働組合と其聯合が、今迄に知られなかつた新しい明日からの生活理論となつて、多くの人によく了解されるとき、多くの人わ必ず罪惡を思はず、また罪惡を犯さず、全人類わ追々と此規範の生活え近付くであろを。

規範の生活わ、罪惡のない正しい生活を云う。親殺しの人穴がなく、子殺しの紙張りがなく、窮乏と鬭争と搾取と駈引がないから、明るい幸福な規範の生活と云われるのである。規範とわ學問の規定と、實際の模範に従がう、希望の理想が實現した、人間性が喜び求める文化生活のことである。

新しい規範經濟學から最高生産費に安定して變動のない標準價額の實現が要求され、その結果として現われる生産剰餘の確實な資本化がまた要求される。其外にも規範經濟學わ、なを種々なことを要求に加える。

生産剰餘の全額わ資本化し全人類わ生産費の中で生活せねばならぬ。即ち生産費の中の労働報酬として正當に與えられる部分で生活せねばならぬ。生産費の中の労働報酬に當る部分わ、生産剰餘が資本化されるに従い、次第に全世界の生産條件をよくし、即ち最高生産費をも年々と低めて、其結果わ労働に對し報酬として與えられる部分が年々と増加することになる。しかし人間の胃袋と肉體の生理わ、今日も亦た永久の未來に於ても、三千カロリー以上を要求しないので、年々労働報酬の部分が多くなつても、胃袋え入れる飲食の分量わ三千カロリー以下に決つて居るので、胃袋以外の欲望の方え即ち住居や家具や修養や藝術等の高尚な文化生活の方え、年々と増加する労働報酬を振り向けなければならなくなる。立派な文化住宅に住み、ホテルの如く氣持のよい明るい食堂や浴場や別荘や海水浴場や庭園や、また立派な學校や圖書館や研究室や應接室や娛樂室や、歩くには自轉車や自動車や汽車や汽船や飛行機や、少しも遠慮せず人間性が希望する所の文化設備の一切を整えてよろしい。しかし幾ら労働報酬が年々と多く増加しても、個人單獨の力でわ、そんなに澤山の文化欲望を満足するこ

とわ不可能である。けれども悲觀することわない。部落農民が團體生活をするとき、なんの譯もなく
そをした文化欲望の高尙なものが、全部が全部、農村の到る處に實現されだす。

三井、三菱の主人でも、學校や圖書館や汽車や汽船を獨占し、自分だけの泊るホテルを全國えわ建
てない。自分だけの乗る汽車や汽船を拵らえても、永い道中が淋しい。ホテルの食堂も幾百人と賑や
かなのがよいのである。近世文明の生活設備わ、個人主義や個々別々の小家族主義より、集團主義の
大家族主義に進みつゝある。學校も道路も汽車も汽船も圖書館も食堂も浴場も、集團大家族主義でな
いと面白くなつた。何時まで農民のみが五反百姓の個人主義や、個々別々の小家族主義を固執す
るか。だから農村のみが淋しくなり、益々疲弊する。

自轉車でも乗る時だけベルを押すと、自分の前に轉けて來て呉れると都合がよい。乗つて歸えれば
誰か掃除して始末して呉れると一層都合がよい。どんな大地主でも、自分の自轉車を幾臺も獨占し
よをとわ考えぬ。自動車も其通り、電車でも汽車でも汽船でも、一定の時間に一定の場所に發着し、必
要なときだけ乗ればよいのである。それでよい。三井、三菱の主人でも、汽船や汽車を自分の獨占
でなければいやだとわいわない。自動車も乗る時だけ轉けて來、乗つて歸えれば轉けて行くとよい。
所有權なんぞわ、もを無用な厄介物だ。大家族主義の部落生活團體でわ、炊事でも洗濯でも掃除でも

機具設備の管理でも、分擔して完全にやるから、一事が萬事、その調子で實に有難くなる。生活團體
の大家族生活によつて、胃袋を入れて餘る生活の剩餘わ、全部が文化の使用設備に振り向けられ、農
村が都會の大ホテルえ泊つたときと同じ明るい生活となる。

規範經濟學わ種々な要求をする。土地でも資本でも人間労働でも、一切の生産要素を最有効に利用
しろと要求する。でなければ全人類に氣持よい文化生活を保證することわ出來ぬ。突然と人類の全部
が、山奥の部落に生れた者でさえ、都會の大ホテルに泊つた時の文化生活ができだすと云えば、馬鹿
々々しい空想だと、一笑にもされないであろを。しかし決して空想でなく、求めさえすれば必ず獲
得される未來の約束である。考えても見たまえ。土地の狭い、人口の多い我國わ、總面積の一割六分
しか田畑にしてをらぬ。その狭い田畑で、樂な生活の物資を得よをとするのが、そもく無理である。
獨逸でも佛蘭西でも伊太利でも、山の上まで開墾して、全面積の四割以上五割近くまで、立派な畑と
している。だから日本が人口が多く土地が狭いから移民さして呉れと亞米利加え相談すると、亞米利
加でわ笑をている。遠い外國えまでも移民したいのなら、まづ日本内地を獨逸か佛蘭西か伊太利標準
にまで開墾しなければならぬ。

亞米利加にわ田になる處わないから、畑を拵らえるなら、まづ日本の山岳原野を總面積の五割位ま

で開拓して立派な畑を作り、その畑に高價な金肥など使わず、米國標準に多數の家畜を飼て有畜農業をし、地味を掠奪して土地を瘦せらかさず、作れば作るほど、山の畑を肥やし得る腕前を見せなければ、亞米利加人わ笑うであろを。だから一昨年の太平洋會議の席上で、日本の學者が人口が多く土地が狭いから移民さして呉れろと泣くと、外國の學者が笑うのに、日本人は山岳原野を開拓する能力がありますか。その能力があるのなら、獨逸よりも瑞西よりも氣候のよい日本で、なぜ全面積の六割位までを開墾して、瑞西位の標準で立派な有畜農業をやりませぬかと、しつぺ返えしに教えて呉れたとかで、農林省の役人も、農科大學の學者もあわてだし、全國山岳原野の土地利用を、駒場の農科大學で大急ぎに調べていて、太平洋會議で即答できなかった答辯を、文書に書いて亞米利加で發表するか云うことである。

日本にも世界にも、廣大な土地が開墾されず放棄されていて、他方に幾十萬、幾百萬、幾千萬の失業者がいる。働けない失業者が無數に多くいる。だから食い物にも衣服にも家屋にも不足するのだ。もし日本と世界の土地を最有効に利用して、日本にも世界にも、一人の失業者もないよをに、萬人が働いて失業せず全人類の勞働力を最有効に利用し、また生産剩餘を確實に渦卷形に資本化して、その一切の擴張される生産資本と設備を最有効に利用するとき、日本と世界の山奥の部落農民まで、巴里の

大ホテルにいる高級な文化生活が出来るのわ、當然すぎるほど當然な理學の約束である。規範經濟學からの要件わ、なを他にもあるが、まづ之だけにして置く。

最高生産費の標準價額、生産剩餘の渦卷形資本化、土地、資本、勞働等、生産要素の最有効利用、これだけ數の多い要求を満足する生活の方法わ唯一しかない。生活團體の共働組合と其聯合が唯一の規範生活方式であり、それわ同時に多收穫と、有畜多角形農業と、肥料の自給も有利な副業も山岳原野の開拓も自作農の創定も内地移住も海外移民も、善いこと的一切を無理せず容易に實現さす處のものである。新しい經濟學の此規範方式を一日も早く實現しなければ、光陰わ矢の如く流れて、内地人口が一億萬人、一億五千萬人、二億萬人となる以前に、天祖以來の光輝ある日本わ、疲弊し破産して滅びるであろを。

二五 農業わどをするか (其二)

浮氣をしてわ駄目である。あゝでもない、こをでもないと議論していれば、農村と全日本わ潰れてしまう。私の農村青年共働學校でわ、二ヶ月の開校中毎週一回位わ討論會とろんかいを開くが、規範經濟學の講義が進行するに従がい、討論する問題がなくなる。この問題ならと思ひ、問題に出してみても、全部が全部意見が一致し、討論にならなくなる。眞理わ唯一だ。最善も唯一だ。議論わ盡きた。たゞ實行のみが問題に残る。古い頭の學者も役人も社會運動者も無産政黨や農民組合や都會の勞働組合や消費組合の幹部も、系統農會や青年團の系統聯合會や中央産業組合の月給取りも、古い一切の主義や思想や誤謬や迷論を清算して、唯一規範の永久方針を確認せねばならぬ。議論わ盡きた。實行のみが問題に残る。しかし古い頭の者と、愚かな人々にわ、まだ議論が残るであろを。我等わ根氣よく彼等に宣傳せねばならぬ。

議論わ盡きた、判らぬ者わ三回でも四回でも讀み直すがい。それでも判らぬ點わ根氣よく答えるであろを。議論わ盡きた宣傳が第一の任務である。

議論わ盡きた。實行と宣傳が残る。實行の具體的ぐたいてきなものを、之から記述せねばならぬ。生活團體の共働組合と其聯合わ、部落農民の生活團體に始まる。一切の基礎わ生活團體であり、生活團體の基礎の上に、共働組合と其聯合が展開し、農村の復活と全世界の文化と光榮が、谷川の水の如く、其處から自然に流れ下つて、廣い海え渦巻き擴がる。全世界を一遍に革命するほどの無理わ出來ないが、自分の部落を追々と革命する位のことわ、農民の誰にもできなければならぬ。日本の部落の悉くが、世界の部落の全部が、生活團體の革命を斷行するとき、共働組合と其聯合わ川の流れの如く末廣すえひろに進行して、全人類の生活が永久の理想を實現するであろを。世界と政治の革命を叫ぶ者わ、自分の生活から先づ革命せねばならぬ。

自分の生活と自分の心に先づ實行して、その同じものを隣人えも國民えも全人類えも要求するのでなければならぬ。見せろ。口先きの要求や説教でわ、誰もが賛成しても實行わせぬ。語る前に、語るに従い、必らず實行して見せねばならぬ。だから先づ自分の生活と自分の心を革命しつゝ、語ると共に語るに従い、其を見せなければならぬ。隣人え見せて部落に説き、部落に見せて村に説き、縣に見せて國に説き、遂に全世界と全人類を、新しい共働規範の渦卷形原則で包み切らねばならぬ。

自分獨りでわ實行できないと、そんな弱いことを、口先きばかりの勇敢な闘士が、何を卑怯ひきょうに辯解

するか。まづ自分の生活と自分の心え規範の共働生活を断行しろ。私わ自分だけで先づ断行し、多くの青年が私の集團に集まり、共働農場と共働學校を實行している。私の周圍から村々え歸える先驅の青年達に依つて共働規範の生活が渦巻きかけている。眞理と最善わ唯一である。根氣よい努力によつて遂に世界と全人類を包みきることわ確定している。

世界が改まらぬ前に自分だけを改めるわ難しい。先驅者のみが難しい事を爲し得る。大言壯語をする者わ、責任を感じて、難しい事を自分で成し遂げる先驅者でなければならぬ。彼等わ自分の生活と心の革命位わ断行せねばならぬ。私わ三度自分を清算した。それ位のことわできねば、先驅者でもなんでもない。勇敢な闘士と自稱しながらも言ひ譯けばかりする卑怯をやめろ。

自分の生活に準備ができたなら、自分の心が完全に眞理と最善に共鳴したら、隣人えの宣傳を始めねばならぬ。隣人え眞理と最善を宣傳する者わ、酒や煙草の無用なものをやめ、胃袋え生理が必要とする分量しか詰め込まず、未明の時間で讀書し研究し、日中わ熟練し緊張して農業や牧畜に勉めなければならぬ。夕方の一時間が、根氣よい部落隣人えの宣傳に費されるであろを。自分の生活の革命の中にわ、無用な飲食を制限し、時間を惜しんで勤勉に努力することを含んでいる。篤農家の氣持で農業と牧畜に勉めつゝ、夜遊びの時間で宣傳する純眞と熱心さが、自己革命の最初のものである。

眞理わ唯一であり、最善も唯一である。純眞と熱誠を込めて、少しの不純もない立派な青年男女が根氣よく宣傳する時、二人や三人が共鳴せぬ筈がない。共鳴者と自分かなほ根氣よく宣傳すれば、五人や六人が共鳴せぬ筈がない。完全に共鳴した五六人で、共働耕作を始め。共働に耕作すれば仕事の能率が上がる。今迄の仕事をするにわ、勞働力が餘り出す。その餘つた勞働で五六人が共働の開墾をする。共働開墾の收入で、共働の牧場を作り、家畜を飼ひ、開墾地の自給飼糧で、乳牛でも豚でも鶏でも飼ふことにする。飼糧を自分達で作るから、家畜收入が丸残りになり、その上に肥料が十分に自給されだす。自分の心と生活わ既にはや革命されてあるから、胃袋えわ決して餘分なものを入れない。新しい生産の全額わ翌年えと渦巻形に資本化される。それを見た部落の隣人が、青年男女だけでなく、中年者も老人も感心して、間もなく全部落の生活團體が實現する。口先きの宣傳よりも、先驅の實例が最も有効である。議論わ盡きた。實行のみが残る。

自分の心と生活を革命せぬ前に、共働農場を開始しても、新しい生産わ多々益々胃袋が消化し、少しも新しい資本が蓄積されず、胃袋が虐待されだす。無理解な共働農業の眞似事わ、胃袋の虐待以外の何ものでもない。生活團體の模範を成立さすものわ、單純な共働田植や、共働調製や、共働販賣や共働購入でなく、新しい收入を渦巻形に資本化してゆく心と生活の範規化である。

部落農民が先驅者の方針に従い、共働農業を行えば、作業能率が擧り、田植でも除草でも調製でも段取りよく分業し共力して、最も有効な共働の作業をすると、労働日数を今迄の半分位に減らすことができる。

静岡縣磐田郡向笠村の永田新司郎氏わ桑園の管理と養蠶に付き全國隨一の技能を持つ篤農家であるが、水田や畑作も相當に手廣く經營して、静岡縣廳より三方原の開墾計畫を囑託された。永田氏わ共働耕作による生活團體の共働農業でなければ、酸性重粘土の三方原わ開墾しても成功不可能であると結論した。其答申書の中に共働農業の利益項目を左の如く掲げている。

(イ) 労働に關する利益

- (1) 共働作業わ畜力機械力等の利用能率を完全になすことを得
 - (2) 作業能率を増進する
 - (3) 労働時間を節減する
 - (4) 徒勞を省略する
 - (5) 餘剩勞力を有効に利用することを得
- (ロ) 費用に關する利益

- (1) 器具器械の共用利用に依り設備費の減少
- (2) 建築等の共用利用による建築費の減少
- (3) 廉價なる購入
- (4) 消費經濟に徒勞を省く
- (5) 肥料、飼糧の有効利用に依り購入量の減少
- (ハ) 生産増進に依る利益

- (1) 専門技術熟練等を應用し分業がよく行わる故に數量並に生産物の品質を向上する
 - (2) 地力増進と耕地改良容易なれば生産物の品質と數量を向上す
 - (3) 病虫害虫防除を完全に行うことを得る
 - (4) 肥料用水の有効活用に依り生産増進をなすことを得
 - (5) 耕地管理完全に行わるに依り耕作面積を増大し飼育數量等を増加し得
- (ニ) 生産品の統一と大量生産に依り價額を向上することを得

(ホ) 販賣法の改良販路擴張の容易

(ヘ) 加工完全容易なれば利益増大する

- (ト) 共同炊事を行えば豫算家計を爲すことを得
- (チ) 資本金の最有效利用を爲すことを得
- (リ) 資本借入等容易にて償還法も確定し得
- (ヌ) 公共事業遂行容易なり
- (ル) 老幼保護と教育の完全を期すること容易なり
- (ヲ) 常に安心出来て愉快なる生活を爲し得
- (ワ) 専門的技術其他の研究が容易

永田氏の云う通り共働農業にわ非常に多くの利益があり、單純で興味のない農業を愉快に心強く興味あるものとするわ、多人數の共働である。耕作上の勞働能率を高める點のみから云うても、田植にしる、苗を運ぶ者、植える者、水の管理をする者、食事の面倒を見る者などに分擔し、植える者も數十人が一列に並ぶから張合があつて、もう濟んだかと思ふほど早く仕事が運ぶ。共働田植であるから夜番までして水争をする必要もなく、苗代も一つにし、凡ての無駄が省かれる。之を畑作に付いて云えば、一番分業の利益がありそをにもない除草にしる、忙しい春から夏の作業を共働の分業で片付けるから何事にも手遅れせず、草の生えぬ前から除草の方えも多人數が土寄せの鍬を動かし、草を見ず

して草を取る精農振りが實行される。だから仕事に追われて大きな草を生えさす墮農の仕事などに比べると、畑の除草でさえも個別である場合の幾倍も能率が上り、作業日數短縮されて其上に多收穫となるのである。

秋田縣の篤農家森繁氏わ、共働農業に依つて市川開墾地を成功さした。彼わ郷里淺舞町下鍋倉部落に於ても、耕耘と田植と除草の共働農業を實行している。彼の經驗に依つても共働作業わ個別である場合の二倍近く能率を高める。その能率を利用し、除草わ森式の非常に行き届いた方法で、稻の根元が白く見えるまで土を兩方に掻き分け、二日も水を切つて太陽光線を稻の根元に直射さすから、そればかりに依つても、一段に付き一俵以上の收穫を増加してゐる。

下鍋倉の共働組合員わ二十三戸である。耕作している田わ六十町であるから一戸當りが約三町で、氣候の寒い秋田でわ、春の田植を急がないと、手遅れになつて秋の收穫が悪るい。一戸平均三町の田植わ容易でなく、共働組合が出来るまでわ、他部落から、田植ゑに多數の人夫を雇をていたが、共働農業になつてから、人夫を雇わなくなり、整條器などを使をて、作業の日數さえも短縮している。耕耘にも除草にも特別に工夫した農具を使い、共働せぬ前より二倍以上に能率を上げてゐる。刈取つた稻の株切をする機具が二臺(一臺三十圓)馬耕に用うる森式馬鍬七挺(一挺六圓)土塊粉碎用の特製

ハロー五臺（一臺二十八圓）田植を早く正しくする整條器六臺（一臺十圓）除草器三十挺（一挺二圓五十錢）を組合に常備して、能率の上る農業の機具化をしている。此等の機具わ一個で相當に広い面積の仕事ができるから、個人農業にわ不向であり、馬耕の土塊を粉碎して地均らしするハローわ、一臺で二十町の使用に適するので、部落の共働農業でなければ、有効な利用にならぬ譯である。

耕耘でも田植でも除草でも、共働き分業し段取りよい共働の機具機軸を使うならば、今迄の二分の一の労働で、多收穫の集約農業ができる。秋の調製などわ共働の機械作業によると、個別の仕事の十分の一の労働で十分である。しかし、かよをに共働して餘つた勞力を、無駄な晝寝に暮してしまえば、共働農業わ逆に農村を疲弊さす。水田しか作らない、東北平野の部落でわ、一日も早く田の仕事を取り上げて置き、餘つた勞力を集合して、二里か三里行けば、無盡藏に捨てられている山岳原野の開發に利用するとよい。關東以西の温い農村部落でわ、養蠶や畑の仕事や、次から次へと仕事絶えないうことであるから、仕事の日數を早く切り上げるよりも、働く者が百人いる部落でわ、段取りよい共働農業で、現在の田畑わ五十人役か六十人役で立派に仕事を済ますことにし、省かれる四五十人役わ一年中何時も附近の山岳原野を開發するにむけるとよい。經營を個別にして、作業だけ共働にする今迄の農事實行組合の類でわ、せつかく共働作業をして勞力を省いてみても、個別に五人役や十人役が省ぶ

かれるのであるから、之を山岳原野の開發などに利用することができず、やれやれと無駄な晝寝に暮らす、農事を本當に共働すると、個別にわ五人役十人役に過ぎないものが、數十人役にも數百人役にもなり、附近山岳原野の開發ができたのである。之が共働渦卷形原理の根本をなすものであり、經營を個別のままにして置いて、作業のみ共働するわ、尻括りのない筈でしかないのである。

人情わ妙なもので、餘分な人がいると氣が呑氣になり、五十人で出来る仕事に百人いても差支ない。だからブラジルでも合衆米國でも、能率を揚げる大農場でわ、百姓仕事の凡てを適當に區切つて請負でやらしている。しかし緊張して張合をてやれば、個人別々に責任を決める請負仕事よりも、段取りよい共働が一層能率が上るのである。だから熟練し緊張すれば五十人で出来る筈の仕事えわ五十人しか充てがわず、残りの五十人わ新しい他の仕事をさすことにするのである。新しい他の仕事から、渦卷形の共働資本が生れ、それが新しい事業の基礎となり、その新しい事業からの収入が、また渦卷形に積上げられるのである。

五十人で開墾するとしよを。一年中の五十人役であるから、立派な畑が二十町以上でき、しかも出来るに従い播き付けから耕作まで滞りなく済まされる。新しい開墾地え夏作に玉蜀黍、裏作に麥を播けば、玉蜀黍でも麥でも一反から二石位取れて二十町で總計四百石ほどになる。一石十圓として四千

圓、其金で鶏や乳牛や豚や鷺や兎や種々な家畜を多數に年々と飼ひ殖し、種々な農具や機械を購入し同時に農業を電化する。

農業の電化と云うと、農業の實際を知らない者わ、耕耘の骨折仕事を電化することでもあると考え易いが、廣い畑や水田の耕耘を隅なく電化するのにわ、電線を網目に引き廻わす必要があり、最も不經濟なことである。をまけに耕耘わ一年に同じ地面を一度か二度しかうならない。私の山の農場でわ秋の收穫のあとで、麥播の前に一度うなるだけである。夏作わうならず、麥の間え麥を刈る前に、陸稻でも玉蜀黍でも播き付け、薩摩の苗でも挿し込むから、一年一回以上うなりたくもうなれぬのである。一年に一度か二度の耕耘をする爲め、高價な電線を田畑の上え網目に引き廻す愚なことわ、農業を知らない人の考える農業の電化計畫であり、農民が自分で設計する農業の電化わ、むしろ便利な道路を開いて、その上に鐵道の古いレールでも拂ひ下げ、電化して運搬車を獨りで走らす電氣仕掛にでもするであろを。うなり仕事わ一年に一度か二度であるが、運搬仕事わ毎日朝から晩まで休まずせねばならず、農業勞働の四五割わ運搬勞働なのである。それも金肥を使うなら、一反に二十貫位を、春と秋とに分けて運べばよいが、天然肥料の厩肥を使うとなると、一反え春作に五百貫、秋作に五百貫合計千貫も入れなければならぬ。厩肥を作る材料も、遠方から其だけの分量を厩え運び込まねばならぬ。

ぬ。毎日草を刈つて、冬でも枯草を刈り、落葉を集め、一年中休まず運搬仕事をせねば、現在の田畑と之から開墾する畑えわ、十分に天然の肥料が廻らぬ。肥料の外にも、收穫物や燃料や、一切のものを毎日々々運搬せねばならぬ。農民にとり道路の電化かトラック化わ、非常に勞力を節約するのである。もし多收穫が成功し、一反十石も米を收穫しだせば、なをさら作場道の電化でもせぬと到底やり切れなくなり、骨折損の草臥儲けが逆に農村經濟をマイナスに破産さすに決つてゐる。

レールの引かれた電化運搬をするにわ、よしトラックの走る立派な道路を開くにしても、部落中の田畑が一つに管理されぬと直線道路の作りよをがない。現在で互に耕作する田畑が入り亂れているため、廻り廻つた細道しか作れないのであるから、道路の電化やトラック化をする前に、まず田畑管理の統一が必要である。また現在の戸別農業でわ、田畑が飛び飛びに入り亂れているため、田植の時にわ水争をせねばならず、毎日の仕事にわ、こちらの畑から、あちらの畑えと、どれ程無駄に足を運ばねばならぬか知れない。部落が一團となつて共働農業をしだすと、こをした一切の無駄な厄介なことがなくなり、二重にも三重にも部落の耕地の間え循環道路が出来、それを縦断して下わ附近の都會えの縣道に續き、上わ山岳原野えの開墾畑に通う直線道路が開かれる。そをなると農業勞働の半分を占める運搬作業と其の時間が、現在の十分の一にも節約され、節約された勞働わ一層有効に附近山岳

原野の開発や家畜の飼育等に使われるのである。

共働經濟の渦巻原則を實行する爲め、最高生産費で價額を決定するよをにすることわ、部落だけの共働農業を實行しても不可能であるが、部落農業の共働をやれば、單にそれだけで節約される勞力を集合して新しい生産に利用し、其の收入を資本化して何處までも渦巻形の發展をすることができだすのである。けれども今迄の農事實行組合の類でわ、作業だけ共働して個別に節約された五人役の勞力を、よし有効に利用して個別に五十圓百圓ほどの新しい收入があつたとしても、之を各別に利用すれば、牛一頭買うにも足りない。たとえ牛一頭位が買えるにしても、牝牛ばかり買をてわ何にもならず、乳を搾るにわ、牡牛も買わねばならぬが、牡牛わ牝牛數十頭に一頭あるかなしで十分なので新しい收入を有効に資本化する段になると、どをしても經營まで共働する必要があるのである。だから個別の共働作業わ、やはり拙な策基でしかない。

共働作業で節約された勞力を利用し山岳原野を開発しても、人間の食う作物ばかりを作つていと益々生産過剰になつて値段が安くなり、その上に値段が安くても賣れなくなる。しかし山岳原野の開墾畑で、家畜の食う飼糧作物、例えば玉蜀黍を作り、實の入る頃、根本から刈入れて、莖も葉も實もなにもかも、一處にカッターと云ふ動力機械で一吋位の長さに切り、牧場の傍え直經八尺位の二十尺

も深い大穴を堀つてセメントで固め、エンシレーヂを作つて、其刈つた玉蜀黍を一杯詰め込んで踏み固めて置けば、牛でも豚でも涎を流して食てくれる年中の最有效な飼糧となる。之を青刈玉蜀黍と云うが、青刈であるから、其跡え大豆や黒千石等の荳科飼糧を蒔き、其も早く青刈して更に其跡え、薯や大根や家畜ビートやレーブなどの根菜類か葉菜類を播き、其跡え早く玉蜀黍や燕麥を播くと云う工合にすれば、一反の山畑の作物のみで、立派に乳牛が一頭飼えるのである。山岳原野に野草を生やし草刈するだけでいけば、牛一頭の青草飼糧に一町位の原野がいるのである。山岳原野を草原にするほど不經濟なことわない。植林せぬ處わ全部を開墾して、青草と其種子を絶やさねばならぬ。氣候のよい我國でわ、玉蜀黍等の禾本科と大豆等の荳科と、芋や大根類の根菜とを、循環に作つて三回の好い家畜飼料を收穫し得るのである。氣候の寒い佛蘭西で研究した報告によつてさえ、諸作物の中で最もカロリー收量の多いものわ、玉蜀黍や馬鈴薯の類であり、葉まで入れると一ヘクタール(約一町)から十萬キログラムの收量があると云うことである。薩摩芋わ更に收量が多く、豊作となれば、一反から芋だけでも二千貫、葉まで入れると三千貫にも及ぶのである。之に裏作の麥を加えると、二毛作だけでも山畑から非常に多い家畜の飼糧が取られる。我國の如く土地の狭い國で、現在のよをに無駄な野草を山岳原野に立ち枯れさして置くわ、實に無頓着な亡國の墮民と云わねばならぬ。急斜面か岩石

で植林する以外の山岳原野わ、どをしても全部を開墾して有効な家畜飼糧を作らねばならぬ。土地の廣い合衆米國でさえも、山岳地のウイコンシンでわ山岳原野を根氣よく開發して有効な家畜飼糧を連作し、亞米利加第一の乳牛産地となつてゐる。亞米利加え移民したければ、こをした土地利用の能力を十分に示さねばならぬ。

開墾しても人間の食う物ばかり作つていれば、農産物わ益々値段が安くなり、骨折損の草臥儲けになる。しかし開墾地で家畜の飼糧作物を作り、鶏や乳牛や豚や鷺やを、無數に飼をていれば、眞の多角形農業となつて、農産物の價額も下がらぬのである。蔬菜類が安くなるのわ、都會でわ次第に味のよい肉食が盛になり、蔬菜わビタミンの必要がある程度に使われ、どんなに安い洋食屋や飯屋でも肉食を食わすので、家庭の善良な主婦共も負けず劣らず肉食の献立をし、家族の喜ぶ顔を見よをとするので、さてこそ都會の人々が増加しても、野菜其他の農作物の値段わ一向に上らず、獸肉類のみが獨り高い價額を維持してゐる。露西亞の經濟學者ヴァルガーわ、肉類のみ世界の不景氣でも價額が下らぬことを指摘した。だから丁抹の農村わ萬年好景氣なのである。

都會の人わ盛に肉食をしだした。肉食を盛にしてゐると、不思議にも人口の増加率が鈍くなるを、佛蘭西の或る學者が注意したと云うことを、石川三四郎氏から聞かされたことがある。佛蘭西わ世界

一番の美食國で、從て人口が増加せずに減少する。しかし其同じ佛蘭西人が加奈陀え移住して百姓をしだすと、贅澤な肉食がそれ程できなくなるから、やはり世界人並に人口を増加しだすそである。だから肉食の甘い物を澤山に詰め込む都會人の出産率わ、次第に鈍くなると云うて差支えないのである。このことわ動物實驗で次第に確かめられつゝある。即ち鶏でも動物質を多量に與えると卵を短期間に多く産むが、體質わ次第に弱り、卵そのものゝ質も不良になる。鶏に限らず凡ての動物が持つ卵の數わ制限されてゐるから、肉食して發情が短期間に盛になると、卵が短期間に亂出して受胎率が悪くなるらしい。更に之を牛に付いて實驗すると、脂肪分を多く與えると、受胎率が非常に悪くなるをである。多産する豚でさえ、脂肪や蛋白質を與へ過ぎると産兒の數が減少する。だから人間に付いても肉食わ發情を旺盛にし、男女の生殖細胞を短期間に亂出せしめるが、其素質が悪いのか、或わ脂肪分の過度な食用によつて、男女の生殖細胞の接合を妨けて受胎率を悪くするかであるらしい。だからでもあるを。都會の出産率わ菜食をする農村よりも遙に低く、肉食の甘いものを多量に詰め込む金持に子供が少なく、粗食してゐる百姓と貧乏人の方が子澤山なのである。

しかし甘い物わ食えれば食いたい。農民の多い加奈陀でさえ、一人平均に一ヶ月三十個も鶏卵を食い、米國人の食物わ三十パーセントが畜産品だそである。日本でわ都會人わ勉強して肉食するが、

農民がまだ野菜で辛棒^{しんぼう}するため、鶏卵の消費が加奈陀の十分の一、畜産物の食用が米國の十分の一、即ち日本人が平均して一年に一人が三十個しか鶏卵を食わず、畜産品が日本人食糧の三パーセントにしか當らない。だけれども都會で旺盛に肉食し初めた。産兒制限の最も有効な自然の方法が美味美食の肉食であることが判明しだすと、數十年後に二億萬人とならねばならぬ日本人が、最も多く畜産物を愛用するよになるであらう。其の傾向が既に現われて、日本でも世界並に畜産物獨り不景氣知らずであるから、共働農業が山岳原野を開墾すると、人間の食用作物を作らず、家畜の飼糧を作り、大いに家畜を飼って時代の要求に應じ、今後の農民が不景氣知らずに高く賣れるものを有利に賣り出さねばならぬ。それをすれば農民自身も十分に味よい物が食えだし、有畜農業の多角形で多收穫をする自給自足が不自由でなく、自由な満足と喜びでもありだす。之を國利民福から見ても、家畜を多く飼ひ出せば、牛皮や豚毛（齒ブラシ原料）の莫大な輸入も止まり、農村自身の經濟から見ても、厩肥が十分に供給されて、我國が家畜飼糧と金肥や其原料を年々三億萬圓近く輸入している愚かなことがなくなる。山岳原野を開墾しながら、其處でも人間の食用作物を作り、相變らず金肥を施していれば、輸入肥料と原料が四億萬圓にも五億萬圓にも増加し、肥料代で我國と我國農村が完全に破産するであらう。

二六 農業わどをするか (其二)

色々と都合のよい事が判明した。共働農業以外に斷じて我等農民の行くべき道はない。共働であるから、技術が最も有効に利用される。部落中の優れた技術家が、夫々の作業主任となり、稲作が部落第一の稲作篤農家が其主任となり、麥作でも、園藝物でも果樹でも、桑園でも、植林でも、竹林でも、夫々の専門篤農家が主任となり、養鶏主任は養鶏の事ばかり扱^{あつか}うて専門に研究し、乳牛主任は乳牛のことばかり、豚主任は豚のことばかり、養蠶主任は蠶のことばかり、夫々専門に別れて終生の責任として研究するから、都會の工場に夫々の職場があり、専任技師が分擔して研究し指導すると同じ方法が農村にも實現して、部落全體が篤農家標準の農業をすることになり、凡ての農作物が今日よりも二三割増収するわ必定である。家畜の成績も優れて善くなり、亞米利加標準や丁抹標準に近づきだす。人間の能力に制限がある。専門に分れて終生の研究を積み、初めて老巧と熟練^{じゆくれん}の技術に達し得る。個人の多角形農業が失敗する理由が此處にあり、共働分業の農業によつてのみ、最も有効な多角形農業が多收穫と兩立しだす。共働農業が進展する將來に於て、専門に分擔する夫々の主任となる者わ、部

落中でも頭のよい青年で、彼等わ部落の費用で選拔せんぱくされて、夫々専門の最高學府に入學し、更に數年間を研究所や試験場や、優れた篤農家の個人に付いて、日本一番或わ世界一番の技術と熟練に達する迄研究して部落を歸えるのである。そのとき全日本の農業が凡て日本一番、或わ世界一番のそれ、の熟練技術者によつて最有効に指導されることになるから、共働農業によつて、多角形と多收穫が兩立する確である。個人別個の五反百姓でわ、如何に系統けいとう農會の經驗のない町村技術員が、統計と報告書を振り廻わして上の方から親切に指導して呉れても、全日本の農業技術を最高位に進めることわ絶對に不可能である。

共働することを、皆が同じ仕事をする事だと誤解してわならぬ。共働わ段取のよい共力と分業であり、共力と云うわ重い石を數人が力を合せて動かす類であり、分業と云うわ仕事の順序を分けて、人々が一部分づゝを、各人の能力と技術に應じ分擔することである。馬耕の優れた者わ馬耕を専門にするから、二人で一頭の馬を追い廻す静岡農民も、一人で一頭の馬を追い廻す東北人の熟練に進み、更に一人で三四頭の馬でも牛でも使いこなす西洋人の熟練にも達するであろを。弱い老人や婦人わ種子を播いたり、土を寄せたり、能力と技術に應じて分業するから、無理のない仕事が面白いほど早く運ぶ。そをした分業と共力の順序を定めて、過不足のない人數を適當に割付けることを段取りと云

う。

仕事の段取りが悪いと暗い氣持になつて、能率が一向に上らぬ。仕事の段取り戦争で云えば兵法にも當るものであり、老巧な者が仕事の全部を見通して、何處にも過不足のない人員を割付けねばならぬ。正成や秀吉やナポレオンわ、仕事の段取りが上手な兵法家であつた。仕事の順序が悪ければ、むろん作業の能率わ上らぬ。順序がよくても、一方に人手が餘り、他方に人手が不足するよをでわ、餘る方わ緊張せず馬鹿話などして吞氣にやり、不足する方わ過勞して撻取はたらず馬鹿くしくなる。そのとき仕事は一番人手の不足して遅れた部分の能率で、全體の作業が撻取らなくなる。だから段取り上手な人わ、作業の順序に應じ人員の配置を平均に割當て、全員緊張して追駈おっかけ仕事の段取りにする。そのとき張り合ひがあり、互に張り合をて仕事をするから、仕事の能率が上り、作業が面白いほど早く片付くのである。

追駈おっかけ仕事の段取りでやると、身體が疲れてやり切れないとも思ふであろを。しかし其わ机上の空論である。實さい追駈おっかけ仕事の段取り緊張して張り合うと、疲れることわ事實であるが、しかし一日働いて少しも疲れないよをに、そんなブルジョア根性で勞働が出来る筈わない。一日働けば、夕食を濟して湯にでも入ると、疲れて眠くなるほどの緊張した仕事をせねばならぬ。しかし時々休暇があり、働

ときわうんと働き、休むときわ十分に私生活を楽しくするであろを。

私生活と公生活を混同してわならない。自由と責任を間違えてもいけない。私生活わ自由であるが、公生活でわ責任を重じなければならぬ。消費と使用と修養と休暇わ私生活であり、生産と宣傳と努力わ公生活である。私生活わ自分に對して忠實でなければならぬから、何人からも干渉を受けない。しかし公生活わ社會と人類に對し忠實でなければならぬから、共働の規範に従がうわ當然である。一日勞働して疲れる位わ公生活の責任である。けれども長い短い休暇と趣味の期間が、一年の中と、一月の中になければならぬ。消費と使用と修養の時間が、一日の間にも許されねばならぬ。私は一日の間にも私生活の最も有効な時間を朝食前に見出している。

疲れる程働いても、心臓の強さに比例して働けば、少しも健康に害がなく、十分な睡眠時間さえ取れば、過勞で健康を害することわ絶對にあり得ない。運動競技の選手わ、心臓麻痺で決勝點に倒れることもあるが、農業勞働をして畑の上で心臓麻痺を起すほど烈しく働いた例を聞かない。勞働して過勞の病氣を起すのわ、暴食して胃袋を虐待し、或わ夜の時間を不攝生に使い過ぎて、睡眠不足になるからである。暗いまで働くなら寡食の直後に寝ても、決して消化不良にならぬことわ、胃袋が睡眠中でも休まず働き、かつ胃袋の消化作用わ、胃液其他の分泌物の中にある、細菌と酵素の發酵に依るも

のであるを知る新しい醫者が此頃教える生理である。だから疲れるまで働き、疲れた夕食後に直ぐ寝ても少しも健康に差支がなく、早く寝て早く起きる私わ、山の農園にいる間わ粗食と努力を續けて、完全に無病息災であるが、地方え講演や宣傳に出掛けて働かず甘い物を御馳走になり夜更しすると、身體の工合が悪いのである。

各部の主任わ相談して、部落全體の作業方針の豫定を作り、之を部落の會合に報告して同意を求めるであろを。相談と會合と作業豫定が、共働農業を圓滿に進行せしめる。各部の主任は割當てられた日に、割當てられた人員で、自分の受持の作業場に行く。分業と共力の段取りわ其場の作業主任が定め、作業場え出てから互にあゝでもない、こをでもないと云ふ意見を争うことわ許されぬ。少なくとも其日は作業主任の定める段取りに従い、忠實に緊張した努力をせねばならぬ。意見がある者わ其日の終りに作業主任え申し出で、翌日の段取りをするときの参考に意見を述べる程度でなければならぬ。個人の私生活にわ絶對の自由があるが、團體の公生活にわ共働と一致の責任がある。

緊張と熟練を全員に保證する爲め、過渡期にわ分配の制度を適當に考えねばならぬ。それにわ種々な方法がある。高知縣高岡郡北原村甲原の大川内共働經營組合で實行している方法わ、熟練と平生の緊張振りによつて組合員一般の投票で各人の能率點數を決め、仕事に出た日數を能率點數に掛け合し

て農作物の分配をすることになつて居る。自分の仕事の能率に對する投票點數が少くないのわ不名譽であるから、誰もが一生懸命に平生の仕事をする。それでわ點數の低い者が自暴自棄になる恐れがあるから、年に數回投票をし直すことにしている。其部落でわ作業主任が前晩に仕事の割を決めて置くから、朝早く何時から仕事に出ても差支ないことになり、仕事の出掛けに事務所へ報告して置けば、晩の歸りにわ作業主任から、其日の作業や勞働した時間を記入した勞働切符を貰つて歸るのである。作業時間に應じて農作物を分配されることになつて居るから、皆が競争で朝も早く晩も遅くまで緊張して仕事をし、非常に能率が上るのである。しかし仕事に出た者ばかりに農作物を分配すると、病人や子供の多い人わ生活が困難になる。そこで病人や子供や、一定年齢以上の老人わ、部落生活團體の公費で扶養することにするのである。

部落の共働農業でわ、全體の收穫が二割も三割も増加するから、地主え地代を支拂ふことが苦痛でなくなる。大體今日の地代を標準にし、高い處わ成るべく安くして貰い、部落の田畑を部落全體の農民が一團となつて借入れ、最有効な團體共働農業を行なうのであるから、道路も直り畔や溝や水路も整理され、二三割と増加した全體の收穫の中から、無理のない地代を帳簿面の土地所有者え支拂う。だから地主も個人え田畑を借し付けるよりも安心して、地代の集りもよい。また地主自身でも、其家

族でも、父母でも、息子でも、娘でも、働きたい者が、皆働けるから、小作人から無理に土地を取り上げず、一所に共働農業の仲間入りをして、能力に應じた仕事をすれば、其仕事から生活が十分にできる分配が来るから、地主に取つても非常に都合のよいことである。地代わ結局土地に對する税金に當るであらう。

共働農業の全收穫わ、將來組織が發展して最高生産費による正當な價額が實現するまで、地代に支拂おた残りの全部を、各人の作業能力と各人の必要に應じて公平に分配されるであらう。開墾係や家畜係になつた者に對しても、夫々の能力に應じ開墾係又わ家畜係としての仕事日數に依り、今迄の田畑からの農作物を分配されるであらう。なぜなら開墾や家畜わ共働農業によつて節約された剩餘勞力の利用方法であるから、開墾や家畜からの全収入わ、共働農業の新しい資本金として積立て、渦巻形に年々大きくせねばならぬからである。

新しい生産の積立金わ分配せず、部落の共有財産としてもよい。今日の民法にも共有と云うことがあり、共働で働き出したものわ、分配せず永久に共有として置くわ、今日の法律から云うても當然であるが、しかし都會の資本家から個人の私有財産を見せ付けられた農民の中にわ、分配して欲しいと云う注文が出ぬとも限らぬから、今迄の田畑から生産される農作物を各人え分配した金高に應じて、新

しい開墾や家畜の収入も分配して差支ないが、しかし現金を渡さず、都會の會社の株券のよをに、部落の農事團體に對する各人からの出資とし證書を渡して置く。出資だから永久に現金を拂戻さぬが、會社の株主配當の如く、出資金に對して郵便貯金の利子よりも好い位の出資配當を付け、次の年の新しい生産物の賣上代金から現金で渡してやる。

開墾の作業や新しい開墾畑の耕作に當る人数わ、各部の主任を除き一ヶ月間位の交代で、開墾の場所へ行く。其處にわ粗末でないバラックが有り、將來わ立派な別荘位のものにする。家畜も其處で飼うのが、飼料が近く却つて便利である。氣持の變つた處で、時々交代に氣持の變つた仕事をするのであるから、男も女も却つて開墾地へ行くことを喜ぶ。

普通の人の考方でわ、山岳原野の開墾と云えば、其場所を永久に移住して、開墾地で生活せねばならぬ様に考え、政府の開墾助成法なども、そをした方針でやつているが、それでわ貧乏な開墾地の農家が幾軒か殖えたと云う程度で、農村振興に何の利益ともならない。村から開墾地へ送り出される幾軒かの農家わ、政府の助成金を開墾費の四割程貰をても、それさえ開墾が濟まぬと呉れぬから、村を出て開墾地へ行くときに、どをしても村から金を持ち出さねばならぬ。遣り繰り算段して無理に村から金を持ち出し、淋しい不便な開墾地へ行くのであるが、しかし山岳原野の不便な開墾地わ、農業の

生産條件が悪いから、骨ばかり折れて、収入わ少なく、やつと貧乏生活が続けられる程度である。だから到底村から持ち出した金わ、元地の村の部落を返すことが出來ず、もちろん開墾地から新しい収入が元地の部落を一錢も來ず、即ち内地移住の開墾わ少しも現在の農村振興に役立たぬのである。日本のブラジル移民など、大きく云えば其一例であり、こをした類の開墾わ、内地移住でも、海外殖民でも、元地と本國を金持にせず、却つて貧乏にするばかりである。

ところが部落共働農業でわ、誰も開墾地へ移住せず、交代々々で出掛けて行くのであるから、元地の部落から少しも金を持ち出さず、しかも年々と開墾地の収入が、全部元地の部落の収入になるのである。だから共働農業の別荘式開墾によつて、始めて誰もが無理な金を使わず、淋しい骨折損の犠牲を拂わず、我國面積の八割を占める山岳原野を最有效に開發して、しかも元地の農村を振興し得るのである。

開墾地の主任も、部落の費用で開墾地に立派な住宅を作つて貰い、改選されるまで其處に住まうであろを。しかし家族わ無理に連れて行かぬでもよい。だから誰にも無理な犠牲を負さず、その開墾地わ部落の共働經營であるから、元地より二里や三里や五里や十里離れていても、トラックの一臺も部落費用で設備して置けば、なんの不便もないことである。最初わ資金が不足だから、都會の古物を買

えば、一臺二百圓もだすと、トラックが買える。組合だから産業組合法により利用組合にでもして置けば、自動車税わ掛らない。

年々と二十町位、三年も続けると六十町も開墾ができる。此に於て部落の田畑との間に、土地利用の徹底的な計畫をし、部落周囲の水田になる處わ全部水田にして、桑や蔬菜の類わ悉く開墾地え投り上げる。開墾地で陸稻を作るなど非常に愚な話であり、米わ立派な水田のみで多收穫をし、開墾地の別荘えも十分に食うだけの良質米を、トラックで運んで置く。だから長野縣や群馬縣の如く、また何處の農村でも見る如く、立派な水田になる處え、桑や果樹や蔬菜を植えて置く愚なことがなくなる。

桑や果樹や蔬菜の全部わ開墾地え投り上げる。個人農業でわ、そんな徹底的な耕地の大動員をして土地を最有効に利用することができない。なぜなら、個別農業であるから、手近に桑園がないと、養蠶の間に合わず、また都會の近くの立派な水田を埋めて、蔬菜や果樹を作るのであるが、團體共働農業でわ、トラックが一臺も通をていることであるから、四里や六里や十里遠方え桑を植えても養蠶の間に合い、むしろ養蠶の場所をそおした桑園に近い處え移してもよいのである。或わ寒暑や乾燥の氣候の工合を見て、最も適當な處え養蠶場を設けて少しも差支がない。養蠶の方法も改良されて、永田式一日一回給桑の野外飼育をすることになるを。トラックがあるから、野菜や果樹を開墾地で作つ

て一向に差支がなく、土地を夫々の作物の必要に應じて最有効に使うことが、團體共働農業の大きな利益となるのである。農業方法の凡てを凡て改良するものわ、部落を基礎にした生活團體の共働農業なのである。

二七 生活わどをするか

部落の生活團體が有利な共働農業を行いだしても、日常の生活を直ぐ改革することわできぬ。なにもかも一度に改めよをとせず、まづ農業の方を立派に共働して、新しい年々の生産収入を渦巻形に資本化し、附近の山岳原野も百町以上開墾し、険しい日影山えわ杉や檜や櫟の類を植林し、部落内部の耕地も、土地の總動員と云う程度の最有効な整理をし、瑠環作場道路や、縣道から部落の中央と瑠環作場道路とを縫い、開墾地えまで眞直ぐに伸びる幹線道路も出來て、其上に電化のレールが敷かれたり、數臺の専用トラックが走つたりしだす迄、部落全員の勞働力を最有効に活動さして、部落農村の生産作業を振興するに渦巻形の大努力が續けられた。四十戸の部落生活團體で、毎年四千圓宛の新しい収入が資本化されると、共働の二重渦巻原則によれば、三年目でさえ新しい部落収入わ二萬八千圓と外に四千圓、四年度えの繰越生産資本わ總計六萬圓となるから、四年目の新しい部落収入わ、普通に行けば六萬圓である。生産事業が年々と増加し、部落の資本も亦た年々と増加し、之を最有効に利用する部落の全員わ餘り忙しくなり過ぎたので、共働團體農業を始めてから、男も女も誰れ一人、青

年が都會え出る者わなくなつたが、それでも忙しくてやり切れないから、四年末の相談會でわ餘分な収入六萬圓の中の一萬圓だけを、新しい事業資金に積立て、五萬圓わ生活設備を改良して文化生活をする費用に使うことになり、その建築工事を部落から都會え出て、都會で大工や左官や種々な勞働の職人になつて居る者に、成るべく多く歸つてやつて貰い、建築工事が濟んだ後でも、其等の人々に續いて部落に居て忙しい共働農業を手傳う仲間の一員になつて貰うよをに決議された。手紙でわ意味が通ぜないから、交渉委員が選ばれて東京と大阪に出掛け直接に談判をすることになつた。

交渉委員が東京と大阪え出掛けた。村から出ている職人に集まつて貰い、文化部建設のことを頼むと、一同わ失業や不景氣で弱つて居るので、滿場一致で家族を連れ、早速歸村することに賛成して呉れた。ところが翌日になると、交渉委員の泊つて居る宿屋え電話が掛り、家内が反對するから中止すると云う者が多い。驚いて妻君連中に集まつて貰い、も一度相談し直すことになつた。妻君連中が主人と一所に來て呉れたので、交渉委員が妻君連中に反對の理由を聞くと、口の達者な妻君の言い分わこをである。

重い鍬をさけて、あぶない鎌を持ち、この年になつて土臭い百姓をやるのわ嫌である。實わ百姓がいやさに、都會の方え嫁に來たのであるから、失業して食えなくなつても、都會で死ねれば本望であ

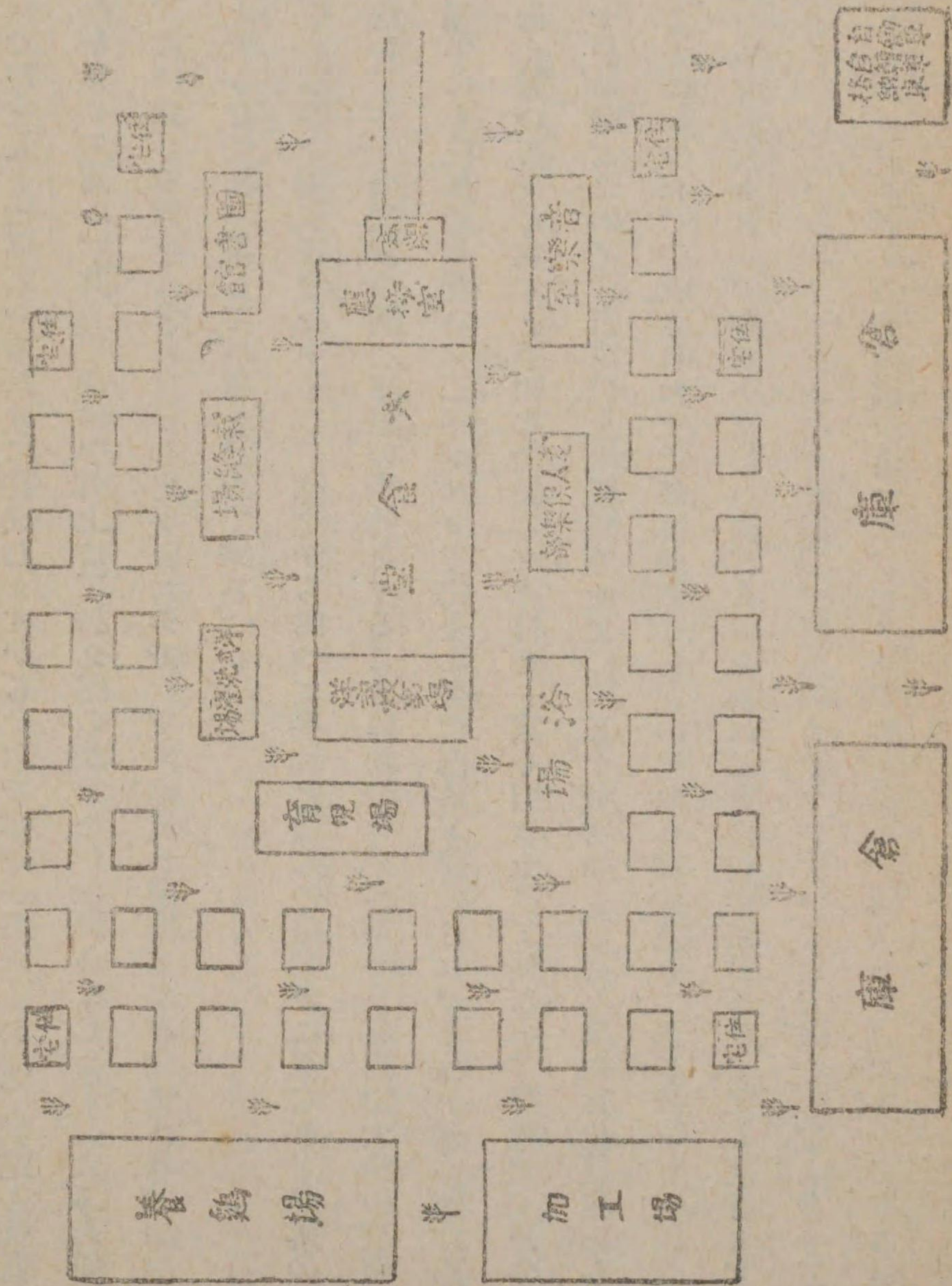
ると、悲しげな挨拶をする。また他の妻君わ百姓仕事が土臭いばかりでなく、第一田舎の臺所が氣に入らぬ。都會の臺所でわ瓦斯があり、金持の臺所となると電気仕掛けであり、誠に臺所の仕事が氣持よいが、田舎にわ瓦斯も水道もなく、灰かぐらの上る燃し木で、背におんぶした子供の頭え灰かぐらが掛らぬよをに、自分の頭から子供の顔えまで、湯上りタオルのよおな大きな手拭の頬かぶりでもして、煙の立つ薄暗い臺所の仕事をする。其後の方から姑や姑の婆さんが、漬物の切り方まで小言を云うて呉れる。娘の時代に善く覺えのあることだが、とても此年になつて、そんな窮屈な田舎えわ死んでも歸えれませんか、非常に強い反對である。交渉委員わ笑いながら、我々も今の農村部落の生活が嫌らしいことを認めて居ますから、此度五萬圓をかけて部落農民生活の大改革を斷行し、都會の一流ホテル程度の文化農村を作ることになりましたから、建築落成の上わ、皆さんが不平を言うよをな缺點がなくなり、また農事の方も共働して面白く分業でしますから、鎌や鍬が重い人にわ、軽い種まきや收穫した野菜類の荷捨らえでもして貰らえよいので、ぜひ青々と冴えた空氣のよい田舎の文化村え歸えるよをにと、文化農村設計の圖面などを出して説明する。それでも頭の固い妻君連中わ、そんな不思議なことが、この不景氣の世の中で、百姓なんかに出来る筈がないと、信じて呉れそをにもないのに弱つていると、若い頭のよい妻君もいて、つくづく都會の不景氣や失業に惱み抜いていること

に思い較べ、それでわ主人を仕事にやるだけに賛成しますから、愈々建築が出来上れば、私達も代表者を選んで、實地を見せて貰い、其上で都會を引上げて村え歸るかどをかを決めましょと、大ぶん妥協した話になり、頭の固い妻君連も之に賛成して呉れたので、交渉委員わ建築工事を請負う専門の親方を探し、やつと大きな任務を果して部落え歸つて來る。

翌日から部落でわ専門の請負親方を中心に、都會から歸つて呉れた職人の勞働者に混じり、部落の青年男女が總動員し、冬の農閑期の間、建築の手傳をすることになつた。其年の五萬圓で大體の設備が出来上り、其翌年にも三萬圓を費い、二年がかりで完全な文化部落が建設され、それを見に來た都會の妻君連中、全く驚いて我も我もと平和な光榮の文化村え一家を引き上げて呉れた。戸數四十戸の部落わ、戸數六十戸に殖えたので、百町以上の開墾地を更に四五十町増加し、益々模範文化農村としての成績を示すことになつた。完成された文化部落の概要わ左の見取り圖の通りである。

中央の大食堂わ都會の大ホテルの食堂を見習い四百人位を入れる立派な洋館であり、床も天井もピカピカして滑る位になつていゝ。テーブルわ大理石で、銀色のナイフやフォークで洋食の獻立を二二度づつ食ふることになり、ラヂオの擴聲機が備わり、ピアノや蓄音器も片隅にあり、餘興のできる舞臺装置も電化されて付いている。食事しながら四百人の大家族で活動寫眞の發聲映畫などを見ると云

部落生活團體の文化設備



う仕掛けである。しかし酒も出さない。ビールも賣らない。煙草ものむなと定めてある。酒代ビール代煙草代サイダー代を一年積むと、これだけの文化大食堂ができますと、食事の夕暮、活動寫眞をやる度に、活辯の青年が注意することになっている。活動寫眞のない夕わ、一幕位の素人芝居があり、或わ音楽劇があり、七時から八時に続く夕食の一時間わ、實に楽しい總團樂の夜會である。けれども歡樂を長く食らず、實わ一度に食り過ぎると、種が盡きるので、毎日一時間の夕食後を、三百家族の大團樂で楽しく暮すことになっている。此有様を見た都會失業者の妻君連中わ、ただの一晚で參つてしまい、第一連れて來た子供達が、都會の場末の汚い棟割長屋の六疊一間しかない、その次の間が便所と臺所である窮屈な處え歸えるわいやだと泣くので、都會の妻君連、すつかり文化村の志願者になつてしまい、どをぞ百姓の仲間にして呉れ、子供の爲だから、鍬でも鎌でも肥桶でも持ちますから後生だから仲間に入れて呉れと拜みだす。彼等わ停車場から専用自動車で、植込のある噴水と築山の晴れ晴れしい廣場を通り、大玄關に下されて、暫らく應接間のブクブクするゾーファの上に待たされて、香りよい豆茶と林檎や梨の牛乳漬を御馳走になつた時から氣が變になつたのである。

炊事場わ西洋竈で燃し木を焚いても完全燃焼をして、烟の出ない装置になつて居て、煮る代りに凡てを焼く料理であり、煮るものわ米の飯と味噌汁位になり、野菜でも果物でもみな焼いて、加工場で

絞つた菜種油を十分に使う。六千羽もいる養鶏場から、雛の雄や病気で死ぬる雌の親鶏が隔日に三四十羽来るので、死んだ鶏を賣ること出来ないうが、食べても決して障りにならないから、隔日に一度わ鶏の焼肉が献立にのる。養魚場にわ鯉や鰻が飼われ、田にわ鱒や田螺が養われ、其等も時々焼料理の献立を賑わす。開墾地の大牧場の牛乳わ、一人平均毎日五合位飲まなければならぬ割當になつて居る。都會で一合十錢に賣つて居る牛乳も、農家が練乳會社へ卸すと、壹合せいぐ、壹錢二厘なので五合飲んでも六錢にしかならないから、農民わ新しい搾り立ての牛乳を毎日五合づゝ飲むことにしている。三度々々の献立わ西洋料理であるが、都會から買うものわ、砂糖と鹽だけで、豚の腫肉も加工場で都會へ賣り出す二三割を食堂の方へ運ぶ。牛も村營の屠殺場で一週間に一頭位殺し、其肉も都會へ賣る前に半分わ食堂へ運ぶ。炊事場でわ毎日十人が交代で炊事係をするが、主婦わ六人位で、其餘の四人わ男の者にも交代で出て貰い、男わ皿洗いと云うよをなことをして呉れ、此處でわ女尊男卑であり、主婦の爲にわ時々料理の講習會が開かれる。當番で出る主婦わ一週間交代であるから、六十戸が一週りするにわ二ヶ月半かゝり、女わ家庭の臺所から解放されて、二ヶ月半に一週間位、女尊男卑の西洋炊事をすればよいので、實わ當番が早く来るのを楽しみにしだす。見物に來た都會の妻君連中、丸で外國えでも行つたよをだと驚く。

朝食わ夏ならば五時か五時半、冬でも六時か六時半、しかし炊事の時間わ三十分もあれば出来る。なぜなら、朝食わ玉蜀黍を潰したマッシュと云うものを拵らえ、牛乳と砂糖を入れて、十五分間煮たものだから。マッシュと云うわ米國式の料理であり、合衆米國でわ小麦を一億五千萬石作るとすれば玉蜀黍を六億五千萬石も作り、その玉蜀黍を鶏にも牛にも豚にもやるが、米國人わ朝食わ誰でも玉蜀黍のマッシュを牛乳と砂糖で煮て食べる習慣であるを眞似したのである。マッシュわ玉蜀黍の實を鐵製のロールで締めたもので、日本人の如く玉蜀黍を燻して嚙つたのでわ、腸の吸收率が悪いから、切角の營養物も無駄に胃腸を素通りすることになるが、マッシュにして軟くすると、米飯以上の營養價值があると云うことである。参考に數種食物の營養價值を掲げよを。

主要食物營養價值

	蛋白質	脂肪	澱粉	含有カロリ
玉蜀黍	九・五八	五・〇九	六七・八九	三六五
米	八・四〇	二・四七	七一・六三	三五二
大麥	八・九二	一・二二	七一・五三	三五三
小麥	九・三四	一・三四	七四・七五	三六六
蕎麥	一四・四一	二・五〇	七〇・四一	三六二

大	豆	三・四・七〇	一八〇〇	二七・六九	四五〇
豚	肉	一四・五四	三七・三四	—	四〇七
鶏	卵	一二・五五	一二・一一	〇・五五	一六六
薩	芋	一・三五	〇・一九	二八・七四	一二五
馬	肉	一九・三六	二・八五	一・二七	一〇六
銅	薯	一・九九	〇・一五	二〇・八六	九五
蠣	鈴	一八・九七	一・九一	—	九五
		八・四五	〇・八九	—	四三

中食わ米飯とし、兵隊の飯盒のよをなものをえ入れて甘いをかずを付け、専用自動車で作業場へ運ぶ。夕食わ大麥の類をバーレーミールにしたものに、また牛乳と砂糖を入れて十五分ほど煮た、とても軟くて滋養になるものを配る。これだけで營養わ十分であるが、舌の神經を満足さしてやるのも一つの文化生活であるから、一皿の軽い焼肉が付き、また果物も一個位、芋や豆や餅米や小麥粉を材料にした自製の西洋菓子や餅菓子も配ばられ、自製紅茶や、玄米をこがした和製コーヒーも運ばられる。其間に映畫や劇やラヂオが始まり、楽しい一時間の會食をする。八時頃には疲れた人々が各自の住宅に歸えつて安眠に入る。

階上わ相談をする會議室や事務室や青年俱樂部などがある。大食堂の繞りに育兒場や洗濯場や浴場

や音楽室や圖書館や裁縫場がある。育兒場えわ婆さんが集まり、乳離れした幼兒を抱えて、子供と婆さんの極樂である。嫁いじりなどせずとも、佛まいりなどせずとも、婆さんわ好きな子供をあてがわれて、六十三つ兒の満足をする。爺さんわ老人俱樂部で謡でもうなる。千利休や豊太閣の眞似をして茶の湯を立てる者もあるを。書畫を楽しむ者もあるを。淋しくない樂隱居を人生の最後として、男も女も老人が賑かに日々を送るのである。圖書館や音楽室や裁縫室の完備を語る必要わない。大浴場があり、一度に六七十人が男女別々に入れるから、仕事より歸ると直ぐ入浴して、食堂え行くのである。大浴場わ温泉場のプールの如く完備している。散髪場や婦人のための洋風美顏術の髮結場も完備している。洗濯場わ歐風の機械化で、此にも當番が決めてある。

建物の間にわ植木や苔の生えた庭石が置かれ、噴水の水が流れ、鹿も鳴き小鳥も啼く。各人の住宅わ庭園の周圍に八疊四部屋を標準にして、ホテルの離座敷の如く建ち並ぶ。一部屋わ絨氈の敷かれた西洋室で、書見の机が主人と妻君の爲に備わり、夫婦と子供だけで一軒を占領し、水入らずの私生活をする。臺所わなく、炊事場の方からスチームの鐵管が通り、燃料わ薪であるけれども、とても温くて冬知らずに夜も晝も暖められる。親子が別々に住んでいてわ親不孝になりわしないか。それで、老夫婦にわ隣の八疊四部屋の一軒があてがわれ、息子の家と隣り合ひ、其間にベルが引いてある。夜中に

婆さん腹が痛みベルを押すと、嫁さんが直ぐ介抱かいほうに来て呉れ腹をさするから、少しも親不孝にならぬ。外出にわ専用の自動車や自轉車があり、ベルさえ押せば當番が玄關口を出して呉れる。部落の中なかにわ藥劑師やくざいしも一人わいるのである。部落團體の力で、生活剩餘を持ち寄るのであるから、酒や煙草の節約からでも、數年の間にわどんな設備でもできるのである。群馬縣佐波郡名和村わ非常に大きな借金をした爲、村民一同が奮發して禁酒を斷行し、ただ其だけで數年の間に借金を返して立派に復活した。禁酒禁煙の勵行だけでも、部落の文化設備費用わ浮き上るのである。しかし個人別々の淋しい生活をしていてわ、禁酒禁煙を勵行することが困難である。部落共働の生活團體が、楽しい大家族の生活をしだすと、禁酒や禁煙も苦まずに勵行されだす。

二八 次三男問題が解決する

生活團體の部落共働農業でわ、廣い開墾地ができ、無數の家畜が飼われ、種々な加工場が建ち、仕事しごとが忙しくてやり切れないので、都會え出ている者わ皆歸つて貰らう。それでも中々忙しいので、今後生れる次三男わ、都會え出どころでわない。よし都會え出た處で、場末ばすえの汚い棟割長屋むねわりちやうで、淋しい失業の苦しみをせねばならぬから、共働部落農村の文化生活設備が出来る頃ころにわ、誰もが都會え出なくなる。

今日の農村に於ける最大の悩みわ次三男問題である。地主階級わ田畑を質に入れ、借りた金を都會みやこに貢いで、次三男を都會の學校え通わすが、學校を出た處で就職することができない。長い間賑やかな都會の軽い風かぜに浸み込んだ者が、村え歸えつて骨の折れる淋しい個人別々の汚い重い農業ができるものでなく、よし頑丈がんぢょうな身體を自慢して、小作人から無理に田畑を取り上げて、財産を分けられた一町百姓の自作農業をさして貰ろをた處で、緊張した熟練じゅくれんの農業のうぎょうをすることを知らない大學や専門學校の卒業生に満足な百姓のできるわけがなく、小作人から田畑を取り上げて、不熟練なだらしない百姓

をさす事わ、土地利用の最も不利益なものであり、作物よりも雑草を忠實に成長さすであるを。幾年か後にわ、食えない小農階級に彼等もまた落ち込み、その彼等を見るとき、田畑を取り上げられて恨みを含む部落の人々わ、寄ると觸ると彼等の悪口を云い、あんな拙な百姓になるのに、大學の放蕩科を卒業する必要があつたのかと、子思いの親爺の悪口まで云いだし、よし彼等が農科大學や高等専門の農學校を卒業した處で、五反や一町の個人農業に、大金を費して習い覺えた研究室や温室農業を實行することわできず、部落の普通農家を眞似て、部落の普通農家に劣る彼等の自作農わ、つくづく學校教育の無用であつた事を痛感さすであるを。かよをに地主の次三男わ都會の月給取りになる目的の學校を卒業して就職ができず、村にもいられない悩みがある。まして自作農以下の次三男わどんなに悩み苦しんでいるであろを。心ある親わ切角育てた子供をどをしてよいか分らず、共に共に農家次三男問題を悩み苦しんでいる。最も大きな農村問題わ次三男の行衛である。

日清戦争以來、發展する都會の膨張につれ、今までわ兎も角も次三男を都會え集めることができた。都會萬能の商工金融主義でない政治家まで、都會さえ發展すれば次三男の捌け口があり、農村も行詰らず、人口問題も片付くから、都會を發展さし、他方に食糧さえ多收穫すればよいと、眞面目な動機から、耕地整理や多收穫を奨励し、都會の月給取りや賃銀取りの職業教育を、過去に於ける政治と政策の

大方針として來た。しかし就職難と失業に悩む今日でわ、過去の大方針と政策の誤謬を總清算しなければならなくなつた。

都會にわもを仕事がありませんと、東京市役所さえ全國の停車場えポスターを張廻し、青年男女に上京差し止めをせねばならなくなつた。其でわ都會え出られない農家の次三男わどをすればよいか。心掛けのよい處で、地主の次三男わ分家して自作農となり、田畑を取り上げて小作人を困らす。自作農の次三男わ分家すると、小作農になれるかも知れない。それにつれて田畑のない小作人わ益々困ります。結局小作人の次三男わ何處へ行けばよいか。無理に彼等が都會え出て、工場の見習職人を志願すると、年期が明ける頃、都會の四十男の失業問題を一層險惡にする。

私の友人にわ幾人も都會労働者がいる。労働組合の幹部と消費組合の幹部がいる。彼等と彼等の仲間が労働争議に關係し、或わ無關係な純潔でいても、勤めている工場が不景氣になると、高給な年長者から順繰りに解雇し、其代りに若い年期上りで働き盛りの青年労働者を安い賃金で採用する。解雇された方でわ、米の飯とお天とう様わ何處にもあると痰呵を切つて、職工募集の工場を探し廻り、門衛え履歴書を出すと、君わ四十歳かと云われ、男四十が働き盛りだと思ひ込んでいたから、そをですと威勢よく答えると、四十歳でわしよをがないと吐き出すよをに跳ね付けられ、始めて全く悲觀した多く

の友人を私わ知つてゐる。妻子ある四十男わ、昔なら働き盛りで重寶がられたが、今日でわ仕方が無いと吐き出される萬年失業者である。労働組合わこをした工場に於ける職工年齢の合理化が職業紹介所の手を通して行われる事に反対し、安定ある労働条件の獲得を目的としている。労働組合が安定のある労働条件を獲得したときに、こんどわ愈々小作貧農の次三男の行き場所がなくなる。都會労働者わ農村の小作貧農と天秤てんびんの兩方にぶら下り、どをも利害が反対する別の階級であるらしい。都會労働者が安定な労働条件を獲得すれば、それだけ小作貧農の次三男わ行き場所のない悩みを増す。だから都會の指導者が労働者農民よと呼び掛けるとき、彼等が純真であれば、都會労働者にのみ偏頗へんぱな善い労働条件の獲得を遠慮して、都會にわ失業の群よ、農村にわ行場のない次三男よと呪い、現代を破壊する外に方法のないことを發見する。しかし彼等が都會を破壊するのならば勝手であるが、彼等が農村をも破壊すると云うとき、農民わ農村の何物も破壊されてわならないことを警告するであろを。田でも畑でも道路でも農具でも、我等農民の持つ一切のものわ、何人からも破壊されてわならぬ。

破壊々と叫ぶ彼等わ、實わ無抵抗主義である。破壊々と威勢のよいことを云いながらも、彼等のすることわストライキやサボタージュや、そをした消極的のことをやる程度であり、消極的にサボつたり罷業したりするのわ、破壊でない無抵抗である。無抵抗でサボつてばかりいてわ、都會指導原理

わ何事も解決し得ない。もし彼等が本當に勇敢に積極的の闘争をすると云うならば、その成功を待つ時間に、我等農民も明日より生活團體の部落共働農業を努力して實行しよをでわないか。そのとき次三男の問題が始めて完全に解決される。

共働生活團體の文化村ができた。食堂も炊事場も俱樂部も浴場も圖書館も庭園も倉庫も自動車も鶏舎も牧場も道路も田畑も開墾地も森林も加工場も、凡てが部落農民全體の共用である。年々一人か二人の割合で、次三男が新しい世帯しよたいを持つ。其順序が豫定されているので、毎年農閑期に部落の器用な者が集り、部落の森から良材を切り出して置いて、立派な八疊四間やちよんの一軒か二軒を建て上げる。木の香の新しい新築え豫定の次三男に新妻を迎えさして、幸福な部落農民の一世帯か二世帯が殖える。地主と自作農と小作人との間に何の差別もなく、年長者から順に世帯を持たすのである。

今までわ子供を澤山に持った小作貧農わ、自作農でも地主でも、親も子も次三男問題に悩んでいたが、もを悩みわなくなつた。兄も悩み母も悩み、農村全體の悩みわ次三男問題であり、分家するにわ臺所や養蠶室のある大きな家を建て、既うまやも付けねばならず、少なくとも、千圓や二千圓なければ分家出来なかつた。農具も家具も家畜も、随分と澤山に分家するにわ仕度があつた。だから分家わ事實不可能であり、よし分家しても田畑が得られない悩みが其上にもあつた。こをした次三男問題の悩みに

今の丁抹も苦しみ、三河の碧海郡も苦しんでいる。丁抹でわ長男わ父の牧場を相續できるが、次三男にまでそれができない。丁抹農村の次三男も都會え出掛けねばならず、世界並に丁抹にも非常に多い失業者があつて、國わ少さくても失業者の多いことわ世界の第八位である。次三男問題を解決し得ない丁抹農村わ、既に行詰つて理想の農村でわなくなつた。丁抹の眞似をした碧海郡にも同じ悩みがあり、部落生活團體の共働農業に依つてのみ、この大きな悩みが一扫されて、農家の次三男わ始めて明るい未來の光明を見ることが出來だす。子の爲に親わ、弟の爲に兄わ、部落を生活團體の共働農業と共用文化え導かねばならぬ。

二九 婦人問題が解決する

高知縣の戸波村へ行つた時、農事改良組合長官地傳氏が私に語つた。我等の農村でわ婦人が非常に氣の毒である。野良の仕事を一前して、臺所の仕事もし、洗濯もし、また婆さんの肩も揉み、子供の世話もする。さて野良の仕事え出る段になると、例えば昨夜來た花嫁が、明日野良の仕事に出る段になると非常な悩みに行き當る。仕事の都合で父親わ山の畑え行かねばならぬ。息子の良人わ田え行かねばならぬ。父親と息子と意見が違い、父親わ山え、息子わ田え行くこともあるを。さて其場合に嫁が良人に從ごをて田の方え行くならば、忽ち近處隣りの大評判となり、こんど來た嫁わ仕方のない親不孝者だと、四方から惡口を云われる。だから仕方なしに良人の方え行かず、父親と一所に山の方え行く。そをすると近處隣の評判がよい。それで農家え嫁に來ると、息子の嫁やら父親の嫁やら分らず、農村に於ける婦人ほど氣の毒なものわないと、古い習慣を慨きながら語つた。

男わ生れてから死ぬまで部落にをり、幼い時からの友達や兄弟と一所に暮すが、女わ遠方え片付き生れた家の父母から遠く離れるわもちろんのこと、友達からも姉妹からも離れて、誰一人幼い時から

の親しみのない遠方縁付けられて、良人以外に相談相手になる者さえもない孤立にされて終まう。社會上に於ける婦人の地位が輕んぜられる根本の原因が此處にある。婦人にわ友人も兄弟もないのである。

婦人わ全く知らない遠い世界に縁付けられて、臺所と夫と子供の外に世界がない。しかし共働農業の部落生活團體となれば、婦人の地位わ一變して、婦人にも兄弟と友達がある心からの喜びが、婦人を廣い處へ解放する。婦人わまた男と同じよをに、才能に應じて種々な仕事を分擔し、日々の生活上に於ても、少しも男に劣らなくなる。

女に取つて結婚わ、最も大きな問題である。男にとつてわ其程でもない。なぜなら男わ生産上にも社會上にも活動し、父母の膝元で、兄弟や友達と一處に暮しているから、妻を迎える事わ内助の手を少し増し、友達を一人殖やす程度でしかないが、女に取つてわ只だ一人の友達と頼む良人の元え、全く新しい生活をしに行くのであるから、結婚わ女に取り百パーセントの大問題でなければならぬ。だから結婚わ男から働きかけず、女から働きかけるが當然であり、男わ色々忙しく盆槍していると、女から無理に働きかけられて、まんざらでもなく、女の切ない要求に應じてやるのが、新しい時代の結婚でなければならぬ。

若い女が勝手に男を探し、男に言い寄つて口説きに廻るのでわない。結婚生活に十分の經驗ある、女同士の先輩が、友達や妹の爲に男を探して口説いて呉れるのである。友達や妹の爲と云うけれ共、實わ幼い時の友達や、最愛の妹と一處に終生の生活をしたい自分の切望から、女が女に對する切ない同情の愛から、愛する郷里の友達や妹に適當な良縁を見付けて、是非彼女を自分と一處に生活さそをと、さてこそ自分の生活團體の中で氣前のよい、來年わ新しい世帯を持つことに決つてゐる順番の青年に、結婚媒介の相談を持ち掛けるのである。良人も加勢して呉れる。美人で優しい勤勉な友達だ妹だと、よい仲人口に青年わ悪るかを咎がなく、話わトン／＼拍子に進行して、良縁吉日に新しい木の香の高い新宅え、縁付いて來る花嫁を、良人になる青年わ、自分の處え嫁入つて來たと自惚れてゐるが、花嫁さん實わ姉や友達のいる生活團體え嫁入つて來たのである。

理想の結婚を成立たし、花嫁さんを招き込むものわ、生活團體の立派な農場と牧場と、文化住宅の諸設備なのである。だから村の青年わ男でも女でも、自分達の生活團體の共用生活設備を、都會の一流ホテルに負けず、立派なものにしよをと努力するである。農閑の休暇にわ、都會の大工や指物師や鍛冶屋や塗師や石工や、夫々の専門の處え短期の見習に住み込み、農民わ何かしら農民藝術を専門に習い覺え、各々が技能を持ち寄つて、森林の良材や、山の太石や、地の底の粘土やで、年々と倦ま

す撓まず自分達の文化食堂や住宅や庭園等を整えるものだから、部落や富豪の別荘に都會の大ホテルを突きませた最高文化の諸設備を完備するわけのないことである。そをした共働生活團體で、婦人ね幼い時からの友達や姉妹と終生の楽しい生活を、男と全く同じ権利や自由を持つて暮す。生活團體の共働農村部落に於てのみ、婦人問題が完全に解決するのである。

三〇 小作問題土地問題が解決する

土地制度が亂れると必ず國が減びる。大化改新わ土地制度を整理し、義家以來の武家政治も土地制度を整理した。明治維新も實わ徳川が大名に農民を搾らし、農民を搾つた大名をまた徳川が搾り、日本中に徳川以外に金持ちがないよをにしよをとした極端な搾取の行詰りを、新しい智識階級が打開したのに原因している。

羅馬を顛覆した原因も土地制度の偏頗であり、佛蘭西革命も土地を少数者が兼併した壓迫の爆發であり、露西亞革命の原因にも、貴族の土地獨占があつた。我國の土地も現在少数者に集中されているを思うと、此儘で行けば都會の失業問題と不景氣問題と、それに農村疲弊の行詰りが加わり、如何なる結果となるかわ誰でも容易に想像し得ることである。我國民族生活を安穩にするにわ、土地問題を解決しなければならぬ。

明治維新の際、諸侯が藩土を奉還したとき、事實上の使用者に土地の所有權を認めて、土地の使用關係と所有關係を一致せしめた。だから明治維新わ土地制度の大改革でもあつた。けれ共賣買讓渡勝

手たるべしと云う、新しい西洋流儀の所有權わ、土地を勝手に賣買讓渡さし、間もなく土地制度を亂してしもをた。既に明治十六年にわ

自作地 二百十萬六千六百町

に對し

小作地 一百二十五萬五千八百町

となつたが、少數大地主の土地兼併わ年々進行し、昭和三年の統計でわ

自作地 三百六萬二千二百二十九町

に對し

小作地 二百八十三萬五千九百六十七町

と非常な激増を示した。

奈良縣吉野郡わ我國第一の杉の良材を産出する處である。同郡高見村青年團え招かれたとき、村役場の助役高橋周治氏から聞いた實話を紹介しよを。其村を見渡せば、吉野杉で立派に建てられた二階家が並び、村人の身なりもよく、伊賀境の山奥であるにも拘らず、自動車を通い、周圍の山わ青々と繁る杉の大樹で、此村ばかりわ疲弊を知らずにいらしく思われた。けれども高橋助役の話によれば

一三年前から村人わ木から落ちた猿と同じで、方法の付かない失業者となつていて、村人全體が如何ともすることのできない疲弊のどん底に墜ちているとのことである。農村でありながら、百姓も出來ず、全村民が完全な失業状態にいとわ、誠に不思議でないか。しかしそれわ事實であり、其と同じ事實が信州の木曾や其他の林業地に見受けられる。林業を主とする何處の村でも、事情わ略々同じであるので、代表の意味で高見村の疲弊の原因を略述しよを。

明治維新の際、田畑わ作つている者え、山わ木を植えた者え、又わ其等の人の子孫え、完全な所有權が渡された。完全な所有權であるから、田畑でも山林でも、賣ろをと質入しよをと勝手放題となつた。學問と自然科学わ決して勝手放題を認めぬけれども、人の作つた法律と所有權のみわ、賣ることも質入することも勝手放題とし、實わ内々そをした勝手放題を保護獎勵したのである。これが高見村其他の全國山村並に農村疲弊の遠因である。

高見村のことを云わを。明治維新の改革により、高見村民わ大きな面積の山林の完全な所有者となつた。賣り次第の自由平等となつたから、村民わ我も我もと自由平等の所有權の有り難さを試そをと山も森も林も競争で賣り出した。驚ろいたのが村の年寄連中である。幾ら明治御維新が有難くても、山も土も森も林も賣られたのでわ、餘り有難すぎて未來の罰が恐ろしい。有難い所有權だから、木を

賣る位わ仕方がないとして、土を賣ることわ禁止をしよをと、種々協議した結果が、木わ各人の私有財産にして、賣買質入勝手放題にさしたが、土だけわ、即ち山だけわ、部落々々の共有にして、個人わ賣ることも質入することも出来なくした。村人わ森や林や全部の木を賣つてしまい、其金で酒でも買をて、暫くわ明治聖代の有難さを謳歌した。處が年々木を賣つていると、森も林もなくなり、禿山ばかりが残つて、木を賣つて働かず酒飲の樂な生活に馴らされた村人わ、骨の折れる植林などせずにした。奈良や郡山や橋本や平坦部の金持が来て、縣廳からの植林奨励の補助もあり、結局禿山を全部金持に借し渡し、金持わ村人に日當を拂をて植林することになり、幾十年かして其木を切るとき、賣上の一割を地代として村の部落え支拂らう相談になつた。黒森の如く繁る吉野杉わ全部村や村人のものでなく、平坦部の金持のものである。

土だけ持つて、畑と森と林を持たない高見村民に、幾十年間かが経過した。金持から僅の日當を貰をて植林し、其間に木が大きくなつた。また金持から僅の日當を貰をて、木を切り之を運ぶ山仕事をした。そのときにわ木の賣上げの一割が地代として部落え這入つた。其等の収入で村人わ生活を續けていた。戦時好況時代などわ材木が暴騰し、村人の収入わ相當に多く、立派な二階の家が立ち、華美な着物も出來たのであるが、數年以來の不景氣で材木が暴落すると、植林家の平坦部の金持わ少し

も木を賣らなくなつた。從て植える仕事も運ぶ仕事もなくなり、自動車までが侵入して來て、馬車の運搬仕事まで取上げた。山猿わ完全に木から落ちた。高見村並に全吉野の山村わ、數年に連續する完全な失業状態にあり、山の土わ持つているけれども、森も林も持たない彼等わ、金に代える何物もなく、土からの地代さえ植林家が木を賣らないから少しも這入らず、收入皆無のドン底に墜落したのである。

吉野山村民の窮迫わ、木の所有權を認めて自由に賣らしたことに遠い原因がある。幸にも土地だけわ部落の共有にしてあるので、賣らずに持つているが、山仕事して百姓する習慣のない彼等わ、開墾して農作することさえ知らずにいる。私わ土地が部落共有だから、共働の開墾をして、生活團體の共働組合を組織するよをに青年男女の前で懇々と説いた。

吉野山村民わ土を賣らずに木を賣つたが、平坦部の農民わ勝手放題の所有權が渡されると、有難すぎた自由な田畑の所有權を賣つた。物堅い農民の中にわ僅の地租を恐れて、田一反に酒一升を付け、口やかましい代言人に預かつて貰ををた者もある。北秋田第一の大地主庄司家の由來がそれであり、預けた筈の田畑に對し年々と小作米を取られるので、幾年にも互り容易に解決しない大きな小作爭議が起つたのである。私の居村の葛山でわ、廣い山林え一反に一合でも酒を付けて預ける譯にゆかず、

御宿の町に酒屋や醬油屋をしていた三軒の湯山家え、酒代や醬油代を滞こをらしめてわ、山も畑も田も押し付けてしもをたのである。かよをに明治維新の土地改革わ、年貢をとつて領主から田畑山林の土地を引き上げ、使用の事實を確認して其儘有難くも百姓一同え完全な所有權を渡した土地制度の大革命であつたが、この有難い土地制度の大革命わ僅の間に再び亂れてしまい、少數大地主の土地兼併となつたのである。

今さら所有權を否認して、明治維新の大御心通りに使用の事實を確認することわ出來ない。けれども部落の生活團體が共働農業を行うとき、所有權わ登記所の帳簿の上え退却して、事實わ部落の共有となり、米が一俵五圓にも暴落した今日でわ、所有名義人の地主が取る年貢米わ、高い租税公課の負擔を償う程度でしかないから、土地制度を民法の規定に従いつつ、部落共働農業の新しい基礎え改革するに、無理のない好い機會が來たのである。現在の所有權を認めたまゝ、地主から土地を部落の共働農業生活團體が借入れ、今日を標準にした地代を支拂えば、地主わ小作地を取り上げず、自分と子弟共働する面白い萬人労働の一員となつて、地代で税金を拂い、自分の労働報酬で立派な部落の文化生活ができるのである。地主も自分と子孫が生きる唯一の永久方針として、生活團體の部落共働農業に率先して賛成せねばならぬ。

三二 多收穫多角型肥料自給等の 農業問題が悉く解決する

一切の生産要素を最有効に利用しなければならぬ。多收穫を單に農業収入から考えず、自然の生産要素を最有効に利用することであると了解するとき、我等わ人類の義務として多收穫をしなければならぬことを氣付く。學問的に云えば多收穫とわ太陽が地球に與えるエネルギーの熱量を無駄に逃さず農業に依つて成るべく有効な作物に取り留めることである。

太陽わ垂直に照らされる一糎平方の地面え、夏の日ならば日中毎分平均一・五カロリーの熱量を與える。曇天や冬の寒い日などを勘定に入れると、地面が普通に受ける一年中の太陽エネルギーの熱量わ、一ヘクタール(約一町)に付き一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇カロリーである。多收穫とわ此莫大な太陽の熱量を、澱粉や纖維質やにして、人間の需要する食物並に工業原料とする作業なのである。

莫大な太陽エネルギーを食物や工業原料に取り留めるにわ、植物の葉緑素に働いて貰い、空氣中に一萬分の三の極微量しかない炭酸瓦斯から炭素を取り、之を根から上る地中の水と結合せしめて、澱

粉や糖分や纖維質や脂肪や蛋白質等にするのであるが、植物が空氣中の極微量な炭酸瓦斯に働くので、随分と成績のよい作用をするに拘わらず、穀物ならば小麦でも一ヘクタールから四、〇〇〇疇の穀粒と、八、〇〇〇疇の藁を收穫し得る程度で、其中の水分と礦物質を除けば、可燃物は一〇、〇〇〇疇になる。馬鈴薯や燕菁なら、葉をも入れて一ヘクタール八〇、〇〇〇疇、玉蜀黍一〇〇、〇〇〇疇を收穫し得るが、水分等を除いた可燃物わ、今日の多收穫農業でわ、收量の多い馬鈴薯や玉蜀黍に付いてさえ、一五、〇〇〇疇を超えない。但し之わ佛蘭西巴里附近の氣候に付いてのことであり、熱帯地方でわ芭蕉を栽培し、一ヘクタールから二〇〇、〇〇〇疇のバナナを收穫し、乾燥可燃物にしても四五、〇〇〇疇に及ぶことがあるのである。澱粉と纖維質わ一瓦に付き四カロリー、脂肪わ一瓦に付き九カロリーの熱量を持つと計算されるから、可燃質平均に五カロリーと計算すると、一ヘクタールの生産する可燃植物質一五、〇〇〇疇わ79.20カロリーのとなり、太陽から受けるエネルギー熱量の百分の一以下しか有効に取り留めることができない。多收穫とわ植物の品種や栽培方法を改良して、成るべく多くの太陽エネルギーを有効に取り留めることであり、それにわ愚な百姓でわ科學の進歩した今後今日以上の改良をすることわ不可能で、實わ百姓ほど學問と智識のいる仕事わないのである。作物をよく栽培して有効に太陽エネルギーを取留めさすにわ、進歩した最新の科學と、熟練した技

術を要する。農業ほど智識のいる仕事わないのである。都會の商人や労働者わ單純な仕事しかしないので、實わ餘り智識のない者でも出来るが、農業だけわ十分に智識ある熟練者でないと、多收穫わ愚か、土地を瘦せらかして、雑草ばかり生すことになる。例えば煙草を作つても、上手な人わ一反から五百圓の收入を擧げるのに、拙な人わ十圓位しか擧げない。養蠶でも篤農家永田新司郎氏わ、一反から平均七八十貫の繭を取るが、長野縣でも木曾地方でわ、一反十五貫平均しか繭を取らない。同じ面積で同じ手間をかけ五百圓と十圓の大きな收入の相違があるわ、労働者や月給取りに考えられないことである。農業者は學理を應用して熟練の域に達すると、そんなにも相違のある多收穫をなし得るものである。

多收穫をせねばならぬ。けれども其にわ最も進んだ學問と技術と熟練がいたので、専門々々に分れて一生の仕事に研究しなければ、五反百姓の多角形農業でわ、なにをしても多收穫の反對となる。部落共働農業でわ、頭の善い人々を専門に分け、その専門の智識と學問を極めさし、技術も熟練も専門篤農家の域に達せしめて、一般の人々わ其方針に従い、最も有効な分業をするから、部落生活團體の共働農業わ、部落全體の收穫を最高記録の多收穫に近付かし得るのである。

穀物を作つても、藁まで入れぬと一ヘクタール一〇、〇〇〇疇の可燃物が取れない。可燃物の收穫

が多い玉蜀黍になると、一五、〇〇〇疋の大半は葉や莖である。しかし稻や麥の葉や、玉蜀黍の葉や莖を、人間の胃袋が消化し得るであらうか。また此等の纖維質を、立派な工業材料に使い得るであらうか。稻麥の葉や、玉蜀黍の葉や莖が食物にも立派な工業材料にもならぬ處に、家畜を飼う必要がある。牛は此等のものを、味よい肉や滋養に富む牛乳にして呉れる。豚は牛よりも贅澤であるが、それでも薯の葉や蔓の類を甘い肉にして呉れる。鶏が一番贅澤な奴であるが、彼も麥糠や草の葉まで肉と卵にして呉れる。此に多角形有畜農業の必要が起るのである。

鶏を飼えば卵を産まし、牛を飼えば多量に乳を搾らねばならぬ。豚も早く肥えさせて子を多く産ますが必要である。上手な養鶏家わ、一羽の鶏から一年三百六十五卵以上を産まし、牛飼の名人は一頭のホルスタインから一日三斗以上も乳を搾る。しかし農家普通の副業養鶏は一年一羽百卵以下であり牛を飼っても平均一日三升位しか搾れない。だから多角形の有畜農業は多收穫の結果を擧げないと、却つて一國生産要素の濫費となる。

鶏を飼うなら、上手に人工孵化と育雛をして、多産鶏のみを人為淘汰で集めねばならず、牛を飼うなら絶対に下痢させぬよを、しかし飼葉を多食させて乳を多く出さし、随分と際どい飼方をせねばならぬ。それに胃腸に少しでも變な工合が起りかけると、一切の病氣を未然に防ぎ、また大切な牛で

あるから獸醫でも治し得ない病氣まで治す程の熟練に達しなければ、一日三斗は愚か、標準平均の、一年一頭十六石の搾乳すら容易でない。だから個人農業の有畜多角形經營は必ず失敗である。しかし人類生活の必要は特に我國の如く面積の狭い人口の多い處で、葉も莖も蔓から草の葉まで、家畜に與えて肉や乳や卵や味よい貴い食物と工業材料にする必要がある。之を成功せしめるに、部落生活團體の共働農業以外に斷じて方法がないのである。

有畜多角形多收穫農業が成功するとき肥料も自給されて、金肥と其原料に年々二三億萬圓も流出する金貨の大部分を取留め得る。高價な金肥のみを與えていけば、地力は衰え土地は痩せる。秋田縣の産米が年々改良されたのわ、率先して有機物を入れたからである。南秋田郡下井河村の如きわ、少しも金肥を使わず、有機物を一反に五六百貫も入れて、年々一反五石近く多收穫を續けている。有機物わ土地を膨軟にし、且つ空中窒素を同化吸収する土中の細菌の飼料となつて、其細菌は空氣の七割を占める窒素を土中に還元して呉れるから、家畜の排出物と家畜に踏ました有機物とを土に入れていれば、金肥を使わずとも田畑は年々肥えるのである。併し重い有機物を厩から田畑へ運搬して十分肥料に使うことわ個人の農業に無理であり、是非とも部落生活團體の共働農業とせねば實行が續かない。

部落生活團體の共働農業は、單純な主義や思想や意見でわかない。一切の自然科學から嚴重に調査し

て、學問の理論が避けることのできない要求として結論する所のものである。土地狭く人口多い我國でわ、如何なる困難を冒し、どんな障害に出遇をても、必ず實行しなければならぬ自然科學からの、人口食糧問題解決の唯一方法である。而して其わまた農村振興と農民生活改善の根本方針である。之を實行しなければ、年々百萬人近く増加する人口を生活さすため、年々と山岳原野を開墾しても、今まででさえ二三億萬圓の外國肥料がいるのに、山の畑まで金肥を使うことになれば、内地人口が一億萬人二億萬人となつた將來、我國わ金肥と其原料代だけで破産し、田畑山林住宅鑛山まで、外國の資本家に擔保に渡さねばならなくなる。

部落の團體共働農業によつて土地わ改良される。多收穫にわ土地の改良が最初の要件である。多收穫の大家森繁氏わ、水田の底土で堅く固めた練瓦様の土塊を作り、その土塊で田の底え縦横の暗渠あんきょを設け、多收穫の連作から生ずる稻の毒素を流している。そんな種類の土地の改良わ、自作地でなくてわ出來ず、眞に多收穫の連作をやるにわ、田の底から改良の必要がある。部落生活團體の共働農業わ自作農と同じ氣分になり、永久に部落農民が部落の田畑を耕作することであるから、農民わ心から土を愛して田畑の底まで改良し、排水も灌漑もよくし、多收穫の連作から生ずる稻の病毒類わ暗渠で洗い、重粘土地にわ砂を運んで混ぜ、砂質地には粘土を運んで混ぜ、また將來わ水の冷い谷間の水田な

どえわ、スチームで温めた水を送る等の最高設備が部落の共働農業によつて實行されだすであるを。部落生活團體の共働農業わ、淺薄あさはかな思想や獨斷の主義でなく、科學が指示する理論の綜合結果である。

三二 人口食糧問題が解決する

米ばかりを食う氣でいるから、人口と食糧の算盤が合わなくなる。藁も食べ、薯の蔓も、玉蜀黍の固い莖も、草の葉まで食べ。人口食糧問題わそのとき完全に解決する。

松葉を食う人がある。富士山の岩を噛む人もある。しかしそんな無理をして、人口食糧問題の解決を叫んでも、餘り文明から退却し過ぎる。穀物の糠や藁や、玉蜀黍の莖や穀や、薯の蔓の類を悉く家畜に與えて肉や乳や卵にし、その味よい肉や乳や卵を西洋人の如く多食して、人口食糧問題を解決するのなら、誰でも賛成する文明への進歩である。

合衆米國人の食物わ三十パーセントが畜産品である。加奈陀人も毎日平均一個の鶏卵を食う。西洋人の凡てわ、二合も三合も平均に牛乳を飲む。「酪農家畜」(Dairy cattle)の著者ウキリアム・ヤップ氏わ、多量に牛乳を飲まない國民が世界の強國になつた例がないと斷言している。

我國農家の總數を五百萬戸として、一戸二人半の働く者がいるとすれば千數百萬人だから、千數百萬人の農業勞働者がいる合衆米國と略々農民の數わ同じである。彼にわ綿花や小麥があるが、我にわ

米と藁がある。相違わ彼等が巨數の家畜を飼うのに、我國農民わ殆んど家畜を飼わないことである。

内外家畜飼育數比較(單位萬頭)

調査年	牛		馬		豚		綿羊	
	日本内地	合衆米國	日本内地	合衆米國	日本内地	合衆米國	日本内地	合衆米國
一九二五年	一四六	一、八二六	一五五	六、五五〇	六七	三、八三六〇	一・七	
一九二四年	六、六八〇	三、六二三	二〇、二二三	一、六八三	六、七〇八・七			
一九二四年	一、七三〇	一、四〇二	三八五	一、六八四	五七二・〇			
一九二四年	一、四〇二	七九九	二八六	五八〇	一、〇一七・〇			
一九二四年	七九九	六二四	一四四	二五七	二、二二四・〇			
一九一八年	六二四	二六七	九九	二三四	一、一七五・〇			
一九二四年	二六七	一、五九七	五五	二八七	—			
一九一六年	一、五九七	四四〇	四四〇	四、四七一	二、二二三・〇			
一九二四年	三、六八〇	三、六八〇	二二	八六	—			

食物の三十パーセントが畜産品である合衆米國わ、我國に比べて牛を五十倍、豚を百倍、綿羊を二千倍飼っている。米國の農民が我國農民よりも遙に善い生活をするのわ、家畜を五十倍百倍二千倍も飼うことが大きな原因であるわ明である。家畜を多數に飼う外國でわ餘り金肥を多く使わず、獨逸でも佛蘭西でも伊太利でも、總面積の四割以上も開墾して畑にしている。家畜が少なく金肥ばかり使う

我國わ、人口が多く土地の狭いくせに總面積の一割六分しか田畑がないのである。實際金肥を最も無駄に多く使うわ我國であり、田に入れた軽い金肥の幾割かわ、溝から川から海を流れて、魚の食物になつてゐる。支那人さえも我國に十倍する牛と七十倍する豚を飼ひ、豚なければ家をなすと教えて、必らず家毎に多くの豚を飼うことにしている。家と云ふ字わ、豚の上に屋根の冠りを着せたものである。

鶏や豚も飼わねばならぬが、草を主にして飼える牛が最も經濟である。ホルスタイン一頭からわ、一年平均十六石、多いのわ三十餘石の乳が搾られる。畑の自作物のみで飼うとすれば、廣瀬法潤氏わ乳牛一頭に一反あればよいことを經驗している。多收穫した玉蜀黍の實が入る頃に根本から刈取り、葉も莖も實も穀も一所にカッターと云う機械で寸断し、コンクリートで固めた丸穴に詰め込んで、飴色になつたものを一年中與え、玉蜀黍を青刈にした跡えわ、大豆其他の荳科作物を播き、それも早く青刈して飼料に使い、荳科作物を早く刈取つた後えわ、巴里でも一ヘクタールから八〇、〇〇〇疇の收量がある蕪菁や、大麥燕麥の類を播き其後えわまた玉蜀黍を播くのである。畑えわ十分に牛の排出物を施すから必ず多收穫となつて、一反で一頭の乳牛が飼え、其牛から一年平均十六石の乳を搾るのである。牛乳の成分わ平均して、

水分	八七・七五
脂肪	三・四〇
蛋白質	三・五〇
乳糖	四・六〇
礦物質	〇・七五

之をカロリー量から云えば、牛乳のみで生活すると假定すると、毎日二升五合飲めば十分であるから、一年十六石わ一人八分の食糧に當り、飼料を作つて乳牛を飼えば、山の畑一反から一人八分を養う貴重な牛乳が得られることになる。水田え米を作れば平均二石の收穫であり、米のみで生活して、三千カロリー宛の營養を取るにわ、毎日一人が五合五勺、一年にわ二石餘を要するから、水田で米を作ると、その米のみでわ一人しか養えない計算である。それだのに山の開墾地で玉蜀黍其他の飼料を作り乳牛を飼うと、一人八分も養えるのである。米のみ或わ牛乳のみで生活することわできないから、土地の狭い人口の多い我國でわ、水田えわ米を作り、山岳原野でわ飼料を作つて牛を飼わねばならぬ結論になる。

米ならば一反から二石で一人の食糧、牛乳ならば一反から十六石で一人八分の食糧、こをした標準

で土地の收穫を比較するを、私わ土地の絶対營養收穫量と名付ける。絶対有效價值と名付けてもよい。かく土地の絶対營養收穫量を比較して見ると、最も有利な作物は薩摩薯である。薩摩薯は十分に肥料を入れて多收穫すると薯のみでも一反から二千貫取れる。薩摩薯は百匁が凡そ五百カロリーの營養を持つから、三千カロリーの一日食量にわ六百匁食えばよいから、一年二百二十貫で一人を養い、山の開墾地一反で十人近い人数が養われる勘定である。だから私共の山岳共働農場でわ、薩摩薯を作り之を主食物としているが、一同非常に元氣で病氣に掛る者も一人もない。病氣の原因は食い過ぎと、不純なものを間違えて食うからで、薩摩薯を主にして新しい野菜の味噌汁を汲うていけば、決して病氣をせぬ筈である。また味も薩摩薯の方が白米より遙に甘く、東京人でも薩摩薯を菓子に代りに間食にする位である。葛山の村人^{かつやま}は薩摩薯を食べると胸が焼けると云い、一貫目六錢位にしか賣れぬ^{しょうちゅう}焼酎の原料に薩摩薯を安賣して、其金で米を買っているが、私共そんな愚なことせず、薩摩薯を主食物とし、外に新しい野菜の入った味噌汁を十分に吸うことにしている。葛山の村人が薩摩薯を食べて胸の焼けるのわ、米飯を食べた上に、また薯を詰め込むからであり、薩摩薯が胸を焼けさすのでなく、食い過ぎが胸を焼けさすのである。一日六百匁以内に薯食していれば、生理上誠によい健康食であるが、薩摩薯にわ蛋白質が不足しているから、味噌汁を吸ふ必要がある。しかし最も賢明な方法わ、牛

乳と薩摩薯、又わ同一程度に一反の收穫量が多くて、百匁が三百五十カロリーの營養ある馬鈴薯と牛乳を混食することである。そをすれば山岳原野の開墾地を半分は薩摩薯、寒い地方ならば馬鈴薯を作り、半分は玉蜀黍の類を作つて牛を飼うなら、現在田畑の六百萬町で六千萬人を養い、三千萬町の山岳原野の三割千萬町を開墾すると、小供老人まで三千カロリーの營養分を與えるとしても、有畜農業の共働多收穫わ、薯畑五百萬町で四億萬人、飼糧畑五百萬町で九千萬人を養い得る勘定であり、残りの山岳原野二千萬町で衣と住居と燃料が十分に得られるから、内地人口二億萬人位を養うわ、何の譯もないことである。しかし個人農業でわ、六千萬人が植民地を搾取しても、農村疲弊と不景氣や失業の窮乏に落ち、人口と食糧の計算が合わなくなる。部落生活團體の共働農業のみが、二億萬人乃至五億五千萬人を幸福に養い得る。合衆米國の如く朝食は玉蜀黍のマッシュ、夕食は大麥のバーレーミール、米飯は中食だけにしても、内地人口二億萬人を、生活團體の共働農業に完全に養い得るを述べた。玉蜀黍や大麥を加工する設備わ、個人農家に出來ず、部落生活團體の共働組合と其聯合のみが、簡単な其等の加工を可能にし、最後にわ農産物一切の最高級な製造までも可能にする。

共働有畜農業が、内地人口二億萬人乃至五億五千萬人を養うにしても、マルサスの言う通り無限に幾何級數の割合で人口が増加すれば、内地人口が五億五千萬人を超えるとき、遂に食糧問題に直面し

なければならなくなる。しかし合衆米國標準に家畜を飼いだせば、味よい脂肪の肉食を多量にからだから、男も女も短期間に發情して、人間の卵を粗製亂出する。其ときわ新しい蔬菜類を多量に食う場合に比し、ビタミンの活力素が缺けて生殖細胞の機能が弱くなり、或わ肉類の脂肪が邪魔すると見えて男女生殖細胞の接合率が悪くなるらしい。人間でも卵の數わ一定しているので、肉食して盛に發情する結果わ、人間の卵の粗製亂出となつて、人口の増加率を減少さすに決つてゐる。現に佛蘭西わ既に人口が減じた。食物の三十パーセントを畜産物にしてゐる美食の合衆米國でも、米國人自身の出産率わ鈍くなり、米國人そのものの自然増加わ停止して、既に人口の減少が統計に現われた。有畜農業が全人類に三十パーセントの美食を許すとき、人口の増加わ停止して、我國内地人口わ二億萬人にさえもなり得ないであろを。よし三億萬人を突破して人口が増加しても、人口の増加わ人間を食う結核菌其他のバチルスを増殖をも意味し、今日でさえも都會人の九十七パーセントわ、結核菌の保菌者になつてゐるので、狭い所え益々人口が増加すれば、人間を食う結核菌其他の細菌も増殖し、人口のみが無制限に増加すると思ふわ、新しい生物化學を知らない昔のマルサスやダーウキンの誤謬でしかない。部落生活團體の共働農業わ必ず將來に於て、人口食糧問題の杞憂を消滅せしめるであろを。ガリレオが地球が太陽を廻ると云うたとき、時代の人わ信じなかつた。有畜共働農業が人口食糧

問題を消滅せしめて、地上の全人類を最高文化の幸福生活に導くと云うを疑う者わ、地球が太陽を廻るを疑う科學以前の反動迷信家である。

三三三 工業と取引わざをなるか

部落の生活團體が共働して作つたものわ、分けずに纏めて共働に販賣せねばならぬ。その賣上金わ労働能力や家族の人数割合にして、不平のないよをに分配される。しかし分配された金で個別に日用品を買うわ、買手を多くして都會商品の相場を高くすることになるから、日用品も個別に買わず、共通して誰にも入用なものを、また分業と共力の骨折りで、良い安い品を探し、共働に購入するとよい。部落の共働農作物で、自給自足の生活をし、賣らねばならぬ餘分な品物も、成るべく原料で賣らず、分業と共力の組織により、出来るだけ完全な商品にして最も有利に賣らねばならぬ。部落の人々が一致して共働するとき、農業でも牧畜でも、加工の工業でも、購入や販賣の取引までも、悉くが最有效に扱われだす。都會の工業家わ決して個々別々でなく、株式會社を設けて團結してやつている。農民も彼等へ負けず、部落生活團體の共働組合の鞏固な團結によつて、都會に劣らず、時代の進歩に應じ、何時までも狭い個人主義に捉われていてわならぬ。

地球の表面を隅なく照らす太陽エネルギーを利用し、空氣中に僅の分量しか存在しない炭酸瓦斯に向かい、地面の乾かぬ程度に少ない水分を吸うて、休まず働きかけねばならぬ植物の葉緑素作用を保護する農業者わ、成るべく平均に地球の全表面に散在していることが必要なので、山や川や自然の境界により、部落々々で生活團體の共働農業をするのが、天然自然の物理要求である。しかし加工と製造の工業労働わ、電化された機械に働きかける仕事であるから、成るべく一個所に集中されるのが、機械や電力や諸設備を完備して、且つ最有效な分業と共力の共働を行うに好都合である。だから加工製造の生産設備わ、一箇所に集中された大工場となるのが、農業の場合とわ正反對な天然自然の物理要求である。

工場をも小さくして分散させると、天然自然の物理要求を知らない者わ、机の上で空想することもあるが、工場わ農業と違い、十分便利に電化されて、ガントリークレーンえんりよのよをな怪物を縦横に動かして、人間の運搬労働さえも省いて、最有效な機械の利用をしなければならぬので、遠慮なく一箇所に集中し、幾千人でも收容する一大工場にして差支がない。如何程の大きさを單位として工場の設備をするかわ、主義や思想が決めず、貨物の世界的な需要の總量と、最有效な共働の分業をする物理條件が之を決定する。大型のディーゼルエンジンや、機關車類を作る工場ならば、世界に四五箇所もあればよい。自動車工場の類も多數わいらぬ。それ等世界的大工場の位置わ、原料の自然關係と云うよりも

熟練技術の歴史關係により、地理で云えば熱帯や寒い兩極の附近でなく、交通の便利な海岸の温帯でさえあれば、日本でも支那でも合衆米國でも英吉利でも獨逸でも、何處にあつても一向に差支なく、問題わ誰を經營の管理者かんりしやにするかである。

石鹼工場や藥品工場や製紙の類わ、民族の國々に數個所もあれば十分である。其に付いての條件も世界的な大工場と略々同様であり、其位置が日本ならば、大阪にあつても、東京にあつても、或わ瀬戸内海の島や、鐵道の交叉する關東平野にあつても差支ない。成るべく交通の便利がよい處にさえあれば、天然自然の物理條件から、決して異議を提出することが出来ない。問題わ誰を經營の管理者にするかの一點である。

生絲を取る製糸工場わ、今日の應用理學の發達でわ、五百釜程度の工場が最有效な作業の能率を擧げている。だから日本一を誇る片倉組でも、日本國中の各地え、五百釜程度の工場を多數に建てている。原料の繭わ容積が多いから、餘り遠くえ運搬するわ不都合でもあり、五百釜の工場を一年中動かすに不足のない原料繭の産地の中央に建てるとよい。牛乳の加工場も亦同様である。しかし紡績工場や織物工場やメリヤス工場となると、工場規模きもの大きさを製糸工場程でよいけれども、原料關係の事情が少し相違し、此等の工場の原料わ軽いから、水力發電所傍わの駿河驛に在つても、北九州の炭田地

方にあつても、氣候の少し寒い北海道の炭坑の出口にあつても差支ないのである。ただ此等の各種大工場に共通する理論わ、熱帯地方や寒帯地方でない温帯の交通に便利な處にあるを要し、熱帯地方え無理に大工場を設けると、人殺しでしかなくなる。熱帯でわ呑氣のんきに野原の軽い農業労働をささねばならぬ。また極寒の地方え無理に人手を集める大工場を建てると、自然に逆らう誤である。

毎日の生活に必要な味噌や醬油の消費貨物になると、數十萬人の需用品を製造する工場規模が最有效な作業をする。だから部落生活團體の地方聯合で、一個所づつ此種工場を經營するのが、自然の物理要求である。炭燒竈となると、堅炭ならば十俵位、土竈どがまであれば四五十俵から七八十俵も焼くが普通であるから、生活團體の部落わ一箇か二箇の炭竈を持つてあるを。しかし鍛冶屋や指物師の設備わ、數十部落の需要に應ずる程度にするが自然の要求である。

各種の工業に付き、設備の大小を決定する物理關係の自然要求を述べた。物理關係の自然要求に依つて、各種工業品の加工や製造工場の大小が決定される。主義や思想で工場の大小や、集中がよいか悪いかなどと、思い思いの氣持や氣儘で根據のない議論遊戯をしてわならぬ。問題わどんな程度の工場に付いても、誰が經營するかの一點を最も重大とする。

部落々々が持つていて都合のよい炭燒竈の炭燒作業わ、部落々々の生活團體が經營するを當然とす

る。之に付き恐らく何人も異議があるまい。部落農民が個々に別れて生活團體を組織することを知らない間わ、炭焼と云う個人職業があり、山奥の農家まで炭焼職人から炭を買をているが、部落生活團體が皆炭竈を作つて炭を焼くことになれば、炭についてわ自給自足の經濟が範圍を擴げ、炭の賣買取引が無用となる。同じことがパンや餅菓子や、簡易な嗜好物しこをぶつに擴張され、豆腐や揚物の類あひものと共に、村の商賣人の手から、部落生活團體の炊事場え、其等の加工作業が移されて、主婦の任務を貴くする。數十部落農民の需要に應じ得る鍛冶屋や指物師を部落の中で養うことわ、専門の技師を最有效に働かす方法でない。だから鍛冶屋や指物師の技術を緊張して最有效に働かす爲めにわ、數十部落の生活團體が結合して、一箇所の共働組合を組織せねばならぬ。數十部落の生活團體が結合して一箇所の共働組合を組織すると、區域わ今日の村に相當し、蒟蒻こんじやくや素麵そうめんや蕎麥そばや饅頭まんどうの類を製造する機械工場も村々の共働組合で經營するであろを。自給自足の範圍が擴張され、益々都會商人工業家の厄介になることが少なくなる。

數十組合が結合して村の廣さで共働組合を設立すると、種々な仕事しごとが共働組合え持ち込まれる。各部落の生活團體の農作物や畜産品を、生活團體の部落が各別に販賣するのわ不便であり不利益でもあるから、販賣も共働組合の任務となる。また各部落の生活團體で需要する日用品の購入も、共働組合

の任務とされる。序に病院も學校も別荘も温泉も海水浴場の經營も共働組合え依頼されるであろを。

味噌醬油の醸造わ共働組合でもよいが、共働組合が數十或わ數百聯合した地方聯合の事務所を設け、地方聯合の管理する工場で専門に醸造するが遙に好都合であり、また最有効でもある。數十共働組合或わ數百共働組合が聯合したものわ、略々府縣に當る區域を持ち、之を共働組合の地方聯合と云うならば、共働組合の地方聯合が組織されると、紡績工場やメリヤス工場や織物工場の類が其管理となり、製糸工場の類も、繭の生産地の數箇所え地方聯合直屬の工場が建てられることになるを。各共働組合の販賣物や、日用品の仕入の取次も、また地方聯合に依頼され、地方聯合わ自然と東京や大阪其他の大都會え直屬の販賣所や仕入事務所を設けなければならなくなる。

東京の銀座通りえ、須田町の交叉點えも、東京驛前の丸ビルの中えも、新宿や澁谷の新しい銀座通りえも、大阪ならば心齋橋筋、四ツ橋電車の交叉點、梅田驛前や、天滿橋や天王寺の電車乗場前えも地方聯合の販賣所が建つてあろを。其處にわ生産者から消費者えの看板が高く掲げられている。消費者の便利を計る爲め、一ツ建物の中え各府縣の産物が陳列されて、良品を安く賣ることになりだす。そをして見ると、地方聯合わ更に聯合して日本全體の共働組合民族聯合を組織する必要を感ずる。都會の要所々々え、日本共働組合民族聯合の經營する販賣所ができ、同時に地方聯合えの總仕入本部と

もなる。都會商人わもを必要がない。序に全世界の各民族聯合が共働組合の世界總聯合を組織すると
き貿易商人の必要さえもなくなる。

共働組合の民族聯合が組織されると、民族聯合わ石鹼工場や藥品工場や製紙工場の類も管理し、共
働組合の世界總聯合が組織されると、ディーゼルエンジンでも機關車でも自動車でも染料でも、世界的
な大工場を管理しだし、世界的に優れた炭坑や石油田や鑛山の類も、どの民族にも生産剩餘を獨占さ
せない爲めに世界總聯合の直營に移り、全世界の全人類の平等な幸福を圖る生活團體の共働組合と其
聯合わ、部落から村え、村から縣え、縣から國え、國から世界え、全人類を悉く濃厚な幸福に巻き込
むまで、共働經濟の渦卷原則わ發展して止まない。部落農民が生活團體さえ組織すれば、共働組合の
渦卷原則わ自然に擴がつて、谷川の水が太平洋え合流するまで展開するのである。

栽培でも飼育でも、作物と動物の管理わ最初が大切であることを、農民わよく知つてゐる。肥料わ
元肥が大切であり、追肥も早くせねばならぬ。生長しさえすれば、邪魔物の草さえ絶えず除いてやれ
ば、あとわ天候の自然まかせである。鶏でも牛でも豚でも、飼育わ幼い時の管理が大事であり、成長
したものを今更らどをすることも出来ない。成長後の管理わ改善でなく改革でなく革命でなく、保護
と保存である。共働組合と其聯合わ、部落生活團體の初期に十分な注意と努力と自覺を徹底さして、

基礎の堅いものとしなければならぬ。結果を急ぐよりも生活團體の堅實なものさえ確に建設すれば、
自然に發達成長して、共働組合と其聯合となる。

農民わ大言壯語するよりも、先づ自分の部落に退き、五反百姓の個別農業を、部落生活團體の共働と
することに努力しなければならぬ。其努力に成功すれば、共働して餘る勞働力を空費せず、また其餘
剩勞力の利用からの新しい生産物を浪費せず、確實に資本化して渦卷形に積上げ、農村疲弊を驅逐し
て、振興と文化に向い生活團體から共働組合え、共働組合から其聯合え、部落から村え、村から縣え、
縣から國え全世界えと、個人の生活を壊さず、家庭の生活も壊さず、部落を壊さず、村を壊さず、府
縣も國も壊さず、コッコツと農民が努力を新しい建設に集中するとき、永くない十年か二十年で、全
日本と全世界の全民族と全人類の生活を一變し、幸福と光榮の永久安定え到着せしめるであろを。

三四 都會問題が解決する

都會わ罪惡の巢であり、農村を搾取して全人口の六割を越える都會人が、今現に贅澤な生活をして
いる。都會が全人口の六割を越える都會人の都會である限り、絶対に農村と利害が反対し、都會人わ
無産労働階級と雖も、農民と妥協することわ出来ない。彼等わ労働者並に農民よと呼びかけて、同じ
無産階級であることを強く主張するけれども、都會労働者が都會意識を清算せぬ限り、農民わ斷じて
都會無産労働階級の友達でも同志でもない。

都會労働者わ失業問題に悩み、虐けられた無産階級である。小賣商人もまた不景氣に悩み、金融資
本から虐けられている點に於て、決して有産階級でない。けれども農民わ都會小賣商人を友達とも同
志とも思わない。都會労働者も都會意識を清算せぬ限り、また農民の友達でも同志でもあり得ない。
穴に落ちた狼わ、鹿を欺いて穴に入らし、其背に立つて逃げた。疲れ切つた農民から見ると、八百
屋の商店から安い農産物を買ひ、農民え高く賣り付ける織物や肥料や自轉車や靴や種々な貨物を工場
で製作し、高い賃金と十分な退職手當を要求する都會労働者わ、失業に悩む無産階級でわあるが、彼

等わ狼、我等わ鹿、同じく狩師に追われながらも、少しも油斷がならないのである。

凡てが凡て都會わ罪惡の塊だ。役人でも資本家でも、銀行でも工場でも商店でも、學者でも知識階
級でも労働者でも、凡てが凡て都會わ罪惡の塊りだ。罪惡が罪惡を自分で清算すると云うても、泥色
が墨色になるまである。都會の罪惡を清算するものわ、都會でなく都會人でなく、都會にいる思想
家でも藝術家でも労働者でもない。彼等わ自己を清算すると云うても、酒飲みが明日から酒を止めま
すと云う程のものである。

農村と農民の新しい血が、最後に都會の罪惡を淨化する。部落農民の生活團體が發展して、共働組
合と其聯合となるとき、工場も、販賣購入の取引も、悉くが農民共働組合と其聯合の直營となり、都
會人わ遂に無用となる。都會人を無用に清算するものわ都會人でなく、部落農民の生活團體と其發展
でしかない。

都會人が勝手に自己を清算すれば、決して自己を破産にして都會を無用とせず、都會を全部に發
展さす新しい搾取えの擴張を計劃するであろを。全人口の八割を農民が占めている露西亞でさえ、社
會主義革命の十五年を経過したにも拘らず、農民の一日労働わ決して都會労働者の一日労働と等價値
に計算されない。この事實を承認しまた辯解して、露西亞のコミンテルン第六回大會でヴァルガアわ、

「吾々わ吾々の工業建設のために外國の源泉を持たないのだから、吾々が農業生産物から價値を引き出すことも今のところ必要且つ不可避である」と云っている（經濟批判會譯『ソヴェート經濟建設の十年』三〇頁）。全人口の六割が都會人である國が、革命後に經濟封鎖を受けて、外國の源泉を持たなくなれば、どんなことになるであらうか。我國都會勞働者と其指導者が、勞働者並に農民諸君よと親しく呼びかけたければ、本統に先づ自己を清算して、都會意識を撲滅しなければならぬ。

けれども都會わ文明の華である。人間に生れながら人間性を知らず、動物本能の相互扶助と、自由氣儘位で机上に主義を描くアナキストの如く、私わ感情からだけで單純に都會と其文明を非認するの
でわない。

都會わ永久に文明の華である。しかし都會わ清算されて、都會わ最早都會人のものでない。都會プロレタリアートの無産勞働者も都會から清算された。都會に巢喰う罪惡の虫わ太陽消毒を受けて綺麗に清算された。都會わ農村の眞の中心であり、農民の爲めの農民の都會となつた。中心は重點であり重點に位置わあるが、廣さと權力わない。生活團體の共働組合と其聯合が本體であり、都會わ本體の附屬物だ。都會わ農村本體の中央であるから、農民わ便宜其處え文華を置く。之が新しい文華都會の意義である。

文華のみが都會に賑う。罪惡わない。隱謀もない。ただ藝術の高い馨が、都會の窓から漂う。腐敗や誤魔化しや、優越感もない。ただ美觀が都會の屋根にたな引く。人口も今日よりわ多い。中間都市わ非常に縮少されて、地震のしない地盤の固い處え、新しい東京と新しい大阪が、九州の入口にも一つ、東北の盡きる處にも一つ。我國にわ四五箇所の大都會が、人口三四百萬宛の繁榮を誇るであらう。しかし商店わなく、また工場が都會にあるとわ限らない。共働組合聯合の賣店や仕入部わあるが、また其直屬工場も設けられてわいるが、農村を搾る不思議な機巧わなくなつた。都會にわ共働組合聯合の管理によつて、最高の學校があり、研究所があり、美術館があり、圖書館も博物館もあり、専門の病院やホテルや劇場や、種々な修養と慰安の設備が、藝術と文明の粹を集めて、少しも罪惡のない教智と理想の華を咲かす。

都會を否認する者わ、藝術や慰安の諸設備も、地球の全表面に散在させると云うが、地球の全表面えわ、普通程度の藝術と慰安其他の文化諸設備を散在さし、世界的な又わ民族的な最高級の藝術と慰安其他の諸設備わ、世界的な又わ民族的な大都會え集中さす外わない。なぜなら世界的に又わ民族的に最高級なものわ、藝術でも其他の文化でも、決して多數にないからである。少數で限られた最高級のものわ、世界的に稀なものわ世界大都會え、民族的に稀なものわ民族大都會え保存する外ない。そ

したものを分散せず、數箇所へ集中して置くと、公休日に觀賞かんしょうして廻る農民一般に好都合である。水池が淺ければ大きな魚が住み得ない道理が、文華都會にも當筈あてはずるのである。

多角形と多收穫とが一致して萬人が農業労働をする生活團體の共働組合が展開すれば、農村が機械化され動力化されることであるから、各人わ一年に二ヶ月位交代で休暇を貰うことができる。一億萬農民が一年に二ヶ月間の休暇を交代で貰うから、何時でも二千萬人が全國四五箇所の大都會に集まつている。どの大都會も常に三四百萬人の人口がいて、とても賑かであるが、彼等わ一人も都會人でなく、休暇を貰うをて、修養と慰安の爲に都會に集まる農民である。二ヶ月が過ぎると、交代にまた他の三四百萬人が来る。都會の人わ凡て農民であり、交代に休暇を貰うをて、修養と慰安の爲に滞在するのである。

學者技師藝術家ホテルの料理人等が都會に永住するけれども、彼等わ選ばれた村人であり、彼等の子孫も一定の年齢にわ故郷の部落生活團體を歸らねばならぬ。選ばれた人々のみが、選ばれた期間だけ都會に定住して、都會の設備を管理し、農民の爲に働くけれども、其人數わ農民が決める必要な少數者に限られる。

都會わ完全に清算されて、黒い煙を吐く工場わ、むしろ都會の文明から遠ざけられるであろうを。將

來の都會わ、工業都市でも、商業都市でもなく、純粹じゆんすいな文華都市である。

汚い不潔な工場で好んで働きたい者わないのであるを。地下の炭坑や鑛山に下りて行くを喜ぶ者わないのであるを。工場労働や鑛山掘わ、新しい青年の義務となり、成年に達すると體格検査を受けて、合格者わ一二年の間、工場か鑛山労働の應募義務を負わされることになるを。

都會わ完全に清算されて、都會人と云うものがなくなつた。けれども今日よりも賑かで、定住しない休暇の農民のみが、賑かに滞在しているのだから、全人口の八割以上わ地球の表面に散在して、部落生活團體の有畜多角形多收穫農業に従事し、農村を搾取するものがなくなつた。都會にいる者わ全部が休暇日に修養し、或わ慰安を楽しむ農民である。少數者のみが農民より選ばれて、農民のために都會の學校や研究所や圖書館や博物館や美術館や劇場やホテル等の設備を管理する。工場や鑛山の労働者さえ、農民が選ばれて交代に働くのであり、都會プロレタリアとか、都會労働者とか、ルンペン知識階級とか、ルンペン浮浪者とか云うものが消滅してしまう。自惚うねぼれわ許さず、公認のみが學問や發明や藝術や料理の天才を選抜して、都會設備の管理者にする。

世界の大都市も全世界の全農民に解放される。世界の大都市に行きたい者わ、二年間も労働し、纏めて四五ヶ月位の休暇を取れば、數十人の楽しい一團で、國際總聯合本部から、汽車汽船ホテルの無

料切符を送られて、自由に愉快な半年に近い旅を續けることになるを。序ついでに斷つて置くが、國際總聯合本部わ各國の民族聯合本部から男女各一名が代議員として選ばれ、其等の人々が國際總聯合代議員會を開いて公選した幾人かの本部員より成るものであり、民族總聯合本部も各地方聯合本部から男女各一名の代議員を選擧し、選擧された代議員が集つて公選した幾人かの本部員より成り、地方聯合本部も、各共働組合より男女各一名の代議員を選擧して、其代議員會によつて公選した幾人かの本部員より成り、共働組合の幹部も各生活團體より男女各一名を代議員に選り、其代議員會に於て幾人かを公選した者である。今日の選擧制度わ一般の普通選擧であり、表面公平に見えるけれども、一般の普通選擧でわ、村會議員位わ性分の判つた者を選べるが、縣會議員以上になると、顔も知らない候補者に投票を強制せられ、従つて買収が無いまでも、演說會やポスターや文書宣傳に多くの金を使い得る人が選ばれ、決して一般普通の自由意志からの理想選擧でわない。部落の生活團體から男女各一名の代議員を選び、其代議員會で地方聯合えの代議員男女各一名を選び、地方聯合の代議員會で民族聯合えの代議員男女各一名を選び、民族聯合の大議員會で國際總聯合えの代議員男女各一名を選ぶことになれば、腐敗や買収や運動や誤魔化しの政見發表や、一切の選擧運動がなくなり、選擧されるを却つて迷惑がる。支那古代の堯舜時代ぎょうしゆんが出現するのである。こをした階段選擧によるとき、部落生活團體に農民

としての根據を持たない者わ、如何なる選擧の公職にも絶對に就き得ないことになり、都會にいて金のある野心家が、選擧のときだけ農村え來て、ポスターを張り廻わす、誤魔化しができず、生活と政治と文明と學問と藝術の全表面から、都會人と都會意識と其罪惡が一掃され、徹底しての農村と農民が完全に國と世界の基礎となる。

三五 失業と不景氣がなくなる

失業や不景氣の根本原因が、農村と都會の人口割合が破れた結果であるを氣付かない今日までの學者わ、國民所得の分配割合が悪いことに、失業や不景氣や農村疲弊の根本原因があると思ひ勝である。

小學校新聞と云う小學校の先生達の機關新聞え、早稻田大學講師の北澤新次郎氏が掲げた『經濟的不況と無産階級の運動』と云う論文の中に、

一九二二年における米國の一人當りの國民所得わ六百二十五弗でありましたが、産業合理化の結果一九二八年にわ、その六百二十五弗からして七百四十二弗に國民所得が殖えて居ります、二割の増加であります。この二割の増加とゆうことが米國の國民的繁榮とゆうものを象徴して居るのであります。この二割の増加とゆうものがどをゆう割合において國民の各階級に分割されて居るかとううことを見ますと、亞米利加の勞働階級わ人口の六三%を占めて居りますが、一九二五年にわその賃銀として三百十億弗、即ち國民所得の三八%を貰つて居ります。然るに一方企業家階級の方わ

人口の六・四%であります。勞働階級わ六割三分ばかりでありますに拘らず企業階級わ六分四厘であります。その割合わ極めて少數である企業階級が俸給と利子の配當の形において約三百三十億弗貰つて居ります。全所得の四一%を貰つて居る。勞働者の方わ全國民所得の三八%を貰つて居るに過ぎない。全人口の六・四%しか占めて居らない雇主階級が四一%を貰つて居る。

……私の亞米利加において産業合理化が無産階級に取つて大體不利益とゆうことわ失業者が殖えたとゆうことである。米國の經濟の繁榮が世界の羨望の的となつて居る其時において、亞米利加にわ四百萬人の失業者がありました。……斯をゆうことを考えて見ると産業合理化とゆうことわ成る程少數の企業階級にわ都合がよいけれども、無産大衆にわ餘り都合が好いことでない。

……今後の經濟生活においてわ……景氣が好くなつて經濟的活動が旺盛になるとゆうことになつても失業者わ絶えないと思ふ。何となれば經濟的活動が旺盛になるとゆうことわどをゆうことであるかとゆうと、現在の機械化生産をもつと盛にするとゆうことである。機械化生産をもつと盛にするとゆうことわ、是わ今迄使つて居つた勞働者を解雇する、新しい勞働者わ更に入れない、人間の手わ要らないで機械とゆうものが大部分の仕事をする。斯をゆうことになれば、經濟的活動が旺盛になれば、今現在日本に百萬近くの失業者があるが、その大部分わその中に包容されて仕舞うで

あろを。そこで失業者が少なくなつて就職が多くなるとゆう原理は立たない。好況になつても失業者とゆうものわ私わ今後存在する、斯をゆう所に失業問題の大きな病的現象が横たわつてゐるのであるまいか、斯をゆうよをに考えざるを得ないのであります。

實際今日の都會學者に取り、失業問題わ治すことのできない大きな病的現象であり、過激主義者わ亞米利加のよをに六分四厘の少數者が四割一分の國民所得をふんだくる現代の政治も經濟も一と思ひに破壊してしまえと叫ぶのである。しかし新しい規範經濟學の理論から見ると、亞米利加の勞働階級が六割三分で國民所得の三割八分を取つてゐるなら結構なことで、彼等わ必ず農民よりも遙によい生活をしてゐるし、もつと突込んで云うなら、亞米利加の國民所得わ、全世界の農民を搾つたものなので、實わ大部分が世界的生産剩餘の横領であり、本來世界全人類の爲に資本化されねばならぬものであつて、亞米利加の勞働階級と企業階級とが分割闘争の目標にすべきものでわないのである。だから亞米利加の勞働階級が六割三分で、世界農民を搾つた米國の國民所得の三割八分の六百二十億萬圓を頂戴してゐれば、全世界の農民に對し、彼等わ其娘等が絹の靴下でも履くなら、日本の養蠶農民に詫びの一言位わ云わねばならぬのである。

六分四厘の少數企業者が合衆米國の收入年額の四割一分、六百六十億萬圓を取るのわ無論いけない。

河上肇氏わ『社會組織と社會革命』に於て米國富豪の銀行家が娘の結婚披露舞踏會に五十萬フランを費したことを非難し、また大富豪のロクフェラーわ一分間に千フランの割合で國民所得の中から失敬するので、もし其全額を使こをてしまわなければならぬなら、彼わ忽ち神經衰弱に罹ると云うてゐる。けれども六分四厘の少數な企業者が取上げる六百六十億萬圓わ、決して彼等の使わねばならぬ報酬でなく、それわ世界農民が日本でも支那でも日當三十錢にもならぬ養蠶をした、原料十錢の生絲で一足十圓の絹の靴下等を作つて、歐米文明國の貴婦人や勞働婦人え賣り付けるからであり、また地の底から堀り出した石油や鐵や銅を、自動車や機械やガソリンにしたり、或わ其儘石油や鋼鐵で、農民の國々え高く賣り付けて、合衆米國の驚くほど多い國民所得だと我國並に世界の學者を誤解させてゐる大收入が生じたのである。けれども合衆米國の收入の大部分わ、本當の收入でわなく、世界の生産剩餘の横領なのである。

合衆米國人が共働規範の新しい經濟原理を知つて、彼等も支那人なみに少くとも日本人なみに慎みやかな生活に満足して、世界全人類の生活標準を彼等の理想とする文化と安定に向上さをと決心すれば、彼等が國民所得と誤解するものの五割以上わ、世界の生産剩餘であるゆえに、世界全人類の爲めに生産資本として渦卷形に擴大せねばならぬ責任を氣付くであろを。けれども都會本位の商工業や

金融資本の方え、それを渦巻形に擴大していると、現在の機械化生産をもつと盛にすることになり、どんな好景氣でも失業者が減らないことになる。だから都會中心學者にわ、失業問題や好景氣問題が解けない大きな病的現象に見えるのである。しかし若し世界農民の爲に、農村部落の生活團體と共働組合え、彼等が横領している莫大な金高を年々資本化するならば、農村を機械化しても電化しても、決して失業問題や不景氣問題が生じないのである。

けれども農村と農業の機械化も電化も都會人が實行することわ出来ない。だから合衆米國わ元より英佛獨、我國まで都會に集中された世界と民族の生産剩餘を、都會でばかり機械化する結果、こんなにも大きな失業問題と、ロックフェラーやフォードや大資本家に大規模な大工場の機械化をやられて、それ以下の一般工業者や取引商人わ、儲らない不景氣で悩まされることになり、そして都會から搾られる農村わ、家畜の多い合衆米國でさえも疲弊し、救済をしなければならぬ状態に落ちたのである。

方法わ他にない。農村部落の生活團體を民族と全人類生活の基礎に確立し、その共働組合と聯合を渦巻形に擴大する以外に斷じて何等の方法も絶對にない。科學わ自然の約束を命令し、何等の妥協も許さない。規範經濟學と其結論わ、民族と全人類の生活に關する、自然科學からの妥協のない約束と命令である。

日本や亞米利加の富豪が生産剩餘を取り上げていることを悟つて、使わす之を農村と農民の爲に、或わ民族と世界人類の爲に、最有效に資本化しよをとしても、彼等にわ都會の工場のみを機械化して、益々失業者群を増加する以外に、どをしてよいか本當の方法が判らない。農民のみがまづ自分の部落を見詰めて生活團體を確立し、共働組合と其聯合え際限のない渦巻形に、民族と世界の生産剩餘を最有效に資本化し得る。

日本でも亞米利加でも世界の資本家わ自分の全所得が生産剩餘であるを悟らねばならぬ。しかし自分の全所得が生産剩餘であるを悟つても、彼等自身でわどをすることも出来ない。農民に與えて最有效に資本化さそをとしても、生活團體と共働組合の組織を持たない前に、生産剩餘を農民の誰に與えてどをしよをもない。農民わ資本家や富豪に向い、彼等の全所得が生産剩餘であることを警告する前に、まづ其を受取り得る部落生活團體と共働組合の組織を立てなければならぬ。凡ての問題わ其後に解決される。

部落農民の生活團體が確立され、共働組合から其聯合え展開して行けば、地球の表面わ到る處が最有效に利用せられ、萬人わ土地利用の勞働に忙しく、全人口の八割以上が農村にいて、食糧と原料を生産する結果、二割に足らぬ工場や鑛山の勞働者わ失業どころでなく、農村より與えられる食糧を十

分に胃袋に入れて、農村より送られる原料に全能力を揚げて活動し、八割農村民の注文する種々な需
要品を、支那でも印度でも、全世界の全人類を、亞米利加標準の文化生活に導くまで、忙しい文化設
備の製作に追われて、失業や不景氣と云う言葉が、字引の中から消されてしまう。文化の生活に憧れ
る二十億の全人類が需要する貨物無制限であるのに、生産過剰など云うことが有り得る筈はない。

生活團體の共働組合と其聯合が展開すれば、世界の土地を最有効な作物を氣候や風土に應じて作り、
亞米利加わ小麦や棉、米わ東洋、ブラジルわコーヒー、南洋わ砂糖と、地方々々で専門々々の作物を
作りだすから、世界的に多收穫となり、しかも利益を取つて算盤玉を誤魔化す商賣人の手を経ず、共
働組合の聯合が山より海え谷川の水を自然に流す如く、至極圓滿な物と物との交換が、最高生産費の
理論價額に依つて、少しの搾取なしに流通するであらう。一切の問題を解決するものわ、農村部落生
活團體の共働組合と其聯合である。

三六 米わ上るか繭わ上るか

不景氣がもし一時のことであれば、暫くを忍ぶために借金でもして置けばよい。失業者にわ急がな
い道路工事でも始めて、無駄にもならぬ仕事をさして置けばよい。不景氣を一時のことと思ふ今迄の
學者や政治家の宣傳に迷わされて、農家が此上にも借金をしていると、繭一貫十圓位に、米一石四十
圓位にならなかつた其時、農家わどをするであらうか。

不景氣が幾分か回復することわ事實である。短い期間なら、好景氣と云うほどのこともあらう。し
かしまだ直ぐ不景氣が来る。前よりも酷しい不景氣が、ほんの短い好景氣の次に、前よりも遙に酷し
い不景氣が来る。この酷しい不景氣が随分と長い間世界中え擴がる。やつとまた景氣が回復し、ほん
の短い一時の好景氣が来る。次にわ今迄よりも更に遙に酷しい不景氣が来て、今迄よりも遙に長く續
く。次々次々と来る不景氣わ益々酷しくなり長くなり、時々廻つて来る好景氣わほんの一時の短い淡
いものとなる。農村と都會の人口割合の區劃線が、都會を擴げて農村を壓迫するにつれ、世の中わ不
景氣が常態となり、好景氣が變態となり、失業が常態となり、就職が變態ともなるを。農村の疲弊わ

募るばかりである。もを騙されて、此上にも無理な借金などしてわいけなない。

繭が十五圓に米が四十圓になるものなら、此上借金してもよい。繭が十圓に米が三十五圓に上るであろをか。上つたり下つたりの需要供給次第で、上つたり下つたりと、それだけしか答の出来ない今日の經濟學でわ、景氣が直れば繭が十圓から十五圓にでも、米が三十圓から四十圓にでもなると、呑氣な夢を答え得るであろを。人口が食糧よりも速く増加し、農産物を買う都會が、農村よりも廣く膨張することであるから、机の上で需要供給を論ずる經濟學者にわ、繭が十圓が愚か、二十圓にも三十圓にも、米も四十圓が愚か、五十圓にも百圓にも上り得る筈である。けれども事實が反對に内地人口が七千萬人に増加し、大東京が五百五十萬人に膨張した今日、米が最低生産費よりも安く、大根が運賃だけでも賣れない。もを都會經濟學者の机上論に迷をてわならぬ。

米を上るであろをか。繭を上るであろをか。上るかも知れない。しかし上るが一時のことで、下るが今後の勢である。農村と都會の人口割合線が年々と農村を壓迫して、都會の人口ばかりを擴けて進行するに氣付けば、農村を壓迫して増加する都會の人口が、失業しながらも生活して行くにわ、此上にも農民を苦しめて、米でも繭でも、農民の作つたものを、皆安く踏み倒して都會をえ取上げ、都會から農村を賣る物わ、できるだけ競り上げて高く渡さねば、金を儲けて生活する全人口の六割も八割も

の多い都會人が生活できないから、米でも繭でも農産物が上らぬことわ確である。

米や繭や農産物が高くなならない確な理由が、他にも一つある。世界中で都會の工業商品を作るわ、英米獨佛の文明國民であるのに、農産物を作るわ支那、印度、亞弗利加、南洋等の未開國民である。文明國民の生活程度が高いから、不景氣で失業者が多くなれば、働かない者え與える失業保險の手當なども多くなり、其を支拂うために失業せずに働らく者の賃銀を幾分か引き下げよをとすると、労働組合わどんな場合でも賃金の引下げに反對するし、失業手當の方だけ増額を要求するから、其要求に應ずる都會商品の値段が大體に於て下り得ないのである。しかし不景氣が深刻になると都會商品の値段も下るけれども、其値下り原料となる農産物が安くなつた程度であり、原料となる農産物が安くなるのわ、都會の膨張が農民を壓迫して踏み倒した結果でしかない。

農産物を作る農民の中に、文明國民もいる。獨逸でさえ全人口の約五割が農民である。文明國の農民も、家畜の多い合衆米國でさえ氣樂でない。之を歐洲戰爭中に、加奈陀や亞米利加等が盛に開墾して、麥畑が急に殖えた處え、露西亞が千九百二十六年以來、麥其他の農産物を獨逸邊まで輸出できる程多收穫して、世界の麥相場を暴落せしめたことにもよるが、根底の深い農村疲弊の最大原因わ、農村と都會の人口割合の不合理であり、また普通の好景氣位で農村が氣樂になり得ないのわ、農産物を

作る者が生活程度の低い支那人や印度人や亞弗利加人や南洋人等の未開國民であるからである。特に米と繭に付いては、判明に斯く答えられる。

交通が開けて世界が一ツ市場になつたから、都會商品や西洋文明人の文化生活費用を賃金に支拂う高い生産費を標準にして、合衆米國や獨逸邊の相場が世界の標準になる。だから原料の農産物が下るか製造方法が新しい發明によつて改良される以外に、不景氣位で都會商品が安くない。均質牛乳の値段が、相變らず停車場で十五錢であり、キャメル乳十錢、ライオン齒磨九錢、織物が下つたのわ、生糸が下つたからであり、肥料用の硫酸アンモニアが下つたのわ、空中窒素を取る獨逸人の新しい發明が今迄の生産費を三分の一程に激減せしめたことである。獨逸イー・ゲー染料トラストが獨逸科學者の半數を工場や研究室で働かし、空中窒素から硫酸アンモニアを取る生産費を一頓三十圓位にする方法を發明した爲に、世界のアンモニア相場を暴落せしめたのである。

不景氣でも儲ける者わ儲けている。大銀行わどんな不景氣でも一割に近い株主配當をし、工場財團も産業合理化さえすれば、一合一錢二厘の原料牛乳で十五錢の均質ミルクを製造することができる。罐詰練乳も原料が安くなつたが、まだ製品の方わ一向に値下げを發表しない。昨年夏わ農民が揉んだ茶わ一貫一圓に激落したが、東京の小賣値段わ一斤が一圓であり、一貫目で買をたものを一斤で賣るのだ

から、不景氣だと云いながらも、うんと儲けて知らぬ顔している者が確にあるのである。

商工金融都會人の利巧な者わ何時でも必ず儲けている。だから都會と商工金融の本家、懶巧な英米獨佛の會社やトラストで作る都會商品わ、大體に於て下らぬのである。しかし愚な未開の東洋人が作る米や繭や其他の農産物に付いては全然反對のことが云われる。

米と繭が幸にも長い間の高値を維持し得たのわ、我國と同様に米と繭を作る支那にわ防穀令があつて米の輸出を禁止し、また支那繭が劣等であつたからである。米でも日本の米わ上等であり、支那米わ質が悪い。そこで幸に米と繭とわ、支那人等も作りながら、日本産と比較にならず、米と繭とわ日本産が日本だけの高い値段を維持し得たのである。

支那でも善い米ができる。江蘇省や浙江省の米わ相當に味い。朝鮮米や滿洲米や臺灣米でさえも、内地種子で改良された。支那人でも味よい米わ食べたいから、追々と米の品質を改良するである。奥地え鐵道が通ずるに従い、多收穫もしだすである。その將來にわ支那米の輸出が許されるわ必定である。暹羅でわ一年中何時でも米が取れ、日本種で耕作法を改良すると、相當に善い米が一年中多收穫されるのである。暹羅や安南や南洋でも、追々と善い米が取れて輸出されるである。西比利亞でも莫大な水田計畫をしている。此等の情報が集まる今後の米價わ、世界未開農民の安い生産費が

標準になり、今日より下つても上らぬ覺悟をせぬと大きな間違が起る。一石三十五圓にも回復する夢を見て、農民わ此上にも無理な借金を殖してわならない。

繭も其通り、支那の繭が悪い。養蠶をすることに付いてわ、空氣の乾燥した支那内地わ日本よりも遙に養蠶に適していて、桑も揚子江の沿岸など、素晴らしい好適地である。けれども養蠶技術が拙劣な爲め繭が悪い。繭の品質よりも解紵率が悪い。日本でわ繭百貫から平均生糸が十貫とれるのに、支那でわ繭百貫から平均生糸が五六貫しか取れない。これわ製糸技術の拙劣にもよるを。しかし片倉組等が支那政府と相談して各地に製糸工場を建て、之と競争する支那製糸家も中々負けてわおらぬから、そこで製糸工場が進歩すると、繭の解紵率をよくさそをと養蠶技術の改良を農家に教えだす。

誰から注文であるか、年々支那から日本の蠶種製造場を夥しい數量の、とても要求に應じ切れないほど多量な種紙の注文が来る。もし其種紙が製糸工場の手で支那農民へ配ばられ、養蠶法も教えられらるならば、利に敏い支那人わ政府や學者や農會の説教わ聞かなくても、繭を買をてくれる製糸家の申渡しにわ従うであるを。ともかくも年々と支那の生糸わ改良されて、亞米利加の靴下工場で使うに差支がなくなりかけた。

相場を支配するものわ冷い理論でなく、都會の取引所に於ける賣手と買手の駆引である。亞米利加

の大相場師ジャーリーわ、生糸の先物を賣つて賣つて賣り捲つた。その爲に毎日の如く生糸わ激落し惨落した。高い原料を持つ靴下會社わ驚いて防戦買をした。靴下工場が買うほど、益々多くジャーリーわ賣り浴せた。さて受渡の時になると、ジャーリーわ支那生糸を渡した。それわ相場師の駆引であり、相場師が現物を渡すときわ、受ける方が困るよをに成るべく質の悪いものを撰つて渡し、受方を閉口さして降参さすのである。受け方が閉口すれば相場わ渡し方の思い通りに暴落し、賣り浴せた相場師わ買方が降参したのであるから、現物を渡す必要がなくなり、濡手で粟の大儲けができるのである。大相場師ジャーリーわ此秘術を遠慮なく買方の靴下工場へ浴せかけ、靴下工場の使わないう支那生糸をうんと渡した。そこで日本生糸の輸出が激減し、反對に支那生糸の輸出が激増したのである。

支那生糸を渡された靴下工場わ、仕方なしに支那生糸を日本生糸に混ぜて多量に使をたに決つている。使をて見ると、どをにか使える。支那生糸も大いに改良されているのであるから、まあ使えるのである。こをした動機から支那生糸を使う味を覺えてみると、もお日本生糸だけが標準にわならない。大體に於て支那生糸の安い生産費が、今後の世界生糸相場を支配すると覺悟せねばならぬ。經濟わ世界に共通しているから、日本生糸の生産費だけで世界を支配することわ不可能である。殊に製造方法が年々と新しく改良される人造生糸の發展を思ふならば、なおさら生糸の相場が八圓にも十圓にも回

復することわ、到底有り得ないと覺悟せねばならぬ。

米に付いても同じ事情がある。今まで長いこと米が高かつたのわ、關東大震災で東京深川の米倉庫が全滅し、東京中に商買人の爲めに米を入れる倉庫がなくなつたことに大きな原因がある。東京の米商人わ、三井や三菱や澁澤の深川米倉庫を米を入れて、倉庫會社から倉荷證券くらしよけんを發行して貰い、其倉荷證券を銀行え擔保たんぱに入れて、米の仕入資金を融通されていたから、東京深川の米問屋わ、何時でも數十萬石の米を東京に持つていて、此米を土臺にして賣手と買手の駈引かきりを蠟穀町かちやくの米穀取引所で自由自在にやつていた。處が大震災で深川の米倉庫を全滅し、東京の米問屋を米を貯藏することができず、相場師が地方から無理に米を買い集めよをにも、仕入資金の融通を受ける方法がなくなつた。その結果神田の秋葉原停車場其他の驛え毎日到着する百貨車位の米を、四十八時間以内に引取る條件で、焼け細つた回米問屋と市内の白米小賣商人との間に、現物の直取引だけをする事になつた。これを云う事情の下で蠟穀町の米穀取引所に行き、米の大きな賣り思惑を試みると、愈々受渡の期日になれば、賣り方わ渡し米を集めることが不可能であることを發見する。神戸の山田と云う大相場師が朝鮮米でも渡すつもりで盛に賣り手を振つたことがあるが、銀行と連絡のある商業倉庫がない東京え大量の米が廻せる筈がなく、彼も無慘な失敗に終つた。しかし反對に買思惑するのなら、早い話が東京中の米を皆

買占めればよいので必ず成功した。だから不景氣な今年の夏でさえ、馬越某わ買思惑に大成功し、米ばかりわ三十圓の相場を持ち續けたのである。けれども吉村某と云う大相場師が、生糸の暴落で弱り切つてゐる農民わ、秋米を取ると大急ぎで必らず新米を賣り出すであろをから、凶作でさえなければ、米も十圓臺に暴落するわ必定だと見込を付け、驚く勿れ只の一人で八十萬石も米を賣り捲くり、幸に豊年であつた爲め、米價わ新潟縣でわ一俵五圓になるほどの大暴落をした。

歐洲大戦前の米わ、一石十三圓であつた。税金が安く、借金の負擔も重くなかつた歐洲戦争前でわ一石十三圓の米でも農民わどをにか遣り切れたのであるが、税金が米一石に全國平均して十三圓五十五錢にもなつた今日でわ、をまけに五十億萬圓の借金を背負わされたからにわ一石十五圓や十六圓でわ農民わとてもやり切れない。けれども米も農産物であり、農産物わみな世界相場で決定されるから、米も歐洲戦争前の價額に戻るのが實わ經濟自然の勢である。日本の税金わ高いから、日本農民の借金わ多いから、米や繭の値段だけわ、どをしても日本相場で特別に高くせねばならぬと心配する農林省の當局者わ、隨分と間誤付いてるのである。しかし政府の力でも、自然の經濟原則にわ勝てず、税金や金利わ、正直な經濟理論から見ると、決して生産費の中え這入らない。リカードと云う經濟學者も云う通り、農産物の生産費の差額、即ち農民の生産剩餘が地代であり、それが實わ我國古來から

の四六六民と云う租税に當るのである。高い地代と高い税金と高い金利と高い金肥と、其等のものを特別に全部日本の米と繭の生産費に背負すことわ、經濟が世界共通となつたを知らない天保時代の鎖國反動思想である。けれども大震災で東京中の米倉庫が全滅し、長いこと米のみわ一石三十圓の高い相場を維持して來たが、ふとした動機で下る處え下つた今後わ、まづ二十圓を標準に、需要供給で上つたり下つたりする位のものであると、我等農民わ覺悟しなければ、此上にも借金の夢を見續けていと、飛んでもない間違いを生ずるのであるを。

三七 共働農業だけわ渦卷形に發展する

農民が原料で賣るから安い。繭でも生糸にし織物にし、西洋貴婦人や勞働婦人の履く靴下にして賣るならば、養蠶をする日本農民わ、支那人の生産費に拘わらず、養蠶をして一反から數百圓の收入があるのである。

都會人が商工業をしたければ、支那から生糸でも輸入し、米國靴下會社と競争して、米英佛獨の文明諸國の貴婦人や勞働婦人え靴下でも賣付けるがよい。日本内地の繭わ農民自身の手で生糸にし織物にし靴下にするとき、農村の疲弊が立派に救われる。しかし農民が個々別々で居て、製糸や織物や靴下が出来るものでわない。農民が農産物を原料で賣る間わ、農産物わ未開農民の生産費に支配されて世界の需要供給により、上つたり下つたりするから、農民わ永久に疲弊から浮び上ることができない。農民が原料を加工して完全な製品とするとき、世界未開人の原料生産費に頓着なく、共働經濟わ渦卷形に發展するのである。

片倉組の製糸工場長から聞いたことがある。生糸の高いときでさえ、二十錢位の日本生糸の原料四

勿で、十圓にも賣れる立派な貴婦人用の靴下一足が出来る。合衆米國の靴下會社わ、日本や支那から安く生糸を仕入れて、一足十圓位の婦人靴下を製造し、米國內地わもちろん英佛獨伊、其他歐洲各國え再輸出している。亞米利加標準に日本農民が生活幸福を獲得しよをとすれば、自分の作る繭であるから、自家労働で加工して生糸にし靴下にするがよい。自家労働の加工であるから、最初わ多少技術が拙でも、決して失敗わあり得ない。高く賣れなければ農村婦人が自家用に絹の靴下を履くがよい。其間に技術が進み立派なものができだす。織物もその通りである。

日本平均の一反當り繭の收量わ二十貫であるから、生糸を取れば二貫目、之を絹織物にすれば、縮緬でも羽二重でも絹でも、二十反となる。農村の自家労働でやるから、決して損をすることわない。最初わ不出來であるを。その時わ賣らずに農民が絹でも縮緬でも羽二重でも着てしまふ。自分で作つたものであるから、決して遠慮することわない。もし長野縣伊那地方の平均で、一反より繭を三四十貫取れば、一反より三十反も四十反も絹織物ができ、篤農家永田新司郎氏わ一反より繭を七八十貫取るから、其標準でゆけば一反より七八十反も絹織物が出来るのであるから、農民わ木綿の着物など着ず足袋から股引に至るまで、おかいこづくめになることが大意張りで出来るのである。贅澤だ。そんなことわ頭の汚い都會人が農民を搾る準備に云うことで、一反七八十反の織物が自給自足できるのに

一反え陸稻三俵作つて、之を一俵四五圓に賣り、やつと木綿の織物を四五反ほど買わされて着る方が遙に愚かな贅澤である。

一貫六錢にしか賣れぬ薩摩薯を原料にして焼酎しやちゆうを作れば、安くても二十錢にわなる。農民わ澱粉でんぷんを作り、蒟蒻こんじやくを作り、味噌醬油を作り、凡ての農作物を自家労働で加工するとき、最初わ技術が拙でも自家原料で自家勞力だから、決して損することわない。出來が悪ければ胃袋を持つ農民わ、食うことも飲むことも出来る。其間に技術が熟練し立派な品が出來だすと、何にもかも高價に賣れだし、西洋の貴婦人も日本農民の製造した靴下を買いだすわ必定である。三越でも白木屋でも農村の織物を賣ることになり、焼酎も味噌も醬油も、凡てが凡て農民の品でなければならなくなる。そのとき農民わ出來だけ製品を安く賣つてやる。都會商工業者の半値段で賣つてやる。西洋婦人の靴下などわ、五分の一の値段で賣つてやる。一足二圓に賣つても、原料生糸も二分の一の値段になつた今日でわ、原料生糸わ十錢位であるから、其生糸を靴下にすると約二十倍の二圓となり、つまり繭で賣れば一反五十圓にしかならぬものが、靴下にして賣れば千二百五十圓位になる。一反千二百五十圓位の收入ある農業ならば、まづ農村わ振興されること請合である。

一反から八十反織物を作り、それを五圓づつで賣つても、一反四百圓の收入になる。それなら農村

わ確實に振興される。薩摩薯でも一反千貫を作り、一貫二十錢の割で焼酎や澱粉にすれば、一反の収入が二百圓になる。山の開墾地から二百圓収入が轉けて來れば、それだけでも農村わ振興される。肥料わ自給自足であるから、また無數の家畜から、十分な營養物が取れ、牛皮で靴も作れるし、山林から家の建築用材もできるし、用材の枝葉わ燃料になるし、衣食住に何一つ不足のない山え續く農村わ、價額の計算を忘れて水田えわ米を作り、一反三石平均に收穫しだす。

一反から三石收穫すれば、大人を一人五分養い得る。こをした地面の絶對營養收穫から云えば、水田にわ米と其裏作に麥を作るが最も得策であり、山の畑えわ薩摩薯や馬鈴薯を作ると、一人に必要な三千カロリーわ六百匁八百匁で十分であるから、一反で四人や六人わ養い得るから、山の畑わ芋を作るが最も得策である。しかし脂肪や蛋白質が缺乏するから、山の畑の一部え玉蜀黍其他の飼料を作り、エンシレーヂに貯藏すると、葉も莖も穀も凡てが牛の飼料になり、日本の如く氣候のよい雨量が多い山の畑でわ、一反で乳牛が一頭も飼い得られ、その牛乳で一人八分の農村人口が養なえる。桑を作つて蠶を飼えば一反から七八十反の絹織物を作り得るし、需要供給で上つたり下つたりする價額を離れて、田畑の絶對有效價値を調査すると、平野わ水田にして米を多收穫し、山畑わ一部に芋を植えてカロリーの多い澱粉を作り、一部わ牛の飼糧を作つて、脂肪や蛋白質の多い牛乳を搾り、また一部わ桑

を作つて織物や靴下を製造する。開墾できない急な處や、岩石の多い處や、寒い處わ植林する。植林からわ建築用材や、纖維質の工業材料や、炭や薪等が産出される。燃料からわ更に木炭瓦斯が製造され、自動車でも飛行機でも運轉できる貴重な原動力となる。

土地の絶對有效價値の計算わ、今迄の統計方針でわ正確に答えられないが、牛わ草食動物であつて人間の食えないものを貴重な牛乳にして呉れ、癩牛はいぎゅうとなるとき肉と毛皮を残して呉れるから、どをしでも農村わ牛を飼い、山の草まで最有效に利用しなければならぬ。鶏わ穀物の中の人間が食うに適しない程のものを飼料として之を卵にするから、其程度に養鶏するとよい。一羽二百卵を産むならば、一反の收穫物で十五羽の鶏が飼えるとすると、一反から一年に三千卵得られるから、其卵のみで生活して、毎日四十個必要とすれば、一反わ養鶏すると〇・二人を養い得る。之が土地を養鶏に利用する場合の絶對有效價値である。鶏も癩鶏はいけいにするとき肉を作るが、最も有効に人間の生活え肉を與えるものわ豚である。豚わ雜食動物であり、牛と鶏との中間の飼糧を食い、牛乳よりバタを作るとき、脱脂乳だつしよの利用として、どをしでも豚を飼う必要がある。豚わ蕃殖率が非常に速く、一産平均七頭以上を産み、八九ヶ月で二十四五貫になるから、農産物を肉化するにわ、養豚以上のものわない。特に豚わ米糠麥糠フスマ豆粕と云う類の農産物加工の残り滓で最も味よく肥育できるから、どをしでも豚を

飼わねばならぬ。特に豚肉の特長わ、豚の脂肪わ三十七度乃至四十二三度と溶解し、人間の腸によつて容易に吸収され得る状態になるから、四十八九度でなければ溶解せぬ牛肉の脂肪に比し、遙に肉食用の好適品である。肉食用として豚の價値わ、左の蕃殖頭數比較表で明瞭である。

	一年	一年末	二年末	三年末	四年末	五年末
牛	二	三	四	六	八	一一
豚	二	一四	八〇	四三四	一、八二四	八、一〇七

また模範牧場の子安農園立川養豚場の豚の飼糧が左の配合によつて見れば、農村が將來農産物の加工に進んだとき、其の殘物に依つて多數の豚が自然に飼えることも明瞭である。

成豚一頭一日の飼糧

米	糠	二升	
麥	糠(大麥の荒糠)	一升	
フ	ス	マ	五合
大豆	粕	七合	
魚	粉	一合五勺	

鹽

五勺

蠣殼粉末

二十瓦

自然科学の結論に従い、絶對有效價値から計算して、最有效に土地を利用し、其産物に加工するとき、全人類の食料にも衣服にも住居にも燃料にも、其他の生活必需に決して不足しなくなる。自然わ循環して、植物わ空气中より炭素を取り、動物わ空气中え炭素を環元し、動物わ植物を飼料にし、しかし動物わ無機物を排出して植物の生育に必要な肥料を土地に環元する。牛わ固くない纖維質を牛乳にし、脂肪を取つてバターを作れば、その脱脂乳と根菜類に依つて豚肉ができ、蠶を飼えば蛹で鯉や鱒が飼えるし、鯉や鱒わ人間の胃袋を通つて、無機肥料を田畑え環元する。自然科学の理論に従うとき、自然わ渦卷形に循環して、農村の疲弊や人口食糧問題や不景氣や失業など、全然有り得ないことである。もお米の相場や繭の相場など心配する必要わない。水田わ米の値段に拘わらず、人間一人半を養い得る米を作るに決定した。温帯の山の畑でわ棉を植えたり羊を飼をたりせず、桑を植えて養蠶するに決定してゐる。薯も多量に作らねばならぬ。家畜の飼糧も十分に作つて、乳牛も豚も卵鶏も無數に飼わねばならぬ。

山岳の急斜面わ草など生さず、岩山にまで植林して、燃料と建築材料を取る。材木も非常に必要な

工業材料であり、また石炭や石油がなくなる將來に於て、世界最後の貴重な燃料であるが、佛蘭西の化學研究所の調査によると、佛國國有林の總體に對して、細い枝、枯葉の末に到る迄計算に加えても結局一ヘクタールに付き、木質の生成量四、〇〇〇砵にしか達せぬので、玉蜀黍の畑作物が一五、〇〇〇砵の可燃物かへんぶつを與えるに比べ、地上を森林にすることを得策でない。しかし急斜地や岩石地や寒帯地方を森林とする外わない。獨逸や佛蘭西や伊太利を全面積の四割以上を開墾して畑にし、合衆米國でさえも全面積の一割八分を開墾して畑にしてゐる。土地の狭い我國の田畑が全面積の一割六分にか當らぬのわ、土地利用に非常に大きな錯誤があるからである。全國總面積の八割以上の山岳が植林さえもされず、無意味に放棄されてゐることわ、全く明治以來の都會商工本位に走り過ぎた大誤謬の結果であり、人口が多く土地の狭い我國でわ、少くも總面積の五割を開墾して有畜農業の畑とし、残りの五割を植林して材木を最有效に利用しなければならぬ。

森林からわ建築材料や家具材料や紙や人造棉花や人造生糸の原料が供給され、また世界最後の燃料が供給される。我國固有の木炭わ科學の應用が十分でないため、炭燒の間に多量な水素瓦斯や炭素瓦斯を逃しているが、將來の部落生活團體でわ、炭燒竈すみやきかまを改良して、無駄に逃す煙を暖房装置に導き、點火して炊事や燈火に使い、また燒方も白土氏の乾式瓦斯化法や淺川氏の濕式瓦斯化法を應用すると

其炭を瓦斯化して大動力を起すことができ、部落生活團體のトラックや加工場を安價に運轉し得るのであるを。また木材の纖維から人造棉花や生糸を製造する方法も發明されたため、人造生糸わ將來天然生糸を驅逐するとも思われているが、しかし太陽光線に依つて樹木の働く炭素を同化し得る分量わ一ヘクタール四、〇〇〇砵に過ぎないのに、天然生糸わ一反から八十反の絹織物の原料繭を作る桑の葉を産出し得るを思うとき、人造生糸わ到底天然生糸の敵でわないのである。今日は需要供給により上つたり下つたりする氣狂貨幣相場を基礎にして、材木ほど安いものわないと思をているが、遠い將來にわ材木ほど高いものわなくなるであろを。土地の絶對有效利用を調査すれば、我國の山畑でわ永久に桑を植えて蠶を飼わねばならぬ。迷ふことわ少しもない。共働經濟のみが、需要供給によつて上つたり下つたりする貨幣相場を心配せずに、自然科學の理論に従う土地の絶對有效利用を可能にして、地球の全表面を最有效に役立て、水田わ永久に米作、山の畑わ永久に桑や飼糧や薯を作らし、開墾できぬ地球全面積の五割わ永久の森林にさす。之を古い昔の自給自足と誤解してわならぬ。

古い昔の自給自足によると、讃岐でわ甘蔗を植えて砂糖を締め、河内でわ棉を作つて木綿に織り、隨分と無理があつたため、北海道や樺太でわ、穴居でもしなければ、人間らしい生存わできなかつた北海道でも樺太でも西比利亞でも、大勢の人が文化生活をしだしたのわ、地球の全表面が地理的に分

業して、砂糖わ熱帯の島々、棉は熱帯に近い平野、麥わ雨の少ない温帯の大陸、米わ雨の多い平地、温帯の山畑にわ桑や薩摩薯類、冷地でわ豆や馬鈴薯、寒帯でわ森林と云う工合に、地球全表面の有効な分業ができた結果である。しかし需要供給による上つたり下つたりの賣買が凡ての生産を支配していれば、都會ばかりが繁昌して全世界の農村わ疲弊する。

正しい經濟學から、必要量の最高生産費によつて、價額が決定されねばならぬ理論が判明した。生産費の低い處え自然に生産剩餘が計算される。この生産剩餘を確實に資本化していれば、人類の生産能力わ非常に高まり、種々な貨物が多量に生産されることも判明した。また人間の胃袋にわ制限があり、生理と相談して無難に胃袋え入れ得る以上の分量わ、悉く文化の共用設備にしなければならぬことも判明した。此等の種々な經濟理論に當て箴まる生活の方法わ、農村部落生活團體の共働組合と其聯合によることを我等は十分に知つた。

農業技術の立場からわ、多收穫と多角形農業と自作農と肥料や飼糧を自給する有畜農業と原料に加工する副業が要求される。多角形であると同時に多收穫であるにわ、専門に分れて共力し分擔し合わねばならぬ。なかでも家畜わ飼葉を與えて生かして置くだけでなく、牛わ多量に乳を出し、豚わ多産して肥え、鶏わ數多い卵を産み、蠶わ多量の生糸を出さねばならぬ。そをした有畜農業にわ一層専門

に分れての分業と共力が必要であり、更に農産原料に加工する段になると、靴下や絹織物まで製造するにわ、莫大な資本金がいり、非常に大きな熟練もいることであるから、なをさら生産剩餘を確實に資本化して、之を渦卷形に増大せしめる生活團體の共働組合と其聯合以外にわ、農業技術に關する此等多數の要求を、どれにも都合よく満足さす方法わ斷じて他に無いのである。

土地利用の絶對有效價値わ、各種の自然科學によつて正確に計算し得る。また自然科學わ有機物でも無機物でもエネルギーでも、自然わ悉く循環するを明に示す。こをした自然科學の種々な結論と指示を、地球の全表面を最有效に利用して、全人類の生活幸福を實現する方法わ、都會中心の商業制度でなく、農村を本位とする自給自足である。しかし狭い昔の自給自足でなく、世界共通の非常に廣い自給自足でなければならぬ。世界共通の非常に廣い自給自足でわ、最有效な分業と共力と交換があり、それわ必然に農村部落生活團體の共働組合と其聯合を意味する。

經濟學わ絶對の眞理である。農業技術も絶對眞理の自然科學が指示する所のものである。土地利用の絶對有效價値を明にする自然科學そのものわ、動かすことのできない全人類えの命令である。もを机上の主義や思想や、そんな空想わ完全に清算し、明るい自然の絶對眞理を見詰めなければならぬ。都會の商店の倉庫の影や、薄暗い工場の事務室の隅で、自分一個の貪慾^{とんよく}を秘^{ひそ}かに思ふ不純な動機を捨て

狭い組合利己心と云うものも捨て、眞に明るい大自然を見詰めるならぬ。人間を強そを見え
ても心わ弱い。眞理を必らず最後に、どんな人間の心でも完全に征服するであらう。眞理を護り全人
類に徹底さす者わ、明るい大自然を見詰めて心の純眞な農民である。農村部落の生活團體の共働組合
と其聯合の、明るい自然の眞理を見詰める農民のみが、汚い都會の濁つた意識を清算して世界と全人
類を眞に指導するであらう。

三八 世界を清算し指導するもの

共働組合と其聯合が世界の處々に行進曲を吹奏している。露西亞のスターリンさえも、單純な共産
主義を捨て、トロツキーやジノヴィエフ等の古い同志と分れ、絶えず『左翼』お喋り連中から攻撃され
ながらも、集團農業の共働經濟に移つて、疲弊し切つた露西亞の農村を振興に導きながら、年々と多
收穫え進み、飢饉で破産しかけた露西亞全體をも救い出した。スターリンわ露西亞の農村を振興する
ものわ、低級な協同組合の購買的な販賣的なものでなく、高度の形態、即ち生産を集團經營にするこ
とであると説明している。

世界を行詰つた。それを打開しよをと、購買組合、販賣組合、其聯合、集團農業等々が、世界の處
々に行進曲を吹奏している。しかし都會のイデオロギーに酔わされた者に、まだ共働經濟の本當の意
義を解らない。農村部落の生活團體に立脚するとき、共働組合と其聯合が世界の行詰りを眞に打開し
て、過去一切の誤謬を清算する。不景氣も失業も農村疲弊も、一切わ共働經濟の洗禮によつて清算さ
れ、全世界と全人類わ永久の幸福に向う。亞米利加でも英吉利でも伊太利でも佛蘭西でも獨逸でも、

農村生活團體の共働組合と其聯合の新しい基礎の上のみで、不景氣や失業や農村疲弊等々の社會問題を知らなくなるであらう。

農村部落生活團體の共働組合と其聯合のみが一切罪惡の清算者であり、世界と都會の破産管財人であり、新しい最後の建設者であり、我國を天祖の遺訓に復活せしめるものでもある。我等が愛國者であり、同時に全世界と全人類の熱愛者である。世界愛と人類愛と家庭愛と部落愛と町村愛と地方愛と民族愛と、愛と利害の凡てを凡て、少しの矛盾と衝突なしに、自分の利益を他人の利益にも、熱愛を熱愛に一致せしめるものわ、農村部落生活團體の共働組合と其聯合でしかない。それわ、また經濟學の新しい理論に従がい、自然科學の理論と其應用の最も善い方法にも従がい、渦卷形に部落より村え、村より地方え、地方より民族え、民族より全世界えと、支那人でも印度人でも亞弗利加人でも、全人類を最高文化の永久生活え導くものである。之に先驅せねばならぬ我國農村青年男女の任務わ重い。農民でなければ、部落農民でなければ、新しい運動の指導わできない。イデオロギーの違ふ都會人わ慎んで退却し、良心があれば鋏と鎌を携けて農村と部落え歸えれ。私わ歸えつた。都會の人わ、頭の善い者わ、罪惡の都會でマゴくし、何か言い譯わあるまいかと、机の上の古い書物を力なく繰り擴げて、何時までマゴくするのわ。果斷のみが自己を清算さす。

都會の人わ誰かを搾らねば生活ができない。資本主義者も搾取者であり、共產主義者も農民を無視するならば、また搾取者である。一切の搾取思想と、巧い言い譯を放棄して、自分で生産し、自分で加工し、搾取も掠奪も征服も、何の不純な罪惡を少しも考えない平和な農民の、全人類愛に歸えらねばならぬ。闘争わ、階級闘争わ、最も巧妙に理窟付けられた都會イデオロギーの最後のものである。

闘争もよい。階級闘争も必要である。都會イデオロギーの全部に破産を宣告し、完全に彼等を清算して、農村に大きなものを建設して、渦卷形に全世界と全人類を包むまで努力し続けねばならぬ我等わ、誤謬と罪惡に對し飽くまで闘争せねばならぬ。彼等に破産を宣告し、彼等に清算を警告する我等わ、都會イデオロギーの全部に向い勇敢に闘争せねばならぬ。

闘争わ目的でない。安定が目的である。過渡期に於て我等わ闘争せねばならぬ。女も老人も闘争から逃げず、最も勇敢に戦わねばならぬ。ジョンボールわ農民を引き連れてロンドン府え進軍した。ランブランドわ最初の農民詩を歌い、疲れた英吉利の農民を鼓舞した。ウキクリフわヘブライ語の聖書を翻譯して、本當の人類愛を無自覺な昔の農民達え説き廻つた。フスわ焼かれた。けれども彼等の何人も退却しなかつた。農民わ女も老人も退却せず、誤謬の清算と永久の建設に努力せねばならぬ。農民のみが都會イデオロギーに向かい破産を宣告して、農村自身に新しい大きな文化を建設し得る。農民

わ團結し、強く農民わ團結し、理論的にも經濟的にも、仕事の上にも生活の上からも、二重にも三重にも強く農民わ團結せねばならぬ。個々に分れていてわ弱い。個々に離れていると瞞だまされる。疑わず農民同志わ固く結合しろ。思想だけの團結でわ弱い。小作料を値切る團結でもまだ弱い。投票するだけの團結わ、もちろん弱い。買物するだけの團結でなく、賣る爲の團結でもなく、生産と生活と全生命を、理論からも思想からも、仕事からも信仰からも、四重にも五重にも強く結合しろ。農村部落の家族を聯つねて生活團體の共働組合と其聯合が實現するとき、強い強い農民の本統の團結となる。

昔の農民わ強く團結して、封建の嚴しい搾取と、風雨や疫病や飢饉やの自然の迫害に耐え、文化のない淋しい生活をも楽しいものとした。青森縣七戸町の郊外別會部落に工藤ヨコと云う婆さんがいた昨年の正月に九十六歳で死んだが、非常に丈夫で元氣な婆さんであつた。明治十七八年頃までわ、附近の農村わ何處でも共働耕作や共働田植をしていたをで、當時のことを婆さんよく青年達に語つたものである。共働學校二回生の工藤岩之輔氏から、私わ左の如く傳え聞かされた。

共働耕作をまだやつていた頃迄、別會村わ九戸（現在八戸に滅る）で皆自作であつた。婆さんわ今の世を慥なほくことが好きで、よく昔話をするが、私（工藤氏）が訪ねた時も喜んで昔話をして呉れた。昔わカラヤキ（怠惰）と親不孝を教える學校もなかつたし、七八歳の頃から家の手傳をさせられたを

をで、田植の時分になると、村中總出で順繰りに當番々々の家の田を植え廻るが、朝わ夜明け前に當番の家で朝食し、朝日が出るか出ないかに若者達わ一同元氣な聲で唄うたを歌いながら田コシリを初め、メラシ（娘）達わ植えはじめ。若衆連が歌うとメラシ連が其に合せて歌い、又わ交互に歌う。賑やかな田植えで少しも疲れを知らなかつた。そして皆テンデに仕事を競きつたものである。私わ此歳になつても未だ目についているが、朝日が地平線から上る時の氣持よさ、元氣な若衆の唄い聲、メラシ連の笑聲、其時分わ村が活きていた。楽しかつた。皆喜んで働き、疲つかれを知らなかつたものだ。

小さな時から村中一所に働き一所に飯を食うから村中仲がよく、他人の様な氣がしなかつた。村中の規則わよく守られた。また老人でなければ死ぬものとわ思わなかつた。今時の若者わ、からきし元氣がないが、その時分わ元氣があつたものだ。コエクバリ（厩肥運搬）の時などわ、各戸から馬の二三匹づゝも連れて順繰りに運搬したから仕事が非常に早く運び、厩にいるツケ役、クバリ役、畠にいるチラシ役と、皆役々の受持があつて、掛聲勇ましく、ヤイホイヤイホイと追驅けて働いたものだ。其時分わ働き甲斐があつたものだ。骨にわウザネ（苦勞）わしたが、面白かつたものだ。婆さんの話わ中々盡きないが略してをく。昔の農家わ大家族主義で、その上に部落中で共働していたのである。生活團體の共働組合と其聯合わ、今を昔に返えし、一層それを楽しい文化の光榮に導く。

農民が團結するにわ、愚な争を村の中でしてわならぬ。露西亞の集團農業でも、貧農が中農と歪み合わず、中農を部落の集團農業え引き入れさせた。貧農の個々の集團ばかりでなく、中農の大衆も亦た集團經營に参加していることが、露西亞集團農業の著しい特質だとさえ、スターリンが言うている。農民の團結わ内輪喧嘩をせず、外部の都會イデオロギーに向つてのみ、勇敢に戦わねばならぬ。

農民わ都會イデオロギーと戦こをて、必らず其を清算ささねばならぬ。それにわ勇敢な闘争の必要がある。しかし、そをした勇敢な闘争と共に、農民にわ生活團體の共働組合と其聯合を建設する、一層大きな自分自身の任務がある。農村青年男女わ、中年者でも老人でも、清算と建設の二重に大きな使命を持つのである。

養蠶をせぬ亞米利加人に、支那の指導わできない。彼等わ繭を買うけれども、日本や支那の農民の爲に繭を買うのでなく、儲けて賣る爲に繭を買うのである。米を作らぬ西洋人に、東洋人の指導わできない。彼等わ工業品を賣り付ける爲に、東洋農民え都會文明の餘り物を宣傳する。都會人に農民の指導わできない。農民わ誰にも依頼せず、自分自身の手と力と理論と生活と組織とで、争い且つ建設せねばならぬ。米を作り蠶を飼い芋を作り山の頂上まで植林して、牛と豚と鶏を飼う新しい農村部落の生活團體が我國え鞏固に基礎を確立して、一切の農産品に加工する共働組合と、大規模産業をも經

營する其聯合が渦卷形に組織されるとき、その渦卷わ朝鮮から支那から印度から南洋から亞弗利加から、遂にわ歐洲と亞米利加の農村えまで擴がり、其擴がりわ完全に都會イデオロギーを征服して、全世界と全人類を永久の幸福に安定さすであらる。世界を清算して新しく指導するものわ、農村部落生活團體の共働組合と其聯合である。農村青年男女、並に中年者と老人わ、新しい文化の闘士であり、また貴い建設者である。都會勞働者のプロレタリアートに農村を支配する根本を清算さして、共働農村團體の共働組合と其聯合が、逆に一切を管理する我等の方向に改まるるとき、都會も我等のものとなる。我等わ都會から指導を受けず、逆に我等わ都會を指導するであらる。農民のみが世界を指導し、全人類を永久の幸福に安定さす。

三九 十年後の確實な展開

都會の勞働者わ年期を終えた後の十年間、最も仕事の能率が擧り、雇主から重寶される。けれども次の十年間わ居据り、其次わ邪魔物扱されて失業しがちになる。しかし農村青年わ反對であり、最初の十年間わ親父の下で忍ばねばならぬが、次の十年間に長男わ相續し、次三男でも自分の意思で農業をすることが出来る。だから農村青年わ自分達さえ自覺すれば、少なくとも十年後にわ、自分達の部落を、どんなに住みよい村ともなし得るのである。

英吉利ロチデール町で世界最初の共働消費組合を作つた開拓者は、共働消費組合が渦巻形に發展すると、幾年かゝれば世の中が改まるかと問われたとき、十年でよいと即答した。實際ロチデールの先驅者組合わ十年も経たぬ間に、驚くほどの發展をし、二三十年後にわ、英吉利全體に擴がつて、ロチデール先驅者の例に倣い、續々と英吉利各地に同じ氣持の共働消費組合が設立され、それが互に聯合して、千八百六十四年マンチエスター市え卸賣共働組合聯合が設立され、石鹼や靴や菓子や製粉や種々の日用品を製造する工場を設け、其原料も貿易商の手を経ず外國から直輸入し、その輸入品も汽船

會社に儲けられぬよを、先驅丸とか友愛丸とかと云う氣持よい名前の專屬汽船で外國から自分で運搬し、また印度のセイロン島や亞弗利加や、處々に廣大な殖民地を設けて、原料品を自給している。大宰相グラドストーンが之を見て非常に感激し、英吉利の勞働者わ諸外國に先んじて種々な社會運動をしているが、其中でも共働消費組合實に誇るべきものであると激賞した。八十幾年後の今日でわ、共働消費組合と其聯盟實に偉大な事業を爲し、殆んど總ての日用品を最も完備した工場で自給自足し、販賣所や俱樂部や住宅等の設備わ善美を極め、銀行でも保險でも、凡てのことを自分達の共働の力でやつている。

貧乏な勞働者がコツ／＼と働いて、資本家の如く剩餘金を蓄積してわ、資本と事業を渦巻形に擴張していたロチデールの先驅者達わ、マルクス其他の社會主義者から、資本家の眞似をする奴だと叱られたことがある。二階から目薬のよをな生ぬるいことをしているとも、非難されたことがある。しかし自分の利益を知る者わ自分達であり、無産勞働者わ社會主義者や知識階級の指導者達から叱られながらも、コツ／＼と共働消費組合と其聯合を渦巻形に擴大し、其模範わ白耳義えも佛蘭西えも獨逸えも伊太利えも世界の各地え傳わり、我國でも明治三十三年産業組合法を設けて、政府の方から獎勵して、露西亞さえ共產主義で行詰まり、レーニンも大きな將來の飛躍をする爲に、一まづ退却すると

言ひ譯しながら、新經濟政策の看板をかけて、共働組合と其聯合の方向に移つた。

世界わ結局共働組合と其聯合を完成する。英吉利の都會労働者がコック／＼と始めたのも、白耳義や獨逸や佛蘭西や伊太利の労働者が都會で計畫したのも、また丁抹農民が農村を振興したのも、結局わ共働組合と其聯合が唯一の方法であつた。共產主義を實行した露西亞も新經濟政策から集團農業の五ヶ年計畫に移つた。世界を改造するものわ、コツコツと鈍重に始めても、革命から氣短に建て直しても、結局わ同じ共働組合と其聯合を行くのである。しかし都會から労働者の手に依て其計畫が進行し、果して農民わ完全に救われるであらうか。農村と農民を確實に救うものわ、農民自身の努力である。

丁抹でも農民が共働組合と其聯合の運動を開始した。千八百八十二年ユトランジア州ヘッヂンゴ部落で、先驅者アンデルセンを中心として、誠に小さく始められた部落農民のバタ工場が二十五年後に全丁抹を世界中の最も幸福な農村としたのである。ロチデールのよをに、ヘッヂンゴからも、先驅の實例が隣え隣えと擴けられて互に聯合し、加工と販賣と輸入と剩餘が、事業を渦巻形に擴大して、今日の丁抹を旅行するならば、文化別莊かと間違えさす牧畜農村を出現した。風車仕掛けの發電装置があり、石炭も水力もない自然の乏しい丁抹でわ、風力を利用して各自の家で電氣を起しているを見る。彼等の立派な畜舎でわ、豚の小便一滴を無駄にしても、丁抹の農業わ減びると戒めて、コンクリー

トで固めた豚舎や牛舎わ小便汁を綺麗に濾して、電氣仕掛けの鐵管で屋根上の肥料槽に吸い上げ、長いゴムホースで畑えかけるほど、凡ての農業が文化に進んでいる。トラクターやコンバインの上に坐る農村青年わ、工場労働者と同じ氣持で、空氣のよい野外の作業をしている。共働組合の聯合にわ畜産品加工の種々な工場があり、直屬の汽船で輸出もすれば、また大豆の仕入時期になると、直屬汽船を滿洲の大連あたりえ派遣して、大豆を滿載して歸えり、其大豆を直屬製油工場で立派な油に絞る、立派な油わ英吉利邊に輸出して汽船の運賃位を儲ける。絞つた油糟わ軟いふか／＼したのを自動車で村々え配ばり、それで豚を飼うから、とても味い豚肉が取れる。その肉を聯合工場で素晴らしい燻肉にするから、どんな不景氣でも金のある者が争て美味の營養材料に買い、丁抹の農業わ不景氣知らずである。しかし人口が殖えるに従い、丁抹でも次三男わ農村にいられず、都會え都會えと出掛けねばならなくなり、小さな丁抹を世界第八位の失業國にし、佛蘭西や和蘭等よりも遙かに失業者の數を多くした。

丁抹の農村わ過去に於て世界一を誇つたが、もを行詰りに近付いた。長男のみを幸福にして、次三男を追い出さねばならぬ丁抹の農村、並に之を眞似た三河の碧海郡邊わ、根本から建直さねばならぬことになつてゐる。販賣や加工ばかりを共働にするから、丁抹も碧海郡も次三男を村に置くことがで

きなくなつた。農業そのものを共働にすると、始めて次三男も、また都會に迷い出ている者等まで村に歸えり、全人口の八割以上を完全に農村を受け入れ得る。部落農民の生活團體を基礎として、其上に共働組合と聯合が渦巻形に展開するとき、最後の理想が永久に實現する。共働組合を丁抹や英吉利や碧海郡や今迄の誤まつた方法で、個人を單位に設立したので、長男しか農村にいられなくなる。次三男をも幸福な農村部落の一員とするに、農業と生活そのものを共働とする部落農民の生活團體を完成し、その生活團體を單位として共働組合と其聯合に進まねばならぬ。個人主義でなく、大家族主義でなければならぬ。露西亞の五ヶ年計畫でもまだいけない。ヴァルガも白狀するよをに、都會工業の資本金を農村からだけ絞る組織を、農村が本位でなく、都會プロレタリアートを本位として、露西亞も一度考え直して、集團農場を部落農民の生活團體に進まし、其結合が共働組合となつて加工でも販賣でも購入でも取扱い、共働組合の聯合が重工業や繊維工業や鐵道まで、最後に露西亞の政治まで引受けるとき、露西亞が完全に農民の國となる。そのとき都會わ農民の本部となり、都會プロレタリアなどわ、それ自身の存在意義がなくなる。ロチデルでもガン（白耳義）でも、過去に於て都會を中心とした消費組合や協同組合等々と稱するものわ、みな根本から自己を清算して、生活團體の共働組合と其聯合に進まねば、古い反動團體でしかない。

我國部落農民が眞に生活團體の共働組合と其聯合に自覺するとき、一の部落が渦巻形の發展を爲し終るにわ四五年で充分であり、隣から隣へと宣傳して、日本の農村部落と農村青年が悉く生活團體の共働組合と其聯合に自覺すれば、全日本を新しい永久の幸福に安定さすにわ、十年もあれば十分である。其年數わ農村と農民の自覺が速いか遅いかに依て決定される。

疲弊して行詰まつた部落が四五年から十年で立ち直ると云えば、餘り好都合な解釋であると、私の言葉を疑う者があるであらう。けれども秋田の篤農家石川理紀之助翁が、九升田と云う非常に疲弊した部落を立派な部落に改造したのわ僅に三年間であり、二宮尊徳翁が疲弊し切つた野州櫻町部落を改造したのわ七年であつた。どちらも方法としてわ朝起きを奨励した位である。

尊徳翁が領主大久保侯の依頼を受けて櫻町に乗り込んだとき、朝早く部落や田畑を見廻つた。大酒を飲み、賭博を打つて夜更にした農民わ、太陽が出ても起きず、田畑に人影わない。夜明け方、二三人の青年が通る。夜遊びの歸りであつた。青年わ尊徳翁を發見した。悪い處で悪い奴に出喰したと、青年達わ草影に身を潜めた。彼等を見逃さなかつた尊徳翁わ意地悪く青年達の隠れ場所に近寄つた。青年達も仕方なく立ち上つて朝の挨拶をすると、ああ感心だ早起して朝草刈りか、青年の心掛けわをなればならぬ。少しだが褒美だと一分銀を紙に包んで尊徳翁わ青年達に與へた。青年達わ面目な

く頭を搔いた。しかし翌朝から本統の草刈を始めた。

役人の手でさえ、どをにもならず疲弊し切つた九升田部落を、縣知事の懇願によつて石川理紀之助翁が三年間で改革するを快諾した。縣吏一名を連れて乗込んだ理紀之助翁は、毎朝非常に早く縣吏を起して、薄暗い頃から部落中を見廻らした。大酒と賭博で夜更した農民は、一軒も戸を明けてをらぬ。太陽が出てからも容易に起き始めない。一番朝寝坊する數軒を、何助の家は八時まで寝た、何助の家は九時まで寝たと、白紙に書いて部落中へ貼り廻した。何助何作之を見て非常に腹を立て、張りの紙を破ふり腹癒に、翌朝もつと十分に朝寝坊をした。縣吏は毎朝暗い頃から部落を廻り、根氣よく朝寝坊する家を調べて貼紙を續けた。部落民も根氣よく貼紙を剥ぎに廻つたが、貼紙をする専門家に勝てず、ボツ／＼朝起きする者が出來た。朝起きするに夜更しが都合悪く、朝起を續けている間に、夜更しと酒飲と賭博が止まり、また朝起きして見ると、繩ない位を始めだし、朝から心掛けがよくなり出すと、終日心掛けがよくなり、三年間に完全に其部落を復活して、借金も税金の滞納も拂らい、貯金さえ出來た。けれども野州櫻町も秋田九升田も、今見える影もなく再び疲弊している。伊豆の稻取村でも、静岡郊外の杉山部落でも、嘗てわ天下の模範村と云われたが、再び借金で立ち上れなくなつた。

ロチデールやヘッチンゴから起つた共働組合と其聯合が、連綿として益々繁榮するのには、櫻町や九升田や稻取や杉山が何故に指導者の一代しか模範が續かなかつたか。之を篤と考へねばならぬことである。尊徳翁や理紀之助翁の指導は、一個の模範村を作ることであつた。模範村民が朝起を誇る間に彼等が緊張を失のをて、模範を喜ぶ祝酒に再び疲弊の原因が芽生えた。ロチデールやヘッチンゴは、世界に先驅して全國民と全人類を共働模範の幸福を開拓するに在つた。こをした根本の精神の相違から、櫻町や九升田や稻取や杉山は、立派な指導者を持つて興りながらも、指導者と共に滅びたが、ロチデールやヘッチンゴにわ、お互同志の中堅先驅者しかなかつたが、自分の組合が成功すると、その成功に優越を感じず、却つて成功を隣へ隣へと宣傳して分け、宣傳に應じて先驅の例に倣ひ起る組合と聯合して、渦巻形に伸び上つたのである。之に依て模範の實例を永續さすもの、組合相互の鞏固な聯合であるを容易に知り得るであらう。

尊徳翁も理紀之助翁も偉大であつた。しかし聯合を知らなかつた爲に、偉大な彼等の努力も昔物語に過ぎなかつた。聯合すること、そのみによつて、互に持ちつ持たれつ、生活團體が共働組合へ、共働組合が地方聯合へ、地方聯合が民族聯合へ、歴史と國粹を破壊せず、連綿と夫々の特質を續けつ、普遍を普遍へと世界聯合へまで渦巻形に擴がり行くのである。過去に於て天降式にのみ政治する

優越感を喜んだ小兒病の指導者や學者や産業組合や農會や農林當事者や、思想家も主義者もチャーナリストも、凡ての都會中心支配萬能病患者わ、深く深く反省自責しなければならぬ。

四〇 農民組合無産政黨都會消費組合

農村青年共働學校第四回開校の二日前に沼津市郊外の高田部落青年男女十五名が一泊の豫定で米や正月餅を持參して來た。雨が降り二日二晩を我等と共に暮した。終日の講義と、毎夜の坐談が二日間
の我等の生活であつた。

彼等わ高田新人會と稱する部落青年男女の殆んど全部を入れた鞏固な團體を組織したばかりである
彼等の父兄わ全國農民組合に屬し、また勞農黨にも參加し、長い間勇敢な闘争を續け、小作條件など
も静岡縣第一の好いものを獲得して、年貢わ一反に一俵か一俵半となつた。彼等の父兄わ彼等に全農
青年團を組織することを奨めるが、彼等わ反對に高田新人會を組織し、彼等の父兄をも逆に指導しよ
をとしている。その指導原理を共働規範の新しい方向に求めて、私の學校への訪問となつたのである
彼等から種々なことを私わ聞かれた。農民組合や無産政黨に對し、どんな態度を取るかと云うこと
も、彼等の質問の中の大きなものであつた。彼等わ農民組合の力に依て、非常に善い小作條件を獲得
したことを善く知つている。しかし彼等わ農民組合の力によつて、それ以上の何物も獲得できないこ

とも善く知つてゐる。だから全農青年團の代りに、より意義深い指導原理を求めて、父兄をも指導しよをと云うのである。

部落農民の生活團體と共働組合に付き、彼等わ希望の閃きを認めてゐる。けれども彼等の父兄わ其を實行するに、少し頭が古く、でなくても個人主義から本當の組合團體を自分自身を改造する氣力を缺いてゐる。十年後の前に、どをしても完全な組合團體の農業を實現せしめねばならぬと望む彼等青年男女わ、父兄をさえも指導する必要を感じてゐるのである。

農民組合から離れてわならぬと、私わ彼等に答えた。無産政黨も支持せねばならぬと私わ答えた。けれども農民組合に指導されたり、無産政黨の提灯を持たされる反對に、農民組合でも無産政黨でも彼の目的、その目的わ眞に全農民の幸福である生活團體の共働組合と其聯合の方針え、彼等と我等から指導もし利用もせねばならぬを答えた。正直に云うならば、農民組合も無産政黨も我等の前衛である。都會の勞働組合や消費組合でさえ、我等の前衛である以上の、何等の意義を持つものでわない。

消費組合を組合の爲に一厘でも安いものを買う協同の設備だと低能な錯覺をしてわならぬ。錯覺は常に反動思想であり、彼等低能な協同組合論者の消費組合萬能主義者等わ、新しい社會運動の第一線に立つと自稱する間諜か反動者か裏切り者に過ぎない。最も警戒すべき反動者わ遠い外部の敵でなく

獅子心中の陽壁に喰下る覆面の裏切者である。

純眞でなければならぬ。本統のことを本統に見詰め、もし社會運動者と自稱する者に、誤謬の低能錯覺があるならば、彼等が社會運動者と自稱するだけに、彼等を完全に誤謬から清算ささねばならぬ。消費組合わ都會の勞働者や月給取りに一厘でも安い日用品を買わす協同の設備でもなんでもなく、消費組合わ商業制度と勇敢に戦う前衛であり、聯合して自營の工場等を經營するとき、個人の營利を動機とする工業制度とさえも戦う前衛であり、決して其日々々の生活の爲に、一厘でも安い日用品を買いたい個人主義者の集合協同組合でわないのである。

勞働組合でもそをである。勞働組合を組合員個人々々の私益の爲に、より善い勞働條件を獲得さして農民よりも善い幸福な生活をさす爲の個人主義者の協同組織と思ふならば、農民に取り友達でなく、或わ敵かも知れない。都會勞働者のみが高い賃銀と多い年末賞與と、とても多額な退職手當を貰うとき、工場主の懐から、そをした支出が吐き出されるのでなく、結局農民を踏み倒して農産物の原料を安く買上げ、都會の工場製産物を農民え高く賣下けなければならなくなる。よし勞働組合の要求が工場主の懐から出されるにしても、工場主の懐にある儲けの全部わ、勞働者を搾取したよりも農民を搾取した結果であるから、勞働者が工場主の懐を狙うわ、農民を搾つた分け前を請求する足輕根性であ

る。労働組合と其幹部も、純真に自己を反省して、共働規範の永久生活を全人類の前に建設する農民の前衛闘士であり、營利主義と云う個人本位の工業制度に向い、勇敢に戦う任務のものであるを了解しなければならぬ。

一切社會運動の總本部わ、全人類永久の幸福と安定を明日より建設しよをとする農民部落生活團體の共働組合と其聯合でなければならぬ。消費組合や労働組合前衛の闘争團體であり、消費組合の戦いから反省した純真な商業制度の退却者わ、總本部の生活團體と共働組合聯合に受入れ、労働組合の戦いから反省させられた工業制度の退却者も此總本部え受入れるであろを。降る者わ悉く宥し、敵を弱めて味方を強くする戦術が太閤式たいこうしきであり、我等も此戦術に依て短い期間に四海を平定して、全世界と全人類を共働規範の幸福に導かぬばならぬ。

無産政黨と農民組合も我等の戦闘前衛である。無産政黨わ個人主義の優越感萬能政治と戦い、眞の共働團體組織を、法律の上にも制度の上にも學問の上にも、經濟の上にも藝術の上にも、全生活に徹底せしめることを目的として、過去と現在に於ける間違つた政治を訂正しよをとする闘争前衛である。無産政黨わ無産政黨の爲に存在せず、無産政治家と自稱する某々代議士候補の優越地位を保證する私的關係の爲にも存在しない。

政治わ生活の爲に存在する。正しい生活を全國民と全人類に保證する爲に政治わ存在する。だから政治わ政治の爲でなく、無産政黨も無産政黨のためや代議士候補者の私的利益の爲にわ決して存在しない。政治も無産政黨も代議士候補者も、凡てが凡て全民族と全人類の永久幸福の爲に存在するのである。農民組合も亦た共働規範の生活を建設する全人類運動の前衛であり、決して個人々々の小作人の各別な利益の共通を代表して、地代の値下げばかりを交渉する協同三百代言でわない。農民組合が勇敢に闘争して反省する地主わ、部落生活團體で寧ろ歓迎し、彼等をも一員とするであろを。一反一俵に年貢が値切られて、税金をしか拂えなくなつた地主に對し、農民組合の持つ任務わ之でしかない。農民組合を壊すな。無産政黨に投票しろ。都會の消費組合と労働組合わ善い。けれども本家本元の總本部わ部落農民の生活團體と共働組合であり、渦巻形に擴大した地方と全民族と全世界の共働組合聯合わ、最後の規範生活方式であるを善く了解しなければならぬ。農村青年男女わ、この貴い任務の爲に明日から進むであろを。

都會の指導者と指導原理わ、革命の後でなければ、どんな善いことも實行できぬと云う。官廳や會社や工場や學校や新聞社や雜誌社に縛られて、不足のある賃銀や月給を貰うをている從屬者にわ、まづ革命によつて從屬關係の鎖くさりを斷ち切らねば、どんな善いことも實行できないわ事實である。しかし農

民わ自覺しさえすれば、明日から直ぐ共働規範の建設に着手し得る。

革命の後でなければ、どんな善いことも實行できないとわ、何と待ち遠いことでないか。だから都會のお喋りわ待ち草臥れて、ジャズや麻雀やエロ気分となつて、自暴自棄な浮れ歩きをしている。餘り邪魔になると、農民わ彼等の足元へ肥液桶を轉がすかも知れない。農民わ巫山戯た彼等を待ち切れず、明日より自分自身の建設と獲得に向う。巫山戯けた彼等わ、カフィーのウキスキーでも飲み、氣焔だけわ虹の如く擧げて、革命の後でなければ何事も出来ぬと、與太のダラ幹をこき飛ばし、農作物を安く取上げ、都會商品を高く賣り渡し、高い税金と肥料代と金利で搾つて、五十億萬圓の借金を平氣で農民に背負わす。

都會の奴等わ巫山戯けた罰當りである。彼等わ百姓が嫌で農村から都會へ逃げだした農村からの落伍者である。その癖、名譽の優越の主義の思想のと、泥坊が自分免許の屁理窟を付けるよをな自己辯解をし、農民を指導しよをと巫山戯ける。剛健な農民わ都會へ落伍せず、飽迄も大地を踏み占めて、明日から農民自身の永久獲得に取り掛かるであろを。

野心家わ都會へ上つた。農村にいて鋤と鎌とを持っていて、政治がやれるものでない。無産政黨の代議士や政治家になり、政治でもやりたい者わ鋤も鎌も捨て、都會へ上る。農村に止まる者わ、ただ

農村からの貴い建設と獲得を、明日よりコツ／＼と始め得るのみである。

政治わ都會へ出た偉い人に任して置く外わない。彼等が本統のことを善く理解していれば、農民わ選舉のとき、彼等に投票するであろを。それ以上の政治負擔を、鋤や鎌を持ち毎日野良で働く農民に期待し得ると思えば、誤まつた都會イデオロギーである。

農民に國や世界の政治ができる筈わない。しかし農民わ自分の部落を、どんなにも改めることができる。部落わ農民に取り全部であり、部落の政治も教育も産業も生活も、堅く農民自身が握つて、都會指導者の何人にも嘴を入れさせない。部落わ農民に取り全部であり、その部落を農民生活團體に完成するとき、其結合が村に擴がり、其聯合が全國と全世界に擴がる。そのとき政治も學問も藝術も教育も産業も生活も、全部が全部農民自身のものとなる。

部落から村へ代表者が送られ、村の代表者のみが地方代議員を選び、地方代議員のみが國の代議員を選び、國の代議員のみが世界の代議員を選び、ポスターを貼る選舉のよをなものや、都會に巢喰う一切團體の朋黨的な幹部わ全滅するであろを。それまでわ農民わ部落に籠城し、部落農民自身の聯合を擴げて、間違つた都會の指導方針を訂正しつつ、生活團體から共働組合と其聯合へ渦卷形に自己の努力を續けなければならぬ。部落さえ農民自身の手によつて、完全な生活團體に進めば、奥山の谷川

を支える邪魔物が押し除けられて、水が下へ下へと流れ、遂に世界を聯ねる太平洋を注ぎ擴がる如く部落の生活團體が村の共働組合え、村の共働組合わ地方と民族と全世界の聯合え、何處までも渦巻型に自然の發展を遂げ、産業も生活も政治も教育も藝術も、一切のものを農民自身の手と氣持の中に取上げるであらう。自覺した農村男女の根氣よい努力のみが、明日からの貴い任務である。

四一 金融資本の總搾取

農村疲弊の原因が農村と都會の人口割合の破壊を根本として、商業取引上からの搾取、並に金融資本からの更に大きな搾取であることを述べた。金融資本からの搾取に付き、最近に『社會政策時報』（十一月號）に掲げた處を轉載しよお。

『農村わ疲弊してゐる。けれども肝腎の農村人わ、兩三年前まで其疲弊を判然と意識せずゐた。今日でさへも、まだ本當に農村疲弊が、何を意味するかを知らずゐる多くの農村人がある。これわ意外に思われよおけれども、しかし偽のない事實である。』

『私が經營してゐる農村青年共働學校でわ、入學者が來た開講の初日に面識の座談會を開く例になつてゐる。昨年の生徒わ眞劍であつたが、一昨年までの生徒わ、その中の三分の一位の者が、入學したとき農村疲弊に對し十分な自覺を持たなかつた。中にわ面識の座談會で、世間で農村疲弊と言ひますが農村疲弊とわ如何なることを言ひますかと、眞面目に聞く者さへあつた。彼等の中にわ、より善い百姓になる方法を、私から聞こおと求めた者もいた。村に行き、農村人大衆の前に農村疲弊を叫んでみ

ても、兩三年前までわ、聽衆の氣持が、なんとなく遠かつた。しかし兩三年前から、米作地方ならば昨年秋頃から、しみじみと誰もが、農村疲弊を痛感しだした。それでも、まだ眞剣でなく、呑氣に構えている者がいる。なぜなら米の相場だもの、高かつたから、安くなるのも仕方がない、しかし相場のことだから、來年になれば、また高くなるだろお、世間で農村の疲弊を喧しく言うが、我々農民に取つてわ、世間のことなど、どおでもよいわい、米さえ高ければ、藪さえ高ければ、我等農民わ、それでよいのであると、米を作る農民と、藪を作る農民とわ、結局、かく思い勝である。當局者も、米安、藪安の農村疲弊の原因を、世界的不況の結果であるから、今に景氣が直ると宣傳している。だから、米作農民と藪作農民とが安心して信賴して、來年になれば米も高く藪も高く、結局農民に取つてわ米さえ高くなれば、藪さえ高くなれば、たゞそれだけで善いので、現在苦しみながらも農村人わ、今まで眞剣になり得なかつたのである……。

『農村人わ今眞に苦しんでいる。全く金なしで非常に苦しんでいる。金が絶対にないから税金も肥料代も借金の利子も拂えずに、むろん小遣錢もなく、農村人わ非常に苦しんでいる。しかし農村人わ永い間苦しみ通して來た。歐洲戦時の好況時代を除けば、農村人が苦しまずに來たことわ、殆んどないほどに苦しんできた。苦しい筋肉勞働をして、苦しい生活をして、苦しいことにわ随分と馴らされ

て來た。相場だから、米わ安い、藪わ安い。けれども相場だから、來年から來々年から、また米が、藪も高くなる。そんなことを思わされている間わ、眞剣に農村振興わ考えられない。

『農村人自身に取り、直接の問題わ、米の相場と藪の相場である。米と藪さえ高くなるならば、農村人の爲すべきことわ、たゞ多收穫と多角形農業でしかない。そのとき、家畜でも飼ひ、草でも刈り、肥料の自給でもすれば、眞に模範の農民である。農村人わ長い間、たゞ働けど、今でも現に斯く思わされている。

『相場だもの、その相場わ土掘しか出來ぬ農民に、どおにも仕方がないと、農村人わ諦めがちである。負けぬ氣を出して、米價や藪價維持の相場の防戦買にでも手を出そおものなら、それこそ飛んでもない失敗をするに決つて居り、相場だから仕方のない運命を、あてにならない、政府の調節政策にでも任して置く外わないと、思い込まされているのが、農村人大衆の實狀である。しかし、それでわ農村問題が、農村人自身に徹底せぬ。農村疲弊と、農村振興とが、人爲でわ如何とも出來ない相場の運命に懸つて居ると思ふ間わ、その相場わ、土を掘る農村人にわ、如何とも出來ないものであるが故に、農村人わ積極的な農村振興を考え、或わその實行に着手することわ出來ないのである。農村疲弊の眞原因が何であるかを判明にすることわ、この意味に於て根本的に必要である。

「當局者の農村対策にしてもまた同様である。當局者が農村振興を支配するものわ、米や繭等々の相場であると錯誤している間わ、當局者の農村対策わ、率勢米價の設定や、米の買上げや、米の專賣や、繭に付いても、生絲の罐詰位でしかあり得ない。けれども、そんなことでわ、農村わ斷じて振興されない。今日の農村わ、六十億萬圓の借金を背負わされ、租稅わ歐洲戰時の好況時代を標準にして取られ、昔の自給自足生活わ破壊されて、凡てのものを買わされてる今日の農村に、米價と繭價によつて、農村を振興しよおと思えば、米一石を四十圓、繭一貫目を七圓にわしななければ不可能だ。しかし、そんなことわ夢である。米價と繭價とわ、どんなに人爲の調節策で高く釣上げよおとしてみても、結局、農村人に水を飲まして、たゞ生かして置き、租稅と肥料代を支拂わすに可能な程度であり農村と農村人を文化の内容に近づけて、眞に幸福に導くものでわないのである。米價と繭價による農村振興対策わ、農村人を農村人として見ず、都會搾取の對象物として農村と農村人を見るのである。當局者も斷然と米價や繭價による過去の農村振興対策を清算し、農村人を農村人として見る眞の農村振興と、農村人を文化の幸福に近付ける理論並に方法を熟考せねばならぬ。それにわ農村疲弊の眞原因から判明にすることが、根本的に必要なのである。

「農村疲弊の眞原因わ都會と農村の人口關係の破壊と、金融資本の壓迫である。世間普通の考察でわ、農村疲弊わ農産物の生産過剰から、農産物が下落したからであり、農業以外の世界的な商工業の不景氣や失業問題さえも、その根本原因に、農産物の生産過剰があり、農産物の生産過剰から、諸物價の下落と世界の不景氣を起したと觀念し勝ちである。彼等わ農産物に限らず、凡ての工業生産物まで過剰生産だから、世界が不景氣になつたと説く。もし彼等の説く所が正しければ、不景氣と農村疲弊の対策わ、生産制限であらねばならぬ。けれども生産を制限するとき、益々多くの失業者が生じ、一層購買力が萎縮して、益々不景氣と農村疲弊が深刻となり、その対策として更に再び生産を制限するとき、原因わ結果えと循環して、全人類を餓死させずにわ置かないであろお。よい加減に過剰生産の需要供給價值經濟學を清算せねばならぬ。

「農村疲弊の眞原因わ斷じて生産過剰でわない。農村疲弊わ世界の不景氣に因るが、世界の不景氣わ、過剰生産の需要供給關係から來す、それわ世界的に都會と農村の人口割合が破壊されたことと、世界的に金融資本が壓迫して、商業も工業も農業も、國の財政までが、金融資本の總搾取を受けるよおになつたことに原因している。

「まづ簡單に金融資本の壓迫關係を考察しよお。今、獨逸がそれに悩んでいる。英吉利さえも苦惱し呻吟している。之に就いて此に詳しいことを言う必要わない。現在、目前の、最も顯著な事實が、

金融資本の壓迫關係なのである。賠償金の形で八億萬圓、對外債務の利拂にも數億萬圓を、年々と取り立てられる國があれば、その國が破産せずにいられよおか。獨逸が債務の取立を勵行されるとき、國民經濟が完全に破産するのである。そのとき、債權者の英吉利もまた、深刻な打撃を受ける。その打撃が、いま英吉利を見舞おている。しかも英吉利が國債七十六億磅を有し、英吉利政府の歳計わ、其利拂の爲に危機に瀕している。

「或る人が私に英吉利が難局を切抜け得るかと聞いたとき、私わ若し英吉利が大英斷をして國債利子に對する高率な課税を斷行して、國債利子の半額以上を國庫收入に還元するならば、英吉利が難局を切抜け得るであらうが、七十六億磅の國債に對し、不勞所得の利拂をしている間わ、英吉利の國際貸借關係わ、輸出入の外國貿易に於ても、斷じて均衡が取られ得ない。なぜならば、七十六億磅に對する莫大な不勞所得の支拂を受ける階級わ、贅澤な生活を續け、それが爲に英吉利の輸入貿易額わ縮少され得ないに拘らず、その莫大な不勞所得が益々窮乏化してゆく英吉利の國民所得に對する一般課税によつて支拂われねばならぬからである。金の輸出禁止をして置いて、磅價下落の落潮時に、平價解禁をする位の技巧でわ、英吉利財政の復活を根本的にわ期待できないであらう。金融資本の壓迫こそ今や世界の大問題であり、我國の國債六十億萬圓に對し、國民が年々數億萬圓の利拂租税を負擔せ

ねばならぬことも、實わ大きな問題なのである。それ以上に問題なのわ、そおした幾億萬の不勞所得を取る階級が贅澤な都會生活をして、それを疲弊せる農村人に見せびらかすことである。一體、その不勞所得の税金わ誰が結局に於て負擔するのか。

「之に就いて私わ餘り多くを言わないことにする。しかし統計數字に就いて少し言うならば、國際聯盟統計年鑑による列國商業銀行預金わ、昭和三年度に於て（單位百萬圓）

日 本	九、二一六
米 國	八六、七三四
英 吉 利	一二、二六九
獨逸（五大銀行）	三、五五一
佛蘭西（九大銀行）	三、七四四
伊 太 利	一、八一二
白 耳 義	一、四七〇
和 蘭	七四八
瑞 西	一、八四五

「これだけを合計しても千數百億萬圓が世界の經濟生活を壓迫している。之を我國に付いて見ても最近に於ける全國銀行預金高わ百二十億萬圓を超え、信用組合の貯金や、保險會社の積立金や、信託會社の信託財産や、郵便貯金や、無盡會社や、個人の高利貸附資本まで計算に入れるときわ、必らず二百數十億萬圓の金融資本が國民經濟を壓迫している。是等の金融資本を貸してわ預り、其預金を貸してわまた預り、例えば某大銀行最近の業務報告書を見ると、期末貸付現在高三億萬四千圓に對し、當期貸付高わ十五億八千萬圓であるが故に、我國金融の總資本約二百五十億萬圓わ、少なくとも年二回の二重に運轉されていて、即ち五百億萬圓が平均一割の金利を吸収するとして、年額實に五十億萬圓を、商人工業家並に農村人より絞り上げているのである。我國農産物全部の價額が年額二十五億萬圓であるに比べて、金融資本の不勞所得が五十億萬圓であるを思うとき、眞に慄然たらざるを得ないのである。

「五百億萬圓の金融わ何人を絞るのか。金融資本わ商人を絞り、工業會社を絞り、また農村人を絞る。しかし、商人わ絞られながらも、また消費者を絞る。即ち商人わ單に絞る取次をするだけであり結局の被搾取者わ消費者である。消費者の中にわ、勤勞者階級があり、また勤勞者階級があり、勤勞者階級わまた工業會社からも絞られて、工業會社もまた金融資本への忠實な搾取の取次をしている。だから今日に於て、眞に搾取する者わ金融資本のみであり、商人や工業會社わ、搾取の忠實なる取次機關でしかない。だからマルクスの剩餘價值認識わ、此の點に於ても大きな訂正を要することを、拙著『マルクス資本論嚴正批判』に忌憚なく指摘して置いた。

「消費者わ搾られる。その中にわ勤勞者階級と勤勞者階級がある。勤勞者階級わ工業會社よりも、また勞銀の上に於て搾られる。勤勞者階級わ二重搾取を受けているのだ。しかし結局の被搾取者わ果して勤勞者階級や勤勞者階級であらうか。否、農村人のみが、今日に於て結局の眞の被搾取者なのである。勤勞者階級も、勤勞者階級も、搾取の誘導管となりかけた。此に農村疲弊の眞に根本の原因がある」

この次に私わ都會と農村の人口關係を論じ、眞に搾取を蒙るものわ農村人のみであり、勤勞者と勤勞者となつて、搾取の誘導管であることを證明した。之わ重複となるから省略する。その代り最近の新聞紙に發表された米國の金融事情を簡略に附言しよ。

本年一月九日の新聞わワシントン電報による米國上院銀行及び通貨委員會の報告を掲げている。そ

の報告によれば、過去一年間に於ける米國の信用不安前代未聞であつて、之が爲に一般人わ保險證券を質入して保險會社より金融を受けねばならなくなり、その結果多くの保險會社わ、保險契約者からの、そおした金融申込に應ずるため、値下り有價證券を以つて無理な金融をなし、これを保險契約者に融通すると同時に、有價證券値下りの損失をも補填せねばならぬ立場となつた。今度の恐慌以來閉鎖された銀行の數わ非常な巨數に上り、昨年中のみにても、二千二百九十行に達したとのことである。

この報告に依ると、世界一番の金貨國北亞米利加でさえ、一般人わ葬式費用の生命保險證書を質入してわ小遣錢を作らねばならぬほど苦しくなり、世界の金貨を掻き集めた合衆國のその金貨わ、財閥の大金融資本團に集中し、その他のものわ、保險會社でも小銀行でも、また會社や工場や商店や農場わ勿論のこと、凡てが凡て大都會の大金融資本から總搾取されているのである。世界わ今や金貨國の亞米利加に於てさへも、金融資本が凡てのものを總搾取している。

四二 過渡期の對策

政治に對する農村人の立場を前々章で述べた。繰返えして之を言うならば、政治わ都會え出た偉い人に任して置く外わない。彼等が本統のことを善く理解していれば、農村人わ選舉のとき、彼等に投票するであろお。それ以上の政治負擔を、鋏や鎌を持ち毎日野良で働く農村人に期待し得ると思えば誤まつた都會イデオロギーである。政治を革新し、政治を改革する位のことわ、無駄飯食いの都會人が全人類に對する彼等自身の責任であるを、農村人も都會人も善く了解せねばならぬ。

政治を萬能と思ひ、それほどでなくも、政治を一番偉いことに思い誤まる都會人わ、農村人が政治を理解せず、また政治に冷淡であるを非難するが、考えても見給え、毎日鋏と鎌を持つて、草の生えないよおに土と作物とを見詰めねばならぬ農村人が、また毎日三度々々飼葉を與えなければ、馬でも牛でも鶏でも死んでしまふ綿密な家畜の管理をせねばならぬ農村人が、政治の爲に彼方此方と飛び行けると思ふか。君等わ餘程の大馬鹿である。も少し農村と農村人の何者であるかを、少しわ善く考えねばならぬ。

都會の無責任者等わ、政治を革新し、政治を改革する位のことわ、都會に巢食^{ヒドク}う無駄飯^{ヒドク}食いの、彼等自身の當然な任務であることを知らずにいる。そして農民が農村人が政治を理解せぬなどと巫山^{ヒドク}けている。鋏と鎌を持つ農村人わ、とても忙しいぞ。一日も家を離れて彼等と一處に騒ぎ廻ることわ、共働農業とならぬ前にわ出来ないことであるぞ。また農村人にわ、國と社會の基礎である部落と村を共働の根本に建設し直す大きな責任があるぞ。都會で法律規則を發表する政治位わ、都會人が全責任を負擔せねばならぬことであるぞ。政治に對する農村人の立場わ、「我等わ村治を守り中央の政治に付てわ、農本組織の實現に忠實なる者に投票す」。之ぞ農本聯盟期成會の掲ぐる政治綱領であり、農村人わ村の政治に付いてわ、少しも都會人の支配を受けず、自己の力で全責任を負うけれども、都會に於ける中央の政治に付いてわ、都會に在る都會人の純眞に信賴し、之を彼等に一任してやるのが、農村人の寛大な責任分擔觀念なのである。しかし政治に當る都會人わ、都會プロレタリアの支配など自惚れて、自分等の爲に勝手な政治が出來ると錯覺してわならぬ。政治わ凡て全人類の生活に眞理と最善を實現する爲であり、即ち農村を基本にしての全人類の爲に政治をするのであるから、農村人わ農本組織の實現に忠實な都會人にのみ投票するのである。

投票こそ、農村人の責任とする唯一の中央政治に對する關心である。それ以上のことを鋏と鎌を持

つ農村人に期待するわ、農村と農村人を知らない錯誤である。農村人わ共働規範の農本組織の實現に忠實なる者のみに投票する。投票された者わ、共働農本組織を法律制度の上に實行する責任を持つのである。これが眞に正しい政治理論であり、この政治理論に従うときわ、都會人わ被選舉權わあるが、労働者でも選舉權わなく、選舉權わ農村人男女のみが持つべきものとなる。寛大に都會労働者等にも選舉權が與えられている以上わ、労働者其他の都會人わ、よく勉強して農本共働の大理想を理解せねばならぬ。

法律を萬能と思おてわならぬ。法律を萬能と思もう處に、政治を萬能と思もう錯誤が生ずる。法律わ只だ障害を除くだけであり、法律によつて障害が除かれたとき、眞に共働の農本組織を實行する者わ、鋏と鎌を持つ農村人である。障害の多い過渡期に於いてわ、之を除く政治と法律が必要である。けれども之が爲に、政治と法律を萬能と思おてわならぬ。過渡期に於てわ、政治と法律以上の直接行動も必要であるお。けれども之が爲に、直接行動萬能の誤謬に墜てわならぬ。政治も法律も直接行動も、凡てが凡て共働の農本組織を實現する手段であり、政治や法律や直接行動わ過渡期に於て共働の農本組織を妨害する障害を排除する。それも必要である。しかし其等の障害わ都會の政治に蟠^{ヒドク}かまる。都會の政治に蟠^{ヒドク}かまる其等の障害を排除することわ、知識階級や労働者等々の都會人の責任で

あるわ、當然すぎる當然である。愚な錯覺をして、凡ての苦しい責任を農村人に轉嫁する卑怯なことを都會人わ言うてわならぬ。農村人わ最根本となる部落共働と其聯合組織の實質を建設する苦しい大努力に忙しい。都會の政治を革新する位の責任わ、苦しくても汝等都會人の任務であると知れ。

しかし之が爲に都會プロレタリアの支配などと、飛んでもない錯誤をしてわならぬ。よし都會プロレタリアが政治革新に成功しても、汝等の階級利益の爲に其に成功したのでわない。農村を基本としての全人類の爲に其を成功したのである。汝等に與えられる汝等の分業責任を盡して、何を汝等わ餘分な報酬に貪り求めるか。古い搾取を打破して、新しい搾取を汝等わ求めると言うのか。都會プロレタリア支配の思想わ斷然と誤謬である。こおした種類の都會思想の誤謬に付き『日本農制史談』卷末に私が掲ぐることを再掲しよお。

「全人口の六割乃至八割を都會人が占める日本や英吉利等に於て、もし都會労働者を中心として共産主義を實行するならば、結果わ全く意外の大混亂に終わるに驚くであろお。試に思え、日本や英吉利が共産主義革命を斷行し、世わ都會労働者の支配となり、盛に鐵工業、造船業、織維工業等々を運轉し、高級賃銀を支拂ろおて彼等に贅澤をさし、最も短時間の最少労働をさすならば、果して幾ヶ月の作業を續け得るであろおか。都會諸工業の製造品わ凡てを賣らねばならぬ。一體都會の共産労働黨

わ、何人に其製造品を賣ると言うのか。支那え？ 印度え？ だから君等わ飛んでもない錯誤をしてゐるのだ。君等わ結局大きな國家資本主義で、強民族が弱民族を大搾取せねばならなくなる。其が不可能であつたとき、君等わ都會知識階級、サラリーメン、商人、遂にわ過剩の失業労働者さえも、富豪資本家と共に、無殘な總虐殺をせねばならなくなるであろお。私わ斷然と君等の都會中心主義に反對する。全人類が農村を基本として、工業と商業わ、農村共働組合の聯合が管理するとき、始めて天下わ凡て彼此なき大同となり得る。

「專制ファシストよ、君等の義氣わ宜いが、しかし制度のことに付き經濟のことに付き、實生活と人間性の眞實に付き、正當で確實な理解を握つていない君等が、政府と議會を倒した處で、さて君等わ如何なる政治を行うと言うのか。君等の純眞な者わ、農村のことわ農村通に一任すると言うかも知れない。諸君が内務、大藏、遞信、商工、文部、鐵道等々の大臣を占領し、農務大臣だけわ、農村通に遣らすと言うかも知れない。もし私にと言うならば、私わ言下に辭退する。大江廣元わ鎌倉の農務大臣でわなかつた。政治の全體が農村を基礎にするとき、始めて日本と世界が改まる。

「農村基本の全人類運動のみが正しい。農村基本の全人類運動わ共働と共用を基本にして、始めて天下を大同にし、全人類を自強自治の永久安定と、濃厚な物質文明、並に、人間各自の完成に導き得

る。それ以外の改革は断然と嬉息である。逆に改悪でもある。……

「けれども共産主義者やファシストは新しい大海人王となつて、天下を取るを急ぐであらう。野心に燃える彼等に、其野心を放棄することわできない。廣元も互に争う武人の兇習は、之を如何ともし難しと諦らめた。理窟は如何様にも付く。しかし、結局は、共産主義者もファシストも、権力と野心を争う兇習武人である。眞に人間意識に徹底して目醒める者、身を致して必らず一切の野心を放棄し、中大兄王の如く事を身後に期する方向を取るであらう。之は狭い野心に燃える兇習武人に出来ないことである。だから共産主義者やファシストが、急いで天下を取るならば、左の基礎方針を實行し、我等は彼等に之を突き付ける。之を假りに農本令と名付ける。民政黨や政友會の諸公も、眞に權勢を善用せんとするならば、各自の良心で之を考へるが宜い。

農本令草案

等一條 將來の貨幣單位を人間勞働とする準備を以て、政府は紙幣十億勞以内を發行し得るものとす

一勞は一圓に通用するものとす。但し兌換せず。

第二條 農地は左の標準價格を以て國に返納し得るものとす

田	一反	二百圓	畑	一反	五十圓
山林	一反	三十圓	原野	一反	十圓
宅地	一反	三百圓			

返納地に定着する物に國に歸屬するものとす

農地返納者破産法の規定に従い政府は交付金を提供して債務を免がれ得るものとす
但し公權を停止せず

第三條 勞價紙幣は前條の返納交付金に充當す

勞價紙幣が返納交付金の支拂に不足するときは、政府は四分利勞價公債を發行して之を交付するものとす

第四條 農地返納者が部落内に於ける他の者と共働して農地を共用せんとするときは、田畑に付て收穫物の一割を公租とし、山林に付て四分の一の面積の國有林を管理する條件を以て返納地並に之に定着する住宅其他の物を使用し得るものとす
共働耕作は國有林野又わ公私有林野を開墾して共用し得るものとす

共働共用に關する規定を別に之を定む

第五條 前條の公租わ田に付てわ米、畑に付てわ小麥、又わ大豆を以てすべし。其品質わ穀物検査の合格品たることを以て足る

收穫物の種類に應じての公租數量算定や公租納入の方法等わ別に之を定む

第六條 國の田畑に付き市町村わ公租の二割、府縣わ其一割を收得するものとす

國、府縣、市町村の會計わ歳入に依つて歳出を定むべきものとす

第七條 官吏、公吏、傭人其他の者に對する勞務報償、恩給並に年金の類わ支拂額の三割以内を米、一割以内を小麥にて支給し得るものとす。此場合に於ける米及び小麥の價格わ勞務報償恩給年金等を定めたる當時の時價を標準として別に之を定む

第八條 農村部落わ農家一戸の耕作地が平均五反となるまで其府縣出身者が都會より歸農するを拒み得ざるものとす。但し林野開墾の耕作地わ之を算入せず

部落が共働耕作を爲す場合にわ歸農者わ其一員たらしむべきこと

「鎌倉幕府が永續しなかつたことわ、廣元の計畫の中に自治農村の聯合を認めて、之に依る自強の基礎を固めなかつたからである。彼わ武人が互に争ふ兇習を如何とも爲し得なかつた。

「破壊わ易いが、建設わ難い。無理解に軍閥ファシストが破壊すると、廣元のいない鎌倉幕府が出現する。それわ足利幕府であり、徳川幕府である。我等の任務わ、彼等が破壊する前に、彼等に眞の理解を與えることである。

「都會と農村の人口割合が破ぶれ金融搾取が猛烈となつた今日と今後でわ、行詰りが愈々深刻となり、我等の生活わ一層苦しくなる。世界の行詰りわ、過剰生産からでも、生産行程に於ける單純な資本主義の搾取からでもない。都會と農村の人口割合が調整せられ、また金融搾取の關係が消滅する迄わ、我等の生活わ年々と益々苦しくなることを覺悟して、自己と兄弟と友人と農村人と順次に全人類を、眞に正しく眞理と最善を理解することのみが、永久を決定する終局唯一の方針であるを、斷然と正しく確認せねばならぬ」

過渡期に於ける對策として、少しく農本令草案を解釋しよお。その第一條わ規範經濟學並びに經濟學確認の原理に基いて、貨幣制度を改革する準備の規定である。今日の大弊害わ金を偏重し、金を惜愛して、土地も人間も生活も、凡てを其犠牲とすることに出發する。世界の金が大量に集中する米佛に於てさえ、民衆わ貧乏して生命保險證書さえも質入せねばならぬ。抑も貨幣わ價值計算の單位であり、また單に交換を媒介する要具である筈なのに、今や金本位の貨幣わ、金の禁輸とか解禁とかと騒

いで、價值計算を混亂に墜らし、金貨の價值單位の資格を失ない、また逆に金貨が一方に集中して、交換を杜絶し、生活を壓迫することとなつた。この弊害を見せ付けて、また金融による大搾取關係をも出現した以上、根本的に貨幣制度を大改革する必要がある。その方法、規範經濟學並びに經濟學確認の原理に従い、人間労働そのものを價值單位とする外なく、然るときわ、之を標章する労働切符を假に紙幣と看做して差支なく、その發行權を過渡期に於てわ政府が持ち、またそれわ當然に不換紙幣であり、政府が之を發行して、政府わ第三條の方法により、之を一般の流通に移すことにする。但し外國で金貨が流通して居る間わ兩本位制とし、國外の支拂わ圓貨の金を以つてする。しかし、この第一條わ農本令の骨子を爲すものでわない。其骨子わ土地解放と農家負債の消却にある。

農本令の骨子わ第二條以下である。第二條わ農家負債の整理を目的とし、農村人わ農地を一定價額に依つて國に返還し得ることを規定する。農地を國え返還すれば、國よりの交付金を以つて農家わ負債の全部を、破産法の規定により免かれ得ることとする。しかし公權を停止しない。之わ昔の徳政と同一の結果を擧げんとするものである。それにわ、農村人も自己の生活を危険に墜れない方法で、所有權の全部を辨債に提供することを、公平な責任觀念とするから、斯くの如く規定せんとするのである。けれども其結果として、土地の兼併や、土地私有制度から發生する種々な永久の弊害を未然に防

ぐ爲め、土地を國に返納し、國わ一定の價額を支拂うこととする。

銀行制度の發生した今日、單純な徳政わ行い得ない。なぜならば、銀行も個人も、債務があると同時に、預金がある。だから債務の單純な棒引わ、却つて個人を苦しめて、銀行の金融資本家を喜ばすであらう。それならば、預金や生命保險の權利のみを有効にし、銀行や保險會社の貸金のみを無効にしよおか。然るときわ、凡ての銀行と保險會社わ破産し、銀行預金と保險契約わ支拂停止で無効となり、民衆の迷惑わ少しも救われない。こおした事情から、徳政と同一の結果を現代に實行する方法か第二條である。しかして第一條の勞價紙幣わ、農地返還者に對する政府交付金として一般の流通に移すのである。但、勞價紙幣わ今日の兌換紙幣流通高を標準として十億勞を限度とせねば、人間労働と紙幣價值との一致を破壊する虞があるから、大事を取つて發行限度を十億勞に制限し、政府交付金の不足額わ、四分利の勞價公債を發行し得るものとする。四分利としたのわ、過渡期にわ金利を認めるからであり、之を四分利に制限したのわ、負債のない地主階級までが農地を返還することを獎勵しない爲である。負債のない地主階級わ、無條件で部落の共働組合え土地を投資することが獎勵される。

第四條以下わ部落共働農業の實現に關する獎勵規定であり、之ぞ農本令の眼目である。之に依れば農地返還者わ土地の所有權を失なうが、しかし土地の使用權わ完全に持つてゐる。但し個人の專用わ

許さず、部落共働に於てのみ、土地も建物も一切のものを、殆んど無年貢同様にて完全に使用し得る。その上に共働農業の参加者わ、國有や公私有林野も必要に従い開墾し得るから、土地わ悉く農村人に開放されて、土地私有より起る一切の弊害が根本から除かれるのである。今日の法律に於て土地所有者が持つ所わ、單に所有權の名義であり、その爲に借金して金利に苦しみ、また重き租税の負擔に苦しんでいる。金利と租税の苦しみを一掃し、土地所有權以上に有り難い使用權の永久確認をするのが農本令なのである。農村共働が唯一の規範でありながらも、今日に於て之を實現し得ない障害わ、土地の所有權であり、また部落の人々の間に負債額を相違している貧富の懸隔であるが、土地を返納して借金を整理してしまえば、部落農村で共働と共用を妨げる一切の障害がなくなり、また農本令で土地を返還した農村人わ、共働共用の農業を爲すときに於てのみ、返還地を使用し得るから、農本令の實施わ即時に全國の部落共働を實現せしめることとなる。農本令の眼目が此に在る。

第四條乃至第七條に於ける公租の規定に付いてわ多く説明するを要しないと思もう。理論から言えば、所得税や消費税や關稅を都會人並に負擔する農村人が、土地と生産に對し特別に課税される理由わなく、土地生産の農業收穫に課税するならば、月給取りや勞働者にも、收入の一割か二割を天引課税して、その上に所得税等々を負擔さねばならぬ筈である。だから、農業土地に對する課税わ、農

業のみが産業であつた昔の遺物でしかない不都合のものであるが、農本令わ暫く從順に土地收穫の一割を物納することを承認する。それ位でわ國の財政が持てぬと言うであらう。今日わ農業なぞわ政治家の眼中にないから、宜しく國の財政の歳入わ都會の商工業から大に取るがよい。それに従い都會わ衰弱し、農村と都會の人口割合も徐々に訂正される。農村を保護して、都會を徐々に眞綿で首を締めらる如くするのが農本令なのである。かくて都會人わ農村に歸えらんとするであらう。そのとき、第八條の規定によつて農村人わ之を歓迎することとする。

第六條わ國と府縣と市町村の會計わ歳入に依つて歳出を定むべきものとする。之わ財政方針を我國の古制に復せしめたものであつて、西洋輸入の財政學原理が、出づるに依つて入るを制すべしと教える錯覺を訂正し、一國の財政と雖も、入るに依つて出づるを制せねばならぬことを教え改める。それにわ貨幣本位の租税でなく、物納を加味し、従つて役人の俸給等にも、古代の如く現物渡しを考慮に置く必要が起つて來るのである。

政治わ無用でない。しかし我等が政治に對し要求する全部わ、農本令の確定である。それ以上に、餘り多くを政治に期待せず、最も大きな努力を、農村部落の共働と其發展に盡さねばならぬ。それわ農村人のみが爲し、都會人にわ出來ない。都會人に出來ることわ、農村共働の障害を排除する農本令

制定の政治運動である。都會に巢食う者等わ、自分に出來る政治のみを萬能と錯覺し易いが、農村人にわ政治以上に爲さねばならぬ農村共働そのものゝ建設に付いての重大使命がある。之わ農村人も都會人も、よく理解せねばならぬ。之に反し農村人が既成政黨や無產政黨を無條件に支持したり、農村と全人類のことを思わぬ我利我利共產主義者や、個人自由のアナーキストや、權勢の餓虎である和製ファシストの走狗となることを、農民の政治運動であると錯覺する誤認識わ、悉く之を訂正して總清算せねばならぬ。

四三 農家負債の整理

農家負債の整理わ當面の農村問題中の重要なものである。その對策の當否わ影響するところの範圍が頗る廣いから、單に農村疲弊の救済と言う一點だけより見ずに、廣く影響する所の結果を精査しつゝ、結局に於て農村を基本とする安定と幸福の社會生活を確立する見通しの下に、農家負債の整理をしなければならぬ。こおした立場から、我等の對策を提出する前に世上に論議されている農家負債の整理案に付いて、簡單なる批評を爲す必要がある。世上に論議されている農家負債の整理案にわ、借金棒引とインフレーションに依る平價切下と、負債整理組合を設けしめて低利資金の肩替りを爲す方法がある。また一時の應急策として、支拂猶豫即ちモラトリアムが主張されている。

借金棒引即ち徳政案 往々にして識者の口から借金棒引の聲を聞く。昔は屢々徳政なるものが行われた。徳政とわ借金棒引である。之を今日に於ても行い、農家負債の整理を爲すべきでわあるまいか。昔に於ける徳政わ、高利貸の追求を免かれしめる爲めであつた。しかも徳政わ、重に時の政府の負債を整理するが目的であり、特權者の支配階級人が高利貸より多額の負債を生ずるとまた徳政が行わ

れた。果して今日に於ても徳政を行い得るのであるおか。露西亞に於てわ革命後之を行い、最近の支那に於ても南京政府わ之に類したことを行のおた。國家財政が窮乏する終局に於てわ、遂に徳政類似のことを行わなければならぬであるお。しからば、農家負債整理の爲めにも、徳政即ち借金棒引を爲すべきか。

政府財政の諸關係わ別として、民間金融の貸借わ昔と異つて複雑となり、銀行や保險や信用組合等の諸機關が發達し、株式や諸債券類の發行と、之を擔保とする貸借が交錯し、昔の如く民間相互の債務にまで徳政を行なうことの結果が、果して高利貸のみの負擔に於て、一般庶民の幸福を齎らすかわ頗る疑問となつた。徳政、即ち借金棒引わ高金利の追求を否認して、庶民一般の生活を擁護するが目的であり、もし今日に於ける借金棒引が、その結果を擧げ得ざるものとすれば、徳政の借金棒引わ支持され得ないものである。

今日の民間經濟關係に於て借金棒引の徳政を行えば、果して何人が其恩惠を蒙むるのであるおか、借金棒引が債務の總否認であれば、不動産や有體財物を所有する者が、最も恩惠を蒙むる。地主は借金を棒引されて、無條件な地主となり、家主や商店や工業家や、凡ての所有階級は微笑する。株式會社も完全に蘇生し、株主の權利、即ち株式のみを有効として株式を擔保とする債權を無効とすれば、資

本階級わ株式の暴騰と二重の恩惠に感泣するであらう。また貸金と同時に預金が無効となれば、銀行其他の金融資本家わ、貨幣や株券や土地建物等の所有物だけが正味財産となり、凡ての有産階級に幸福が照り渡る反對に、無産階級わ依然たる無産階級であり、對立する有産階級と無産階級との間に、その日より再び高金利の貸借關係が開始されることとなる。理性ある今日の社會に、この種の不合理的果して許し得るか。また貸金と同時に銀行預金までの棒引無効わ、幾多の悲惨な絶望的縊死者を續出せしめることであるお。しからば農家負債に付いてのみ借金棒引を爲すか。その時は地主階級にのみ幸福が來り、小作階級の門前にわ永久に貧乏神が立つ。眞に善き農家負債の整理わ、一人の縊死者をも出さず、また貧富の差別を消滅せしめて、社會問題發生の根本原因をなくせしめるものでなければならぬ。貧富を懸隔せしめる根本原因あつての故に、農村に五十億圓を超える負債が生じた。その根本原因を放任して置いて、負債のみを整理する一切の政策わ、その翌日より再び農家負債を生ぜしめて、幾年かの後に再び農村と社會を混亂に墜らしめる一時の氣安めでしかない。

インフレーションと平價切下 原因を放任して置いて、單に現在の借金を整理せしむる最も皮相の盲目案を、紙幣を亂發して貨幣價值を下落せしめ、その下落貨幣價值に應じて貨幣法を改正し、所謂平價切下げを爲さんとする政策の主張とする。之わ臆面もなく政友會關係者の主張する所であり、彼

等わ紙幣を濫發して通貨を膨脹せしむれば諸物價の騰貴を來し、忽ち景氣が恢復すると共に土地價額も騰貴し、他方に於て貨幣價値わ下落するから、その下落した貨幣價値により負債を支拂わすと言ふ呑氣な主張をする。

必要以上に通貨を膨脹させば、貨幣價値の下落となるであらう。その結果わ忽ち輸入諸貨物と株式を暴騰せしめる。投機者わ一時の暴利を擲む。お蔭で苦しむ者わ一般民衆であり、輸入原料品による綿製品や洋紙類や鐵製品等々わ高價となつて消費者を苦しめる。けれども、貨幣價値の下落につれて、農産物や土地が暴騰するかわ疑問であり、恐らく金輸出再禁止の時に見たと同じ結果がインフレーションにも付き纏い、國內需要の諸貨物の價額わ、購買力に支配されるが故に、インフレーションに依つて、収入が激減した俸給生活者や労働者の購買力が萎縮する結果わ、農産物の價額を割合に於て騰貴し得ざらしめるであらう。

インフレーションに依つて先づ苦しむ者わ俸給生活者と賃傭労働者である。その實質的收入増加を圖る爲め俸給令を改正し、或わ賃銀の値上げを爲せば、その全負擔わ結局に於て農村と農村人に轉嫁される。また國庫の租稅收入わインフレーションの結果から實質的に激減して、増稅わ避け難く、ただ々大混亂が經濟界を騒がす以外に何の効能もない。農家負債わ其に依つて整理されても、逆に農

村と農村人わ四苦八苦のドン底に投げ込まれるであらう。

負債整理組合と低利資金借換 負債整理組合を設けて、低利資金の借換えをなさしめることも、有産階級の保護に偏重する。否、それわ寧ろ金融資本家のみの保護であり、しかも結局に於て國稅による金融資本家の損害填補となる。この亂暴なる愚案を持ち出す者を民政黨とする。

農村が借金を背負おて斯くも疲弊した誘因となつたものわ、政略的な融通である。その融通を受けた農村人わ、無自覺に其を費消し、借金のみが利子を加えて今日に残つた。かゝる政略の非を尙お悟らずに、連帶保證以上に責任の重い負債整理組合を作らして之に國庫金を融通し、高金利の金融資本家の負債を金融資本家に何等の損失なく、元利金を皆濟せしめんとする露骨な金融資本家擁護案が、負債整理組合による低利資金の借換え肩替りである。

嗚呼、提出される案も案も、悉くがみな有産金融階級の保護であつて、農家負債の整理を口實とする有産階級者の救濟を斯くも社會狀勢の險惡なる今日、彼等わ尙お反省することなく主張するのである。低利資金借換えわ農家に取つても低金利の利益ある如きも、負債整理組合によつて農家わ永久に國家の債務者となり、農家の負債は依然として残り、少しも農家負債の整理とわならぬのである。

支拂猶豫のモラトリアム案 以上提出された諸案に比すれば、支拂猶豫のモラトリアムわ、借金農

家に好都合である。たゞ其實行が果して可能であるかゞ疑われ、よし實行が可能であつても、農家の地位を高めて安定と幸福の新農村を建設するに、役立つかわ疑問である。

全般的なモラトリアムを恐らく實行不可能である。しかし低利資金の如き國庫金や特殊銀行の融通金に對してのみの支拂猶豫は當然のことであり、自治農民協議會の請願運動の眞意も此程度のものである。我等が支拂猶豫のモラトリアムに依つて農家負債が整理されて、農村生活に安定と幸福そのものが出現すると輕信することなきよお、簡単に全般的なモラトリアムの實行不能なる所以を述べることよしよお。

全般的なモラトリアムを行えば、關東大震災直後に經驗した如く、債權の取立と同時に預金の引出しが不能となり、銀行や信用組合に預金している者も、忽ち銀行や信用組合や高利貸等から、新たに高金利の借金をせねばならぬことになり、今までの借金や支拂猶豫でも、また其日から借金が出來、即ちモラトリアムを却て金融資本業者の地位を擁護して、農村人を益々苦しめる結果となるから、社會問題解決の爲めにわ、決して行ふべきものでない。しからば預金の引出しのみを認めて、借金の取立てのみをモラトリアムとするか。それでわ銀行でも信用組合でも忽ち事實上支拂停止をせねばならぬことになり、結果わ一般的なモラトリアムを斷行したと同じこととなる。結局モラトリアムを、そ

れ自身が農家負債の支拂延期でしかないが故に、我等わ此に農家負債の根本的解決案を提出せねばならなくなつた。

農家負債整理の根本解決案 農家負債の整理を爲すと共に、農家に負債を生ぜしめた根本原因をなくし、かつ眞理と最善の規範生活としての部落農業の共働經營を實現に導く方法わなきか。これぞ我等の求むる唯一の時局對策である。

一、農家に對する債權を此際一時に請求せしめ、債務者わ生活用品を除きたる全財産を提供することに依りて一切の債務を免かるゝものとす。此際請求せざる債權を凡べて拋棄したるものと看做す。

二、農家わ其提供したる不動産に付いて永久使用權を得るものとす。但し提供地使用權者の轉貸による中間搾取を防ぐ爲め、部落農業を共働經營とし、其地代わ收穫の一割として一切の租税を免除す。

部落農業の共働經營に對してわ、未開墾地の解放、家畜購入資金の低利供給等の便宜を與ふ。

本案こそわ農家負債を一舉にして此際全部消滅せしめ、しかも負債を發生する根本原因を無くして直に眞理と最善の部落共働農業に入らしむるものである。かつ本案わ窮乏せる國庫に對し何等の支出

を要求せず、所有階級や金融資本家に特別の恩恵を與えることもなく、當然なる自然の解決を爲すものである。また本案を金融業者に取つても、收奪土地の價額を債權と同額に記帳せしめ、帳簿の上に赤字を生ぜしめることなく、即ち金融界當面の混亂を避け得るものである。

本案に依れば債務者の生活用品以外の全財産を提供して債務の辨済に充當する。之れ債務者として當然のことであり、債務のみ棒引をして貰ひたい財産を其儘所有してゐたいと言ふ利己的な主張でないのである。我等の知る限りに於て、負債ある農村人の財産を提供して借金の整理をするを希望し、債務のみ免かれて財産を失なわずに所有して欲しいと言ふ我利々々主義者の殆んど居ないのである。たゞ農村人の苦惱を現行法制の下に於て負債を整理すれば、例えば破産を申出るにしても、保證の地位に立つ親戚や友人に迷惑を及ぼすから、破産したくも破産出來ず、即ち死ぬにも死なれず、生きるにも生きられない苦しい境遇にいるのが、借金農家の現實な悩みである。生活用品を除いた全財産を提供して債務を免かれるわ、實に眞面目な農村人の心からの願望であり、土地や家屋を所有する者わ其土地や家屋を提供し、土地も家屋も持たない小作人ならば、生活用品以外の物を何なりと提供することに依つて、有産者も無産者も、農村人わ悉く此際債務を免かれることとするのである。

農村人が土地を提供すれば生活の方法を失なう。破産したくも破産できぬ理由の一が之である。故に本案でわ、土地を提供した農村人わ、所有權を失なう代りに使用權を永久に留保する。土地の永久使用權さえあれば、農村人の生活の確實に保證され、却つて法律上の所有權を持たぬ方が厄介離れして安穩である。而して借金農家が全財産を提供し債務を免かれると地主と小作人の區別がなくなり、此に部落農業の共働經營が可能となるのである。負債を無條件に整理することわ、こおした最善社會への進行を遅延せしめるから、負債の整理わ土地問題と農村社會根本形態の問題に結び付けて解決せねばならぬ。

債務を負う地主階級が土地を提供して負債を整理すれば、彼の生活わ自作農以上に困難となる。自作農わ土地を提供すると同時に、直に小作人となることができるが、地主階級わそれさえ出來ない。地主わ土地を小作に出してあるが故に、土地を提供して自身が其土地の小作人となるにわ、豫め小作人より土地を引上げなければならぬ。それわ小作人に取り致命的の打撃であり、心ある地主に出來ないことである。よし小作人から土地を取上げた處が、果して彼に小作農としての勞働ができるであらうか。この二つの悩みを解決する方法が、部落の共働農業である。部落の人々が、土地を提供した地主も其小作人も、共働して其土地を利用し、互に生活の安定を圖るわ、之れぞ實に美わしき窮乏時に於ての至高な人情の流露でわないか。人類愛とわ、相互扶助とわ、こおしたことを言うのである。

而して、そこから全く新しい眞理と最善の規範社會が出現し始めるのである。農家が負債に苦しむ今日こそ負債の整理を條件として、眞理と最善の規範社會を創建するに千載一遇の好機會である。

農家負債整理の爲めに土地は提供さすが、使用權を留保する。この場合に土地使用料を制限せねば金融資本家獨り榮えて、全農村が枯死を免かれぬ。此に於て小作料の標準を定めることとする。小作料として農家の耐え得る負擔の極限を我國古來の法制に依つても收穫の十分の一であり、歐洲の諸法制もまた十分の一税を標準としていた。本案も之に従い土地使用料を收穫の一割とする。しかし、それでわ土地所有者が地租を支拂い得ないが故に、此種土地の租税を免除せしめることとする。我國の國庫收入七億六千萬圓の中、六億圓以上が間接税の收入であり、直接税の收入は僅少であつて、その中、地租の總額六千萬圓に過ぎない。その全額を免除しても國庫收入の激減とわならず、間接税の收入を増して之を補うが容易である。間接税は消費者大衆が負擔し一見惡税の如きも、消費を支拂能力に應ずるものであるから、必需品を除いての間接税は惡税でない。最大の惡税は農産價格の下落した今日と將來に於て、農業土地より取る地租である。宜しく地租を全廢し、租税は各種間接税と所得税と資本利子税と相續税のみとせねばならぬ。若し強いて地租を取るならば、俸給生活者より俸給税を取り、賃銀收入者より賃銀税を取らねば、租税公平の原則に反する。農村人のみが所得税と間接税を

負擔する以外に生産税に比すべき地租を支拂らうことにより、都會に比し農村の負擔が過重となるのである。況して部落共働農業は産業組合と同様の精神に立脚するにより、此點よりするも共働經營土地の租税を免除するが當然である。また斯くなれば、收穫の一割を地代に取る金融資本家も、地價に對し相當なる利廻りとなる。その利廻りを金利の標準として、一般に低金利政策を取るべく、その成功は我國産業の繁榮となり、また唯一に確實な土地價格の維持策となるのである。而して地租全廢の結果、共働經營以外の土地の小作料をも收穫の一割を原則とせしめ、地主對小作人の關係をも根本から改善せしめるのである。

斯く土地提供者が收穫の一割を小作料として支拂らい、永久に土地を使用し得るが故に、部落の共働農業を條件とせねば、土地使用權者も轉貸に依る中間搾取をなし、之が爲め小作料の一般標準が低下するを妨げ、且つ中間搾取の不法を認容することとなる。之れ極めて不都合のことなれば、ぜひとも部落の共働農業を條件とし、尙ほ共働農業部落に對してわ公私有の未開墾地を解放し、或わ家畜購入資金を低利に融通する等の方法により、負債を整理したる後に於て可及的な助成をするが、農村振興の眞面目な對策である。

部落共働農業 個人農業にわ缺陷がある。商工業に付いて資本主義打倒を叫ぶ者が、農業に付いて

個人資本主義を是認するわ、何たる矛盾であることよ。個人農業わ資本主義經營のものである。プチブル・イデオロギーの自作農主義者わ、時代に目醒めて善く反省せねばならぬ。

共働農業に依つて、一切が新しき發展をする。部落の人々が共働に農業するとき、耕地わ整理されて、道路に屈曲がなくなり、山の上にもまで緩傾斜の循環道路が出来、作業わ多人数の分業にて機械や家畜を最有効に利用し、なんと愉快で心強いことよ。分業であるから、適者が適任の仕事をし、地主でも不具者でも農業が出来だす。作物に應じての作業わ、部落第一の篤農家が主任となり、多收穫が凡ての作物に付いて實現し、しかも部落の共働農業であるから、家畜の飼糧でも自作し、従つて金肥を極度に減じて厩肥の類を豊富に使い、部落の土地を最有効に利用する處から自然と多角形となり、高く賣れる收穫物わ賣り、高く賣れないものわ部落で消費し、又わ自家製作の工業原料とする。多人数の共働部落だから、各種の工業も成立し、多角形の工業農村わ自給自足を恢復して、その基礎の上に有利な交換をする。共働であるが故に、作業能率わ顯著に擧り、過剰勞力を纏めて山岳原野の開墾や植林や、有ゆる方面に於て農村が生き／＼と復活する。眞に農村を蘇生せしめるものわ共働農業であり、農家負債の整理わ共働農業の實現を條件とするものでなければならぬ。

個人主義でわ不安が伴なう。播種期や其他の時期に病氣でもすれば、また人手の少ない家の忪が徴兵にでも出ると、全く家族生活が混亂に墜る。部落共働農業わ此種の生活不安の一切を消滅せしめ、眞に人類愛の相互扶助を實現する。また個人農業でわ、一反に十貫か二十貫の軽い金肥を使う事を餘儀なくされ、飼糧まで自作しての有畜自給肥料の農業經營法わ、共働でなければ決して之を行うことが不可能である。特に次三男問題を思うとき、また土地制度の諸問題を思うとき、共働農業以外に斷然と其解決策わないのである。何處の低迷者が共働農業を排斥して個人農業を主張するか。彼等わ農業の實際を知らざる反動資本主義の机上觀念論者である。

土地制度との關係 共働農業に對する抗議わ、土地制度に關する點と、我國古來の法制わ戸を基礎とする其習慣を破ぶると言う固陋の反對である。土地制度から共働農業に反對する理由わ、古來の歴史に於て農民が土地の所有權を離れて幸福であつたことがないと言う抗議である。我國の歴史に於ても、閥族が土地を兼併した時代にわ、農民が窮迫して必らず亂世が出現した。羅馬に於ても同様であり、戰爭して外國を征服する間に、羅馬平民わ負債に苦しんで土地を奪われ、貴族が土地を兼併した結果わ、貴族と平民の大衝突となつた。佛蘭西革命も土地制度の破壊に起因し、レーニン一派が露西亞民衆の人望を獲得したのも、戦線の兵士に故郷に歸えれ、土地を興えると宣言したからであつた。だから農村人わ古今を通じ土地の所有權を渴仰し、土地所有を離れて農村人の安定と幸福わないかに

見える。しかし、それわ外形を見て内實を見ざる偏見である。我國古來土地に對する所有權の觀念なく、大化革新も所有權を與えずに使用權を與えた。永久の土地使用權さえ保證すれば、所有權わ問題でない。土地使用の事實が不安であるが故に、所有權を要求する。使用權さえ永久に確定すれば、所有權なぞ實わ何處に在つても宜いのである。明治維新の際、耕作者に土地所有權が與えられると、却つて彼等わ田一反に酒一升を附けて、所有權を辭退したのである。

個人土地使用權、それわ誠に不安定である故に、部落共働の聯結土地使用、これほど安全な耕作權確立の方法わない。今までわ斯うしたことを知らなかつたから、土地所有權を有難いと思おた。しかし所有權とわ土地を處分し賣買し質入することの自由であり、それわ必ず土地の兼併に導く。羅馬、佛蘭西、露西亞、我が王朝時代の混亂も、實わ土地兼併の爲めであり、土地使用權を確認して、土地兼併の野心を乘じ能わざらしむること、實に農村生活安定の最根本條件である。この内實を知らず、たゞ皮相の見解から土地所有權や自作農主義を振り廻わすわ、言を土地所有權に借つて、何らか自己優越感の満足を圖らんとする個人資本主義の反動者である。

次に戸を本とする我國古制度よりの反對に答えよ。經濟の組織が單純であり、各戸で各別に自給自足した昔わ、戸を本とする個人農業が當然であつた。國際間の交通が盛となつて分業經濟の大規模

産業の今日に於て、農業のみ相變らず戸を基礎とせよと言わ、餘りにも時代と經濟學に對する無知の告白である。他の産業に共働聯結の大規模を認めながら、農業のみを各戸の獨立小農經營とせねばならぬ理由わ斷然とない。個人農業を固執する者わ机上の觀念歴史家か、或わ農村人の結合を恐れる舊式官僚と制度家である。また山岳原野の利用や有畜多角形の農業を個人經營に依つて爲し得ると夢みるならば、全くの都會インテリである。共働農業のみが此等の諸問題と同時に次三男問題や、地主と小作人の關係や、一切の農村問題を總解決する。

都會インテリ最後の逃げ場わ、農業經營を個人主義とし、作業や販賣や購買や加工の類を協同にせよと説くことである。彼等を協同組合主義者とし、我等わ共働 (Koopero) を標榜して、彼等とわ根本認識を異にする。作業の類のみを協同にして、共働分業の利益を辛おじて擧げ得ても、個人經營でわ共同による結果の餘剩勞力を利用することが出来ない。此にわ略して説かないが、眞理と最善の經濟學に依つて、生産要素の最有効利用、併びに生産剩餘の資本化に關する精密なる研究を爲すとき彼等の誤謬わ一掃されるのである。試みに思え、收穫について利害の共通なき共同作業が、綿密な注意に於ての多角形多收穫農業を可能に爲し得るか。それわ全く體驗なき者の空論である。机上に觀念や空論を捏ね廻わさず、體驗を基礎として、事實可能なことを研究せねばならぬ。農業に限らず、凡